番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
215	石鏃	集石 覆土	2.7	1.7	0.4	1.53	完存	サヌカイト	平基無茎。
216	石鏃	集石 覆土	2.5	1.4	0.3	1.35	完存	サヌカイト	円基無茎。
217	石鏃	集石 覆土	(2.4)	1.3	0.5	(1.62)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
218	石鏃	集石 覆土	(1.8)	1.2	(0.3)	(0.97)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
219	石鏃	集石 覆土	2.8	1.1	0.3	0.72	完存	サヌカイト	凸基有茎。
220	スクレイパー	集石 覆土	2.3	4.3	0.9	9.16	完存(?)	サヌカイト	下辺に両極打法による刃部形成。
221	スクレイパー (?)	覆土	1.9	4.3	0.7	4.50	完存(?)	サヌカイト	上辺は裁断面。 左、右辺、下辺も両極打法による刃部形成。
222	スクレイパー	集石 覆土	5.9	3.8	0.6	15.5	完存(?)	サヌカイト	下辺に両面調整による刃部形成。
223	打製石庖丁	覆土	12.2	4.1	1.2	80.1	完存	結晶片岩 (石英片岩)	片面自然面。原礫より剥離したものの両端に抉りを入れ、刃部は細かい調整を与えずに鋭い縁辺を利用。
224	打製石庖丁	集石 覆土	8.4	3.1	0.7	30.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり。
225	打製石庖丁	集石 覆土	(5.4)	(4.6)	(1.1)	(48.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
226	打製石庖丁	集石 覆土	(4.4)	(2.4)	(0.4)	(8.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。
227	打製石庖丁	集石 覆土	(6.4)	(5.1)	(0.7)	(40.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
228	石鎌	集石 覆土	(11.4)	3.2	1.0	(53.0)	先端欠損	結晶片岩 (石英片岩)	基部上下辺に抉りあり。
229	扁平片刃石斧	集石 覆土	6.3	3.7	1.0	51.0	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	ほぼ全面研磨。
230	叩石	集石 覆土	9.8	6.9	2.2	262	完存	キリョク岩	小判形の自然石、片面に筋状の敲打痕、下端にも敲打痕。
231	砥石	集石 覆土	(8.1)	(5.9)	(4.1)	(241)	欠損	砂岩	被熱。 一面に弱い砥面。
232	砥石	集石 覆土	(9.5)	(9.0)	(7.2)	(700)	欠損	砂岩	自然面に弱い砥面。
233	砥石	覆土	18.1	14.1	6.0	216	欠損	砂岩	被熱 自然面の一面を弱い砥面とする。

第17表　SB1011　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
234	弥生土器 壺A_1	覆土	口径15.2	直立する頸部からゆるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。	口縁部外面は、タテハケのちヨコナデ。	1～3㎜ 大砂粒含	(外)橙 (内)赤	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				口縁端部はわずかに肥厚させ、平坦におさめる。 口縁部に、円孔を2孔・3孔交互に施す。 焼成前穿孔で、内から外に貫通させている。	頸部外面はタテハケ。 頸部と体部の境に一部ヨコハケを重ねている。 口縁部内面はナデ。 頸部内面は、左上りハケ、ヨコハケの痕跡をのこすが主にナデ。 内面に粘土紐痕をのこす。	石英 チャート		
235	弥生土器 壺A_1	覆土	口径16.8	外傾気味の頸部から、屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	頸部外面、タテハケのちナデ。 内面は剝離激しいがナデと考えられる。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
236	弥生土器 壺	P-7 覆土		体部から直立する頸部へのゆるやかな屈曲点にあたる。断面三角形の貼付突帯が一条巡らされる。	突帯周辺はヨコナデ。 頸部に一部タテハケが観察できる。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 チャート	(内)橙 (外)赤褐	
237	弥生土器 甕A_1ロ	覆土	口径16.6	内彎気味にたちあがる体部から屈曲して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部はわずかに上方に拡張、端面を平坦におさめる。	内外面ともにナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	灰白	
238	弥生土器 甕A_2ロ	覆土	口径27.5	内彎する体部から鋭く屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は上方に拡張し、端面に2条の凹線を施す。	口縁部を含め体部内面はナデ。 口縁部外面、体部上端部はヨコナデ。 体部にはタテハケの痕跡を観察できる。	1㎜大砂粒多量含 石英 角閃石	浅黄橙	搬入土器 (讃岐)

第18表　SB1003　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
239	打製石庖丁	覆土	(4.9)	(4.5)	(0.8)	(24)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部に抉りあり。

第19表　SA2001　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
240	弥生土器 壺A_1ホ	P-1 覆土	口径20.5	頸部から大きく外反する口縁部。 口縁端部を下方に拡張し、(折りかえし?)端面をわずかに凹面に仕上げる。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
241	弥生土器 壺B_1	P-1 覆土	口径21.6	やや開き気味にたちあがる頸部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
242	弥生土器 壺A_1a	P-1 覆土	口径10.8	直立する頸部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、竹管文を施す。なお図化不能であったが、体部上半にも竹管文の施された部分がある。	口縁部内外面ともヨコナデ。 頸部外面はタテハケ、内面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	灰白	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
243	弥生土器 壺	P-1 覆土	底径13.2	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は部厚い底部から、直線的に外方へたちあがる。	体部外面タテハケ仕上げの部分と、ナデ仕上げの部分がある。 底面および内面はナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 砂岩等	(内) にぶい橙 (外)灰白	
244	弥生土器 壺	P-1 覆土	底径16.8	底部は平底を呈す。 部厚い底部。	底面、外面ナデ。 内面ユビオサエ、ナデ。	1～10㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	赤	
245	弥生土器 壺(?)	P-1 覆土	底径8.4	底面は上げ底を呈す。体部は内彎して外方にたちあがる。	体部外面は剝離のため不明。体部内面も剝離のため、主な調整は不明であるが、ユビオサエ痕を残す。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤橙	
246	弥生土器 壺	P-1 覆土	底径6.0	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎気味に外方にたちあがる。	底面および体部外面は皮状工具によるナデ。 内面は体部最大径付近、底面にユビオサエ痕をのこすが外面と同じ原体によるナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	赤	
247	弥生土器 壺	P-1 覆土	底径8.2	部厚いほぼ平底の底部から、内彎してたちあがる球形に近い体部。	底部内面にユビオサエ痕が確認できる他は、内外面ともナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 泥岩	橙	
248	弥生土器 壺	P-1 覆土	底径5.7	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部はわずかに内彎気味に外方にたちあがる。 底部端に対面して2孔ずつ斜めに穿孔(焼成前)を施す。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	
249	弥生土器 壺	P-1 覆土	底径7.7	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎して外方にたちあがる。 底部端に、対面して2孔ずつ斜めに穿孔(焼成前)を施す。	内外面ともにナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)暗灰黄 (外)橙	
250	弥生土器 甕B_1イ	P-1 覆土	口径13.0	わずかに内傾する体部から屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面とも剝離激しく不明。	1～4㎜ 大砂粒多く含 結晶片岩 石英	(内)橙 (外)橙	251と同個体
251	弥生土器 甕	P-1 覆土	底径6.0	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	内外面とも剝離のため不明。	1～6㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	250と同個体
252	弥生土器 甕A_1ニ	P-1 覆土	口径18.1	内彎気味にたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部はやや丸くおさめる。	口縁～体部外面はナデ。 内面は剝離のため不明。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	P-4に同個体と思われる土器あり
253	弥生土器 鉢(?)	P-1 覆土	底径7.9	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はわずかに内彎して、大きく外方にたちあがる。	体部外面はヨコ方向ナデ。ていねいに仕上げられ、一部ミガキのように観察できる。 底面はケズリ。内面は底面にユビオサエ痕のこすが、主はヨコ方向ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黄 (外) にぶい橙	
254	弥生土器 蓋	P-1 覆土	径20.3 厚1.2 孔径0.4	円盤状を呈し、対面に2孔ずつ穿孔(焼成前)されているものと考えられる。	表裏面ともナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(表)浅黄 (裏) にぶい黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
255	弥生土器 壺A′$_1$	P-2 覆土	口径12.1	内彎する体部から、やるやかに屈曲して頸部、さらにゆるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は損傷しているが丸みをおびた形状となっている。	口縁部～体部外面はナデ。 内面は、体部上端部にユビオサエ痕多数残るが、他はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)黒褐 (外)橙	
256	弥生土器 壺B$_1$ae	P-2 覆土	口径25.7	外彎してたちあがる頸部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、端面から口縁部外面にかけて刻目を施す。頸部下端にも、刻目圧痕文を施す。	口縁部外面ヨコナデ。 頸部外面はナデ。 内面は剝離激しいがナデによるものと考えられる。	1～6㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	
257	弥生土器 壺(?)	P-2 覆土	底径8.1	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	底面はナデ。体部外面は剝離激しいが一部にタテヘラミガキの痕跡をのこす。 体部内面は、底部にユビオサエ痕をのこすが、他は剝離のため不明。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) にぶい黄橙 (外)橙	
258	弥生土器 甕A$_1$イa	P-2 覆土	口径26.6	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、刻目を施す。	外面はナデ。 内面は剝離のため不明。	1～4㎜ 大砂粒多く含 結晶片岩	橙	
259	弥生土器 壺	P-3 覆土		体部から屈曲してやや開き気味の頸部をもつ。	内外面とも剝離激しく不明。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄褐	
260	弥生土器 壺C$_1$	P-4 覆土	口径18.0	内彎してたちあがる体部からゆるやかに屈曲して直立する短い頸部。 その頸部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。	口縁部は内外面ともにヨコナデ。頸部外面は板状工具による横方向ナデ。 体部内外面、頸部内面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
261	弥生土器 壺E″$_1$	P-4 覆土	口径13.0	直立する頸部からわずかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部の上端面は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面はナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	橙	
262	弥生土器 壺	P-4 覆土		内彎する体部からゆるやかに屈曲して、やや開き気味に立つ頸部につながる。 頸部からさらにゆるく屈曲して外反する口縁部につながると考えられる。	内外面ともに剝離のため不明であるが体部上半内面に顕著なユビオサエ痕をのこす。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	にぶい褐	2次焼成で変形・変質か。
263	弥生土器 壺	P-4 覆土	口径(8.4)	内彎気味の筒形の体部から小さくくびれて外反する口縁部をもつ。	内外面とも剝離。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	灰	2次焼成で変質変形か？
264	弥生土器 壺	P-4 覆土	底径10.4 体部最大径 25.7	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがり、最大径付近で内彎する。	体部外面上半は剝離のため不明。体部下半はタテヘラミガキ。底面はナデ。 体部内面はナデ。 底面にユビオサエ痕が明瞭にのこる。	1～4㎜ 大砂粒含	(内)暗灰黄 (外) にぶい橙	
265	弥生土器 甕A$_1$ニ	P-4 覆土	口径18.1	内彎気味にたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は丸くおさめる。	口縁部・体部の内外面ともナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明赤褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
266	弥生土器 壺B_1イa	P-4 覆土	口径24.4	内彎気味にたちあがる体部から屈曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、刻目を施す。	口縁部および体部外面上端はヨコナデ。 体部外面はタテハケのちナデ。 内面は剝離のため不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
267	弥生土器 壺C_1	P- 1、2、4 覆土	口径16.5	内彎する体部からゆるやかに(内面では稜をもって)屈曲し、短い頸部は外反して口縁部につながる。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部は内外面ともヨコナデ。頸部外面はタテハケの部分と、ナデによる部分がある。 頸部内面、体部内外面はナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 結晶片岩	橙	P-1、2、4 接合
268	弥生土器 壺A_1ホ	P- 2、3、4	口径21.4	頸部から大きく外反する口縁部。 口縁端部を下方に拡張し（折りかえし)、端面は凹面を施す。	内外面ともナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内) にぶい黄橙 (外)橙	胎土に植物粒(種子？)を含む P-1、2、4 接合
269	弥生土器 壺	P-2、4 覆土		内彎してたちあがる体部。 頸部境より連続して、櫛描直線文、波状文2条、円弧文を巡らす。	外面ナデ。 内面ユビオサエ	2～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙色	P-2、4 接合

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
270	小型方柱状片刃石斧	P-4 覆土	6.4	1.1	1.4	(20.0)	一部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	

第20表　SK1008　出土遺物観察表 (SK1008は遺構掘削時に4分割　北西A、北東B、南西C、南東をDとする。数字は、取り上げ番号)

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
271	弥生土器 壺A_1	B-6・10 覆土上面	口径11.2 底径5.8 体部最大径18.5 器高29.7	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は、内彎してたちあがり、断面楕円形を呈すが歪みがある。屈曲して直立する頸部から、さらに屈曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部はまるくあいまいにおさめる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 頸部は外面タテヘラミガキ。 内面タテ方向ナデ。 体部は外面、中・上位はタテハケ。 下位はナデとおもわれるが一部タテハケ、タテヘラミガキが観察できる。 内面は、ユビオサエが上位・最大径付近、底面に目立ち、あとは強いユビナデによる。 外、底面はナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒 (外)明赤褐	
272	弥生土器 壺A_1	B-13 底面	口径11.8 底径7.8 体部最大径22.0 器高35.1	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は、内彎してたちあがり、最大径が中位にある断面楕円形を呈す。口頸部は体部から屈曲して外彎し、ラッパ状に開く。 口縁端部はわずかに肥厚し、平坦におさめる。	口縁部外面ヨコナデ。 頸部内外面ともタテ方向を主とするナデ。 体部外面上端部は、ヨコ方向を中心とする板ナデ。中・下半はタテヘラミガキ。 内面上半はユビオサエ、中位は板ナデ。下半は板ナデおよび強いユビナ	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい赤褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				デ。内底面はユビ、あるいは板のオサエのためにかなり乱れている。				
273	弥生土器 壺A_1	覆土	口径14.8	内彎してたちあがる体部から、ゆるやかに屈曲してほぼ直立する頸部。 口縁部は、ゆるやかに屈曲して外反する。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部は内外面ともにヨコナデ。 頸部内外面とも剝離のため不明。 体部外面はナデ。 内面は、体部中位に多数のユビオサエ、上位はユビナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	明黄褐	
274	弥生土器 壺A_1a	B・D-8 覆土	口径14.9	半球形に内彎してたちあがる体部上半。頸部は屈曲して直立し、口縁部はゆるやかに大きく外反する。 口縁端部は、平坦におさめ、刻目を施す。	口縁部・頸部は内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。 内面はユビオサエ、ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 長石	(内)にぶい黄橙 (外)橙	体部内面ヘラ描き記号(?)逆「く」の字。
275	弥生土器 壺A_1a	A・D-13・8 覆土	口径14.2 底径5.6 体部最大径20.1 器高31.6	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり断面楕円形をなす。 頸部は屈曲して、開き気味にたちあがり、口縁部はゆるやかに外反し、ラッパ状を呈す。口縁端部は平坦におさめ、線状の刻目を施す。	口縁部外面ヨコナデ。 内面は剝離のため不明。 頸部内外面ともにナデ。 体部は、外面はナデ、内面は上半部ユビナデ。 下半はナデ。底面もナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒褐 (外)橙	
276	弥生土器 壺A_1adg	C-1 底面	口径15.0 底径7.7 体部最大径23.3 器高31.0	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、中位の最大径のやや張る、算盤玉に近い形態をなす。 頸部はゆるやかに屈曲して直立し、それにつづく口縁部はゆるやかに大きく外反する。 口縁端部はやや肥厚するが平坦におさめる。 口縁端部にヘラによる刻目。頸部裾に指頭圧痕文突帯1条、体部中位、刺突列点文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ。体部上半はタテハケ、中位はヨコヘラミガキ、下位はタテヘラミガキ。頸部内面はナデ、体部内面上位はユビオサエ、中位はヨコハケ、下位はタテハケ、底面にユビオサエ痕。	1～8㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
277	弥生土器 壺F_1	C-15 覆土	口径13.0 底径7.8 体部最大径21.7 器高33.1	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、歪みがあるが基本的に断面楕円形を呈す。 口頸部は屈曲して、やや内彎気味に、外反するが、口縁端部は平坦におさめる。 頸部外面に断面三角形の突帯を2条巡らす。	口頸部内外面ヨコナデ。 体部外面上位にタテハケが観察できるがあとは剝離のため不明。 内面および底面はナデ。	0.5～4㎜大砂粒含 石英 黒雲母 長石	(内)黒 (外)褐	搬入土器 (讃岐)
278	弥生土器 壺A	C-2 覆土	底径5.0 体部最大径13.9	底面はわずかに上げ底。 体部は、最大径部分が強く張る、算盤玉に近い形態。 頸部はやや開き気味にたちあがり、屈曲して外反する口縁部につながる。	頸部外面はタテヘラミガキのちヨコナデ。 体部外面はタテヘラミガキ。 頸部～体部上半内面は、絞り痕、体部中位はユビオサエ、下半はヨコ方向ケズリ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)褐灰 (外)にぶい橙	半分黒斑
279	弥生土器 壺	覆土	底径7.6	底面は、わずかに上げ底を呈し、底部端はまるくおさめる。 体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	体部外面はタテ方向ナデ。 内面は、ヨコ方向を中心とするユビナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
280	弥生土器 壺	B－6・8・11・12 覆土	底径6.3	底面はわずかに上げ底、底部端はまるくおさめる。 体部は内彎して大きく外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～9㎜ 大砂粒多量含 石英 結晶片岩	橙	
281	弥生土器 壺(把手)	覆土	長12.4 長径3.4 短径2.8	断面、楕円形の円柱状を呈す。 壺の頸部裾から、体部上半に縦方向についていたものと考えられる。中空である。	壺体部は、タテヘラミガキ。 把手は、全面タテヘラミガキで、接着部は、ユビないし、ヘラ状工具で、おさえる。	0.5～4㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
282	弥生土器 甕A_1ニ	B-8 覆土	口径13.4	内彎してたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 端部は、損傷のため正確な形は不明であるが、現状からは、丸くおさめられているようである。	内外面ともに、剝離のため判然としてないが、ナデによるものと思われる。	1～3.5㎜大砂粒多量含 石英 結晶片岩	(内)にぶい橙 (外)明赤褐	
283	弥生土器 甕A_1ロ	B 覆土	口径17.3	内彎してたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部は、やや強いヨコナデにより上方に拡張する。 端面は、やや丸くおさめられている。	口縁部内外面ともヨコナデ。 体部外面は、上端部でタテヘラミガキのちヨコナデ。 以下タテヘラミガキ。 内面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 長石	灰褐	搬入土器 (?) (讃岐)
284	弥生土器 甕A_1イ	A-13 覆土	口径20.8	内彎する体部から「く」の字状に大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部の形状は損傷により、不明確であるが他の甕の形状から考えて、平坦におさめるものであろう。	口縁部および体部外面は剝離のため不明。 体部内面はユビオサエ痕をのこし、ていねいにナデを施す。	1～7㎜ 大砂粒多量含 石英 結晶片岩	橙	
285	弥生土器 甕A_1ニ	B-7 底面	口径17.8 底径5.6 (孔径1.2) 体部最大径21.5 器高32.5	底面はわずかに、上げ底を呈し、焼成前に穿孔。 体部は内彎してたちあがり、最大径は上位にあるイチジク形を呈す。 口縁部は「く」の字状に鋭く屈曲し、外反する。 端部は、やや丸くあいまいにおさめる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 体部外面、上端はヨコナデ。 上半はタテハケ下半はタテヘラミガキ。 底部外面ユビオサエ、底面ナデ。 体部内面上半はユビオサエ・ナデ。 部分的にタテハケの痕跡のこす。 下半は、タテ方向を中心とするナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐	
286	弥生土器 甕A_1ニ	B-7 底面	口径24.6 底径7.3 体部最大径28.2 器高(38.7)	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、最大径は、やや上位にある、イチジク形を呈す。 口縁部は「く」の字状に鋭く屈曲し、外反する。 口縁部は、平坦だが、あいまいに仕上げる。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 体部外面上位はナデ、中位はタテヘラミガキ、下半は剝離のため不明。内面はナデによる。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 チャート	橙	
287	弥生土器 甕A_1イ	C-14・15 底面	口径22.1 底径8.2 体部最大径27.5 器高37.9	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎して、たちあがり、最大径は、やや上位にあるイチジクに近い形を呈す。 口縁部は「く」の字状に屈曲し、	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面上端はナデ、以下タテハケ。 底面ナデ。体部内面上半は左上り、ナナメナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				外反するが、その角度はやや小さい。 端部は平坦を基本とするが、ややあいまいである。	下半はタテ方向ナデ。 原体は板またはユビ。 内底面は、肥厚させ、ユビでていねいにナデる。			
288	弥生土器 甕A_1イ	B-8 底面	口径32.0	内彎してたちあがる体部から、「く」の字状に鋭く屈曲して、外反する口縁部をもつ。口縁端部は、平坦におさめる。	口縁部内外面は、ヨコナデ。 体部外面は剝離激しいが、内面はタテ方向のナデによる。	1～7㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)暗灰黄 (外)橙	
289	弥生土器 甕A_1ハ	B-5 底面	口径26.9 体部最大径 32.0	体部は内彎してたちあがり、倒卵形を呈す。 口縁部は「く」の字状に鋭く屈曲して外反する。 体部上端にナデによるわずかな段をもつ。 口縁端部はやや肥厚し、平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面上位はナデ、中～下位は主に左上りナナメ方向のミガキ。 内面中・上位は左上りナナメハケ、下位はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	口縁一部に煤付着黒斑あり。
290	弥生土器 鉢A	A-4 底面	口径26.0 底径8.8 器高15.6	底面は平底を呈す。 体部は内彎して外方にたちあがり、半球形をなす。 口縁部はゆるやかに屈曲して外反し、端部はまるくおさめる。	口縁部内外面ユビナデ。 体部外面は、ヨコヘラミガキのち、左上りナナメヘラミガキ。 体部内面および底面はナデ。	1～5㎜ 大砂粒多 量含 石英 結晶片岩	明黄褐	
291	弥生土器 高杯A	B 底面	口径24.1	脚台部から、内彎して外方にたちあがる、半球形の杯部。 口縁部は屈曲して外反する。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 杯部内外面ともにナデ。 杯部底は、円盤充填法による。	1～7㎜ 大砂粒多 量含 結晶片岩 石英	赤橙	剝離のため調整不明

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
292	石槍	炭化物上	(6.7)	(4.0)	(2.0)	(59.09)	先端・基部欠損	サヌカイト	両極打法による成形。一部擦痕あり。
293	スクレイパー	C-1 覆土	6.4	3.4	1.3	23.27	完存	サヌカイト	下辺に両極調整により、刃部形成。
294	打製石庖丁	覆土	(9.8)	(3.7)	(0.6)	(31.90)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両面に自然面のこす。端部抉りあり。 両極打法による粗い成形、刃部形成。
295	打製石庖丁	B-7	9.8	(2.8)	(0.6)	(26.52)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
296	石鎌	D-4 覆土	7.8	2.9	0.6	12.90	完存	結晶片岩 (石英片岩)	下辺のみ両面調整(?)による刃部形成。

第21表　SK1014　出土遺物観察表(遺構掘削時に中央に畦をのこして掘削。北半をA、畦B、南半C、調査区壁面Dとする。)

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
297	弥生土器 壺A_1	A 覆土	口径10.4	半球状に内彎してたちあがる体部。頸部は屈曲して直立しゆるやかに屈曲して外反する口頸部をもつ。 口縁端部は、平坦におさめる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 頸部・体部外面はナデ。 頸部内面から、体部上半は、絞り痕のこす。体部中位はユビオサエ。 粘土接合痕を内面にのこす。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)褐色 (外)灰黄褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
298	弥生土器 壺A_1	A 覆土	口径9.5 体部最大経 13.0	半球形に内彎してたちあがる体部。頸部は屈曲して、やや開き気味にたちあがり屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、まるくおさめる。	口縁部内外面ともヨコナデ。頸部内面ナデ。体部外面は左上りナナメヘラミガキを施すがナデ優勢。体部内面は、板状工具によるナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	(内)明赤褐 (外)橙	
299	弥生土器 壺A_1	C 覆土	口径11.7 体部最大径 18.8	半球形に内彎する体部上半。頸部はやや開き気味にたちあがり、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面はナデ。内面はユビナデ。 体部外面はタテヘラミガキ。 体部最大径付近で上半の単位と下半の単位が接する。内面はユビオサエ。強いユビナデ痕が多数のこる。	1～7㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
300	弥生土器 壺A_1c	D 覆土	口径18.7	内彎する体部から、屈曲して直立する頸部。 口縁部はゆるやかに屈曲して大きく外反する。 口縁端部は、やや丸味をおびた平坦面に仕上げる。 頸部裾に断面三角形の貼付突帯を巡らす。	口縁部内外面ともヨコナデ。 頸部・体部外面ナデ。 頸部内面はナデ。体部内面は強いユビナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
301	弥生土器 壺A_1	A・B 覆土	口径11.0 底径6.2 体部最大径 18.5 器高(21.8)	底面は、平底を呈す。体部はわずかに内彎気味に外方にたちあがり、最大径付近で大きく内彎する。 体部から、ゆるやかに外彎して直立する頸部。 さらに屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁端部は平坦におさめる。	全面に剝離が激しく詳細不明であるが、口縁内外面はヨコナデ。 頸部内外面タテ方向ナデ。 体部上半は、一部タテハケ状の痕跡が観察できるが、不明。最大径付近も、ヨコ方向に調整されているようであるが、不明。 下半はまったく不明。内面は、底部にユビオサエ。あとはナデによるものと思われる。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黄褐 (外)にぶい 橙	
302	弥生土器 壺A_1	A・B 覆土	口径14.6 底径7.0 体部最大径 19.1 器高30.4	底面は欠損のため不明。 体部は内面にたちあがり、倒卵形を呈す。 頸部は、ゆるやかに屈曲して、ほぼ直立し、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁部はまるくおさめる。	口縁内外面ヨコナデ。 頸部外面擦痕のはっきりのこるヨコナデ。内面タテ方向ナデ。体部外面上半ヨコ方向ナデ。 下半タテヘラミガキ(?) 内面上位はユビオサエ。 中～下位はナデ。	1～3㎜ 大砂粒少 量含 石英	(内)黒褐 (外)橙	
303	弥生土器 壺A_1g	A 覆土	口径15.3 底径6.6 体部最大径 20.5 器高28.3	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎してたちあがり断面楕円形を呈す。 頸部はゆるやかに屈曲し外彎してたちあがる。 口縁部は頸部につづき、大きく外反する。 口縁端部は平坦におさめる。 体部・最大径よりやや上位に2列の刺突列点文を施す。	口縁内外面ヨコナデ。 特に口縁部内面に強いヨコナデ。 頸部外面タテハケだが、下端はヨコナデで消える。 内面タテ方向ナデ。体部外面、上位はタテハケ、中位はヨコヘラミガキ、下位はタテヘラミガキの部分とナデの部分とがある。 内面上位はユビオサエ、ナデ。	0.5～2 ㎜大砂粒 含 石英 結晶片岩	赤橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
					中位は部分的に左上りナナメハケ、下半は、タテ方向板ナデ。			
304	弥生土器 壺A_1ad	C 覆土	口径22.0	内彎する体部から、屈曲してやや開き気味に直立する頸部につながる。 口頸部はさらにゆるやかに屈曲し、外反する。端部は、やや下方に拡張しふくらみ気味におさめた端面には、右上りナナメと下半に垂直な二種の刻目を同時に施す。 頸部下端には、うすい指頭圧痕文突帯をめぐらす。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部・体部内外面ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙	
305	弥生土器 壺A_1ad	D 覆土	口径20.7	内彎する体部から、彎曲して、大きく外反する口頸部をもつ。 口縁端部は、肥厚し、端面を平坦におさめて、刻目を施す。 頸部端には、うすい指頭圧痕文突帯をめぐらす。	口縁部内外面ヨコナデ。 とくに上面に強いナデが入る。 頸部・体部、内外面ともにナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	褐	
306	弥生土器 壺A_1ad	B 覆土	口径18.1	内彎する体部から、屈曲して、開き気味に直立する頸部。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して大きく外反する。 口縁端部はわずかに上下に拡張し、平坦におさめた端面に、刻目に施す。頸部端にはうすい貼付突帯をめぐらし、逆D字形に大きく刻む。	口縁内外面ともにヨコナデ。 頸部・体部、内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
307	弥生土器 壺A_1dg	C・D 覆土	口径15.5 底径8.1 体部最大径 21.6 器高29.6	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、断面楕円形を呈す。 頸部は屈曲し、外彎にたちあがる。口縁部は頸部につづき大きく外反する。 口縁端部はやや肥厚し、端部は平坦におさめる。 頸部下端に逆D字の圧痕文を施す貼付突帯、最大径付近に2つ単位の刺突列点文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面タテ方向ナデ。 体部外面上半はタテハケ、およびナデ。 最大径の下位はヨコヘラミガキおよびナデ。下位はタテヘラミガキ。内面、最上位、最大径付近、底面はユビオサエ痕、顕著であるがタテ方向板ナデを主とする。 一部にタテハケの痕跡あり。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
308	弥生土器 壺A_2bd	B 覆土	口径22.6	やや開き気味に、たちあがる頸部からゆるやかに屈曲して大きく外反する口頸部をもつ。 口頸端部は肥厚させ、3条の凹線を施す。 口縁部上面には、2条単位櫛描による斜格子文がみられ、頸部下端は、圧痕文突帯をめぐらせる。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面はタテ方向ナデ。 内面は、中位にユビオサエ痕が並び、ヨコ方向ナデで仕上げる。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	灰白	
309	弥生土器 壺A_2abdg	C・D 覆土	口径21.9 底径9.2 体部最大径 29.8 復元器高 (35.7)	底面は平底を呈す。体部は、内彎気味にたちあがり最大径付近で、大きく内彎してたちあがる算盤玉状を呈す。 頸部は屈曲して直立し、口縁部はゆるやかに屈曲して大きく外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ヨコナデ。体部上半外面タテハケ、内面ユビオサエ、一部に左ナナメハケ。最大径付近は外面ヨコヘラミガキ、内面左上りナ	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒 (外)淡黄	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				口縁端部はやや肥厚し、ほぼ平坦な端面には、２条の凹線と刻目、４個を単位とする円形浮文を貼付ける。 口縁部上面には、２～３条単位の斜格子文が施される。 頸部下端には、うすいカマボコ状の貼付突帯に瓜形の刻目を施し、体部中央に刺突列点文を施す。	ナメハケ、一部ナデ、底面はナデ。 下半外面タテヘラミガキ、内面はナデおよび原体の異なるタテハケ。			
310	弥生土器 壺A_1af	覆土	口径14.2	内彎にたちあがる半球面にちかい体部から、屈曲して直立する頸部。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して外反する。端部はわずかに上方に拡張し端面を平坦におさめ、刻目を施す。 体部上半、櫛描直線文を水平に１条、垂直に２条ずつ、３ヶ所(？)に描く。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部内外面ナデ。 頸部内外面ナデ。体部外面タテ方向板ナデ。内面はユビオサエ。	１～４㎜ 大砂粒含	橙	ヘラ描き記号文(?)
311	弥生土器 壺Af	A・B 覆土	口径(12.0) 体部最大径 (17.0)	内彎する球形にちかい体部から、屈曲して直立する頸部。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して大きく外反する。 体部上半に櫛描による上から直線文、波状文、簾状文、波状文、簾状文が施される。	外面は剝離激しいがナデによるものと思われる。 口頸部内面はナデ。 体部内面にはユビオサエ痕多数のこる。	０.５～３㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	明褐	
312	弥生土器 壺A_1bf	B 覆土	口径12.8 底径6.8 体部最大径 23.4 器高35.4	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、倒卵形を呈す。頸部は屈曲して直立し、口縁部は大きく外反じて、やや垂下する。口縁端部はややまるくおさめる。口縁部上面に刺突列点文、櫛描波状文をめぐらせ、同じく波状文を６ヶ所。 頸部内面に縦に施す。体部上半に、櫛描の直線文２条波状文２条を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面ナデ。内面タテ方向ナデ。 体部外面、上半はタテハケ下半はタテヘラミガキ。 内面は上位、最大径付近、底面にユビオサエ痕を多くのこすが、主としてタテ方向のユビナデ。 底部外面ヨコナデ、底面ナデ。	１～５㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)暗赤灰 (外)明赤褐	
313	弥生土器 壺E'_1c	A・B 覆土	口径14.4	内彎する体部から、ゆるやかに屈曲して、やや外反し、直線的にのびる口頸部をもつ。 口縁端部はわずかに肥厚させ、平坦におさめる。 頸部には、断面三角形の貼付突帯をめぐらす。	口縁部内外面はナデ。 突帯もヨコナデ。体部外面には、一部ハケが観察できるが主としてナデ。 頸部から体部内面はユビオサエ、ユビナデ痕を多数のこす。 一部板ナデ状の痕跡もみうけられる。	１～５㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)暗灰黄 (外)橙	
314	弥生土器 壺A'_1	覆土	口径14.6	体部から、ゆるやかに屈曲して、直立する頸部。さらにゆるやかに外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。 刻目を施しているように見える部分もあるか確認できない。	内外面ともナデ。	１～2.５㎜大砂粒含 結晶片岩	にぶい橙	
315	弥生土器 壺E_1	B・C 覆土	口径11.2 底径6.8 体部最大径 18.1 器高30.0	底面は平底を呈す。体部は内彎してたちあがり、断面楕円形を呈す。 頸部は屈曲してほぼ直立し、それにつづく口縁部は、わずかに	口頸部内外面ヨコナデ、外面の一部にタテハケの痕跡をのこす。 体部外面・最上位にタテハケの痕跡をのこすが、	１～５㎜ 大砂粒少量含 石英 結晶片岩	明黄褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				外反する。 口縁端部は平坦におさめる。	ほぼナデ。中・下位は、タテ方向のミガキ、内面上位と底面にユビオサエ、中位は板ナデ。底部外面ユビオサエ、ナデ。底面はナデ。			
316	弥生土器 壺F_1	C・D 覆土	口径12.4 底径6.6 体部最大径 20.6 器高30.0	底面は、欠損のため不明。 体部は内彎気味にたちあがり、最大径で大きく内彎している。中位の最大径が強く張る形状を呈す。頸部はゆるやかに屈曲し、短く直立する。 口縁部は直線的に外方に開く。口縁端部はやや肥厚し、ふくらみ気味におさめる。口縁部外面断面三角形の貼付突帯を2条巡らす。	口縁部、頸部・内外面ヨコナデだが、外面一部にタテハケの痕跡をのこす。 体部外面上位はタテハケ、中位はヨコヘラミガキ、下位はタテヘラミガキ。内面は上位ユビナデ、中位はユビオサエ、下位は左上りナナメハケをのこすが、主としてナデ。	0.5～5㎜大砂粒含 石英	(内)灰 (外)灰白	
317	弥生土器 壺D_1a	A 覆土	口径36.2	内彎する体部から、屈曲してラッパ状に開く口頸部をもつ。口縁端部は肥厚して平坦におさめ、ヘラ描きの刻目を施す。	口縁内外面ヨコナデ。 頸部外面はタテハケ、基本的に3分割でわずかにもりあがりをみせる。内面はナデ。体部外面上半はタテハケ。	1～6㎜ 大砂粒含 結晶片岩	橙	318と同個体
318	弥生土器 壺	A・B 覆土	底径16.1	底面は平底を呈す。体部は内彎して大きく外方にたちあがる。おそらくは球形に近い体部と考えられる。ただし内面の剝離激しく、実厚の不明な部分が大きい。	体部外面基本的にタテヘラミガキ。下端はヨコヘラミガキ。底部外面はユビナデ。底面はナデ。内面は剝離のため不明。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩	橙	317と同個体
319	弥生土器 壺A	覆土	底径6.0 体部最大径 18.4	底面は欠損にて不明。 体部は一様に内彎してたちあがり、球形にちかい形状を呈す。頸部は屈曲して、やや開き気味にたちあがり、口縁部につづく。	頸部内外面タテ方向ナデ。 体部外面タテヘラミガキおよびナデ。 内面上位は、ユビオサエ、ナデ。 中～下位はタテ方向ナデ。	1～5㎜ 大砂粒少量含 石英 砂岩	(内)黒褐 (外)褐	
320	弥生土器 壺A	B 覆土	底径6.8 体部最大径 19.1	底面は平底を呈す。体部は内彎してたちあがり、中位に最大径をもち、やや張る。 頸部はゆるやかに屈曲してほぼ直立する。	頸部外面はヨコナデ。内面ナデ。 体部外面はていねいなナデ。 内面の上位、最大径付近、底面はユビオサエ、他は板ナデ。	0.5以下～3㎜大砂粒少量含 石英 結晶片岩	(内)赤 (外)にぶい赤	
321	弥生土器 壺	B 覆土	底径8.1 体部最大径 25.0	底面は平底を呈する。体部は内彎気味にたちあがり、最大径付近で大きく内彎してたちあがる。最大径は中位にあり、球形に近い体部上半は剝離激しいが櫛描の円弧文が確認できる。	体部上半は剝離激しいが、ナデによるものとおもわれる。 中～下位については、ナデを主とし。部分的に、ナナメ・タテハケが観察できる。 内面は、上端と下部付近にユビオサエを多くのこすが、主はナデ。	1～8㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	灰褐	
322	弥生土器 壺	B・C 覆土	底径8.1	底面は剝離しているが、平底とおもわれる。 体部は内彎してたちあがり、上	体部外面ナデ。 底面ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	赤	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				半部に最大径をもつ。 体部上半に竹管文が1列施される。		結晶片岩		
323	弥生土器 壺	D 覆土	体部最大径 25.6	内彎してたちあがる球形にちかい体部。 体部上半には、2つ単位で2列の列点文をめぐらす。	体部外面上半はナデ。 下半はタテハケ。 内面はナデ。	0.5〜2.5 ㎜砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
324	弥生土器 壺	B 覆土	底径5.9	底面は平底を呈す。 体部は内彎して、外方にたちあがり、半球状をなす。	体部外面は、タテヘラミガキをよく残す部分と、ナデによる部分が交錯する。 内面はタテ方向を中心とするハケ調整。 底部外面はユビオサエ底面はナデ。	1〜3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)褐灰 (外)橙	
325	弥生土器 壺	覆土	底径0.8 体部最大径 19.0	底面は平底を呈す。体部は内彎して、外方にたちあがるか、体部はあまり張らず、長胴形を呈す。	体部外面は、タテヘラミガキが主であると考えられるが、ナデによる部分もある。 底部外面はユビオサエ、ユビナデ。 底面はナデ。 内面は底面にユビオサエをのこすが、主としてナデ。	1〜4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
326	弥生土器 壺	C 覆土	底径6.8	底面は平底を呈す。 体部は内彎して外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 底面および内面板ナデ。	1〜5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい赤褐	
327	弥生土器 壺(?)	覆土	底径9.5	底面はわずかに上げ底を呈す。 底面はうすく、体部もわずかに内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 底面はナデ。 内面は剝離激しいが、ナデを基本とする。	1〜5㎜ 大砂粒含 結晶片岩	(内)黄灰 (外)にぶい 赤褐	
328	弥生土器 壺(?)	A・B 覆土	底径9.2	底面は、やや丸みをおびた平底。 底部厚は体部とかわらない。 体部は、やや直線的に、のち内彎してたちあがる。	体部外面中位は、ヨコヘラミガキ、下半はタテヘラミガキ、底面はナデ。 内面中位はタテハケ。 下位にヨコヘラミガキ、底面はていねいなナデ。	0.5〜2 ㎜大砂粒 含 石英	橙	
329	弥生土器 甕A_1イ	B 覆土	口径25.8	直線的に内傾する体部から「く」の字状に鋭く屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、平坦におさめる。	内外面とも剝離のため不明。	1〜3㎜ 大砂粒含 石英	橙	
330	弥生土器 甕A_1ハ	C 覆土	口径20.4	直線的に内傾する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部はやや肥厚し、端面はまるく仕上げる。	口縁部屈曲部内外面ともヨコナデ。 体部外面はタテハケのち、一部ナデ。 体部内面は左上りナナメハケ。	1〜2㎜ 大砂粒含 石英	(内)褐灰 (外)にぶい 橙	
331	弥生土器 甕A_1ハ	AB 覆土	口径19.4	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部。 口縁部は厚く、端部はさらに肥厚する。端面はナデにより、わずかに凹面に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面タテハケ。 体部内面上端はヨコナデ。 以下ナデ。	0.5〜2 ㎜大砂粒 含 石英 結晶片岩	橙	
332	弥生土器 甕A_1ハ	D 覆土	口径27.4 体部最大径	内彎してたちあがる球形の体部。	口縁部内外面ヨコナデ。 屈曲部外面、強いヨコナ	0.5〜3 ㎜大砂粒	浅黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
			34.4	口縁部は「く」の字状に屈曲して、外反する。 屈曲部外面には強いナデが入り稜をもつ。 口縁端部は大きく肥厚し、端面は凹面に仕上げる。	デ。 体部内外面はナデ。	含 石英		
333	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径15.0	内彎してたちあがる卵形に近い体部から「く」の字状に大きく屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部はゆるく不規則に波うち、端部はまるく、あいまいに仕上げる。 玉縁状にめくれる部分もある。	口縁部内外面ヨコナデだがあいまい。 体部外面は、タテヘラミガキ上端はヨコナデ。 体部内面は、タテ方向を主とするナデ。	1～5㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
334	弥生土器 甕A_1イ	A・D 覆土	口径15.4	内彎してたちあがる球形にちかい体部上半。 短い口縁部が「く」の字状に大きく屈曲して、外反する。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部は内外面ともにヨコナデ。 体部外面は、タテハケのちナデ。 内面は、上半にユビオサエ痕をのこすが、ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい橙	
335	弥生土器 甕A_1イ	B 覆土	口径15.2	内彎気味にたちあがる体部から、屈曲して「く」の字状に外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 体部内外面ともにナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩	にぶい黄橙	
336	弥生土器 甕A_1ハa	A 覆土	口径18.6	内彎する体部から「く」の字状に外反する口縁部をもつ。 口縁部は端部も肥厚させ、端面は凹面に仕上げる。 端面にはヘラ描きの刻目を施す。	口縁部内外面、体部外面上端はヨコナデ。 体部外面タテハケ、内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 砂岩	淡黄	
337	弥生土器 甕A_1ニ	B 覆土	口径14.7 底径5.5 体部最大径7.2 器高24.6	底面は上げ底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、最大径が上位にあり、倒卵形を呈す。 口縁部は「く」の字状に屈曲して外反する。 端部はやや丸く仕上げる。	体部外面、タテヘラミガキを主とする。 最大径より上はヨコ方向を中心とするナデが優勢で口縁部内外面ヨコナデ。 体部内面、上半はユビオサエ痕顕著にのこる。 中位には、タテヘラミガキののこる部分がみられ、中位～下位はナデが優勢。底面はナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)明赤褐 (外)明褐	
338	弥生土器 甕C_1ニ	A・B 覆土	口径13.2 底径5.0 器高14.7	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎気味に外方にたちあがり、屈曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁部はゆるく不規則に波うち、口縁端部は、まるくあいまいに仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデだが、おりまげ成形のあいまいさをのこす。 体部外面タテヘラミガキ。 上端各所にユビオサエ、底部外面はヨコナデと、ユビオサエ。底面ナデ。 内面は下半タテ方向ナデ。 上位はヨコ方向ナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	灰褐	
339	弥生土器 甕	C・D 覆土	底径5.6	底面は平底を呈す。 体部はわずかに内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 内面ナデが優勢だが一部タテヘラミガキが観察できる。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
340	弥生土器 甕	覆土	体部最大径 18.6	ゆるく内彎してたちあがる体部。	外部外面はタテハケ。 上端屈曲部付近はヨコナデ。 内面は、タテ方向を中心とするナデ。 部分的に左上りナナメハケが観察できる。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黄灰 (外)浅黄橙	
341	弥生土器 甕	C 覆土	底径5.6	底面は平底を呈す。 体部はやや内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 底部外面ヨコナデ。 底面はナデ。 体部内面は、ナデ、底面にユビオサエ痕あり。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙	

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
342	石鏃	C 覆土	(3.0)	(2.3)	0.5	(3.35)	先端等欠損	サヌカイト	凹基無茎
343	スクレイパー	B 覆土	3.2	4.5	0.6	9.73	完存(?)	サヌカイト	下辺は両面調整による刃部形成。 他は裁断面。
344	打製石庖丁	A・D 覆土	10.8	5.2	0.7	81.58	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり。
345	小型円柱状石斧	C 覆土	8.3	1.8	1.6	4.1	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	先端両側に磨面あり。 円柱状石斧未製品と考えられる。
346	砥石	覆土	19.7	14.8	10.3	4000	欠損	砂岩	被熱。 自然面のうち1面に砥面、もう一面に弱い砥面と粒状の敲打痕が観察できる。
347	砥石	覆土	18.5	11.6	11.0	3190	欠損	砂岩	被熱。 自然の面の一面を弱い砥面とする。
348	砥石	覆土	24.9	22.55	10.1	7000	一部欠損	砂岩	被熱。 自然面の一面を弱い砥面とする。
349	砥石	B 覆土	22.7	7.1	7.7	1275	欠損	砂岩	接合品、被熱。 自然面の二面を砥面とする。
350	砥石	覆土	18.7	9.2	8.7	1310	欠損	砂岩	自然面の一面を砥面とする。

第22表　SK1016　出土遺物観察表(SK1016は掘削時に4分割、北西部A、北東B、南西C、南東Dとする。数字はとりあげ番号)

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
351	弥生土器 壺A_1	D-15 覆土	口径14.6	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して大きく外反する口縁部。 口縁端部は上下にわずかに拡張し、端面は凹面に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩	橙	
352	弥生土器 壺A_1	C 覆土	口径9.6	内彎する体部から、ゆるやかに屈曲して、直立する頸部。 口縁部はさらにゆるやかに屈曲して外反する。 口縁端部は、わずかに上方に拡張し、凹面を形成しながらあいまいに仕上げる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。	0.5～1㎜大砂粒含 石英	にぶい黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
353	弥生土器 壺A_2d	A 覆土	口径15.9	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して外反する口縁部。 口縁端部は、やや肥厚させ、端面には一条の凹線を施す。 頸部下端には、断面カマボコ状の貼付突帯を巡らす。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部内外面ともにナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	黄橙	
354	弥生土器 壺A_1ac	B-103 106 覆土	口径17.4	やや開き気味にたちあがる頸部から、ゆるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁部はやや肥厚し、端部を平坦におさめて、斜格子文を施す。 頸部端に断面三角形の貼付突帯を2条巡らす。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面は判然としないがタテハケと思われる。 内面はタテ方向ナデ。	0.5～5㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)橙 (外)にぶい黄橙	
355	弥生土器 壺A_1dg	A、C C-201 202 209 覆土	口径18.3 底径8.0 体部最大径26.2 器高(33.7)	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり中位の最大径部分が張る、算盤玉形に近い形状をしめす。 頸部は屈曲してやや開き気味にたちあがり、ゆるやかに屈曲して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は欠損。 頸部下端に刻目を施した貼付突帯を巡らし、体部最大径部分に貝殻腹縁による圧痕文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面タテ方向ナデ。 体部上半タテハケ、最大径部分ヨコヘラミガキ、下半はタテヘラミガキないしはナデ。 内面は、上半ユビオサエ、中・下半は剝離により不明。	1～2㎜大砂粒含 石英 角閃石	にぶい赤褐	搬入土器(讃岐)
356	弥生土器 壺A_1be	D C-209 D-4 覆土	口径20.5	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して、大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は凹面に仕上げる。 口縁部上面には斜格子文、頸部には2段の刻目を施す。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 頸部内面ともにナデ。	1～3㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	浅黄橙	
357	弥生土器 壺A_1be	B 覆土	口径15.8	外彎気味にたちあがる頸部からゆるやかに屈曲して大きく外反する口縁部。 口縁端部はわずかに上下に拡張し、端面は凹面に仕上げる。 口縁部上面には斜格子文、頸部には2段の刻目圧痕文を施す。	口縁部、頸部ともに内外面ヨコナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	黄橙	
358	弥生土器 壺A_1b	C 覆土	口径9.6	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して大きく外反する口縁部。 口縁端部はわずかに肥厚し、端面は凹面に仕上げる。口縁部上面にヘラ描き斜格子文。 口縁部に2孔、焼成前穿孔あり。	口縁部内外面は剝離のため不明。 頸部内外面はナデ。	1～2㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
359	弥生土器 壺	C-209 覆土	体部最大径13.3	内彎してたちあがり、中位の最大径部が張る体部。	体部外面、上半はタテハケ、中位以下はタテヘラミガキ。 内面はタテハケ。	1～3㎜大砂粒含 石英	橙	
360	弥生土器 壺A_1bg	C A・C間 覆土	口径9.6 底径6.4 体部最大径13.4 器高(15.2)	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、中位の最大径が強く張る。 頸部はゆるやかに屈曲して直立し、口縁部もゆるやかに屈曲して大きく外反する。 口縁端部はわずかに上下に、端面は凹面をなす。 体部中位にハケ状工具による刻目圧痕文。 頸部に焼成前の穿孔が1孔確認できる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 頸部外面タテヘラミガキ、内面ヨコ方向ナデ。 体部外面、上位はタテヘラミガキ、中位はヨコヘラミガキ、下位はヨコ方向クモの巣状ヘラミガキ。 内面は右上りナナメ方向のナデ。	0.5～2㎜大砂粒含	(内)橙 (外)明赤褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
361	弥生土器 壺A_1b	A C C-215 覆土	口径22.2	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して、大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部はやや肥厚し、わずかに上下に拡張、端面は平坦におさめる。 口縁部上面には、3条単位の櫛描斜格子文を施す。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	明黄褐	
362	弥生土器 壺A_1b	C C-209 覆土	口径16.8	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、やや肥厚し、端部は平坦におさめるものと考えられる。 口縁部に2孔ずつの穿孔、上面に斜格子文の痕跡あるが、剝離のため図化不能。	口縁部内外面は剝離のため不明。 頸部内外面はナデ。	1～3.5㎜大砂粒含 石英 泥岩	黄橙	
363	弥生土器 壺A_1b	D 覆土	口径15.5	直立する頸部から、ゆるやかに大きく外反する口縁部。 口縁端部はわずかに上方に拡張し、端面は凹面に仕上げる。 口縁部上面には、ヘラ描きの斜格子文の痕跡をのこすが、剝離のため図化不能。	口縁部は剝離のため不明。 頸部内面ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	橙	
364	弥生土器 壺A_1b	A 覆土	口径13.9	大きく外反する口頸部。 口縁端部は凹面におさめ、口縁部上面に櫛描波状文と孔列を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部内外面タテハケ、内面ナデ。 体部外面タテハケ、内面ユビオサエ痕をのこす。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
365	弥生土器 壺A_1abcg	A・B間 A・C間 B・D間 C-201 D-20	口径21.7 底径8.6 体部最大径 28.2 器高36.5	底面は平底を呈す。体部は内彎してたちあがり、最大径は中位。屈曲してやや開き気味の頸部、さらに大きく外反する口縁部をもつ。口縁端部はやや上下に拡張し、端面は平坦におさめる。 端面に刻目と円形浮文、口縁部上面に櫛描の斜格子文と円形浮文、頸部に2条の断面三角形の突帯を2条、体部上半には、刺突列点文3条施す。	口縁内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、突帯部分はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ。 体部上半はタテハケ、中位はヨコヘラミガキ、下位はタテヘラミガキ。体部内面上半はユビオサエ・ナデ、下半はタテ方向ナデ。 内底面ユビオサエ、底面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 角閃石 長石	(内)にぶい褐 (外)明赤褐	搬入土器 (讃岐)
366	弥生土器 壺A_2b	D-2 D-15 D-3-2 覆土	口径16.0	開き気味にたちあがる口縁部から、ゆるやかに、大きく外反する口縁部。 口縁端部は上下に拡張し、端面には3条の凹線を施す。 口縁部上面には、ヘラ描きの右上り斜線を描く。	口頸部内外面ともヨコナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英	橙	
367	弥生土器 壺A_2b	C-213 覆土	口径17.2	大きく外反する口縁部。 口縁端部は上下、とくに下方に拡張し、端面には3条の凹線を施す。 円形浮文を凹線にあわせて縦に配する部分があるが、全体像は不明。また口縁部上面に3条単位の櫛描の斜格子を施すが、剝離激しく図化不能。	口縁部内外面ヨコナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 石英 角閃石	明黄褐	搬入土器 (讃岐)
368	弥生土器 壺A_2b	C 覆土	口径22.3	やや開き気味にたちあがる頸部から、ゆるやかに大きく外反する口縁部。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 頸部内面はナデ、外面は	1～3㎜ 大砂粒含 石英	浅黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				口縁端部は上下に、特に下方に拡張し、端面には2条の凹線を施す。口縁部上面には、ヘラ描きの斜格子文を施す。	剝離のため不明。			
369	弥生土器 壺A_2b	覆土	口径21.0	大きく外反する口縁部。 口縁端部は、上下に拡張し端面に3条の凹線を施す。 口縁部上面には、ヘラ描きの斜格子を施すが一部に不規則な刺突がみられる。	口縁部内外面ヨコナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 長石	橙	搬入土器 (?) (讃岐)
370	弥生土器 壺A_2b	B 覆土	口径22.2	大きく外反する口縁部。 口縁端部は上下に拡張し、端面には2条の凹線を施す。 口縁部上面には、ヘラ描きの斜格子文を施す。	口縁部内外面ともにヨコナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
371	弥生土器 壺A_2d	A・C間 覆土	口径16.0	内彎してたちあがる体部から屈曲して直立する頸部。 口縁部はゆるやかに大きく外反して、端部は上下にわずかに拡張し、端面には、2条の凹線を施す。 頸部下端に刻目を施した貼付突帯を巡らす。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。 体部外面タテハケ、内面ユビオサエ痕をのこす。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	(内)黄橙 (外)橙	
372	弥生土器 壺C_1d	A 覆土	口径15.4	内彎する体部から、屈曲して直立する短い頸部。 口縁部はゆるやかに外反する。 口縁端部は、わずかに上に拡張し、端面は平坦におさめる。頸部に、「人」の字状の刻目を施した貼付突帯を巡らす。刻目を施す際の傷が体部にものこる。	口縁部頸部内外面ともにヨコナデ。 とくに口縁・頸部境のとくに内面に強いヨコナデが観察できる。 体部内外面ともにナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	にぶい黄橙	
373	弥生土器 壺C_2d	A C-209 A・C間 覆土	口径15.1	内彎する体部から、屈曲して直立する短い頸部。 口縁部はゆるやかに屈曲し外反する。 口縁端部はわずかに上に拡張し、端面は、2条のごく浅い凹線が施される。 頸部端には刻目を施した貼付突帯を1条巡らす。 刻目を施した時の傷が体部にのこる。体部に記号文を施す。	口縁部、頸部内外面ヨコナデ。 体部内外面ヨコナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	記号文あり
374	弥生土器 壺C_2d	畦 86 覆土	口径11.8	内彎してたちあがる体部から屈曲して直立する短い頸部。 刻目を施した削り出し(?)突帯を1条巡らす。口縁部はさらに、ゆるやかに屈曲して外反する。 口縁端部は上下にやや拡張し、端面に3条の凹線を施す。	口縁・頸部の内外面ともにヨコナデ。 体部外面上半はタテハケ中位はナデ(?)。 内面上端はユビオサエ痕を観察できるが主としてナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 長石	(内)にぶい黄褐 (外)橙	搬入土器 (?) (讃岐)
375	弥生土器 壺E″d	B 覆土	口径14.2	内彎してたちあがる体部から屈曲して、開き気味に直立する口頸部。 頸部端には、指頭圧痕文突帯を巡らす。 口縁端部はわずかに肥厚し、端面を凹面に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。 体部外面上端のみタテハケ、以下ナデ。 内面もナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英	(内)灰黄褐 (外)にぶい黄橙	
376	弥生土器 壺F'_2	畦 覆土	口径12.6	内傾する体部から、ゆるやかに直立する短い頸部とつながり、さらに屈曲して内彎しながら外	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部から体部にかけて、外面ではタテハケの痕跡	0.5～3㎜大砂粒含	橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				反する口縁部をもつ。 口縁部外面には幅広の凹線状の凹みを1条もち、端部は平坦におさめる。	がみとめられる。 内面はナデ。	石英 結晶片岩		
377	弥生土器 壺F_2	C-202 覆土	口径12.6	外反する口縁部。 口縁端部は、わずかに上下に拡張し、端面には1条の凹線を施す。口縁外面下に断面三角形の貼付突帯を巡らす。	口縁部内外面ともにヨコナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	明黄褐	
378	弥生土器 壺F_2	D-18 B・D間 覆土	口径14.6	外反する口縁部。 口縁端部はわずかに上下に拡張し、端面には3条の凹線を施す。口縁外面下に断面三角形の貼付突帯を巡らす。	内外面ともヨコナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい赤褐	
379	弥生土器 壺E_1	B・D 覆土	口径8.8	内彎する体部から、ゆるやかに屈曲して、外彎気味に直立する口頸部。 口縁端部はややあいまいにおさめる。	口頸部外面タテ方向ナデ。 内面口縁はヨコ、頸部はタテ方向のナデ。 体部外面ナデ。 内面ユビナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 石英	明黄褐	
380	弥生土器 壺E'_1	B・D 覆土	口径13.4	内彎してたちあがる体部から、屈曲して開き気味に直立する口頸部。口縁端部は、やや肥厚し、平坦におさめる。	口頸部内外面、ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄褐	
381	弥生土器 壺E''_2	D-3 覆土	口径5.6	体部から屈曲して、やや開き気味に直立する口頸部。 口縁端部はわずかに肥厚し、端面は凹面を呈す。 口縁直下に凹線2条観察できる。	口頸部内外面ともにヨコナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	明黄褐	
382	弥生土器 壺E_2	A C D-1～4 覆土	口径11.3 底径8.5 体部最大径 20.8 器高(29.6)	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり最大径を中位にもつ、断面楕円形状を呈す。 頸部は、ゆるやかに屈曲して直立し、口縁部はそのままのび、端部を平坦におさめる。 口縁部、外面3条の凹線を施す。	口頸部内外面ヨコナデ。 特に口縁直下内面に強いナデ。 体部上半内外面、ナデ。 下半、外面タテヘラミガキ。内面ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩	淡黄	
383	弥生土器 壺	A 覆土		内彎する体部から、屈曲して直立する頸部をもつ。 頸部下端に指頭圧痕文突帯を巡らす。	内外面ともにナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 石英	橙	
384	弥生土器 壺	D-14-2 覆土		内彎する体部から屈曲して直立する頸部。 頸部下端には、指頭圧痕文突帯を巡らす。	頸部内外面ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
385	弥生土器 壺A_3	A A・C間 C-213 C-215 D 覆土		内彎する体部から、屈曲して直立する頸部。 口縁部はゆるやかに外反する。 頸部に4条の凹線文B種を施す。	頸部外面剝離のため不明。 内面板ナデ(?)。 体部は内外面ともにナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 チャート 砂岩	にぶい黄橙	
386	弥生土器 壺	A D-2 3-2 14-2 覆土	体部最大径 19.6	内彎する体部。 最大径を中位にもち、その部分が張る算盤玉形をなす。 体部上半に、ヘラ描きの斜格子文、櫛描きの直線文を3条施す。	体部外面、ナデによると思われる。 内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
387	弥生土器 壺	A・C間 C 覆土	底径5.8 体部最大径 14.7	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、最大径をやや上位にもつ倒卵形を呈す。	体部外面上位はタテハケ、中位はヨコヘラミガキ、下位はタテヘラミガキ、内面はタテハケ。 上位にユビオサエ痕ものこす。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
388	弥生土器 壺	D-4 覆土	底径4.5 体部最大径 13.5	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、中位にやや張った最大径をもつ。	体部外面、下半はタテヘラミガキ、中上位は剝離のため不明。 内面は、短い単位のタテ方向中心のハケを施す。 内底面にはユビオサエ痕をのこす。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	黒褐	
389	弥生土器 壺(？)	A・B間 覆土	底径10.5	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩	橙	
390	弥生土器 壺(？)	C 覆土	底径6.8	底面はわずかに上げ底を呈す。 部厚い底部。 体部は外彎気味に外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)褐灰 (外)橙	
391	弥生土器 壺(？)	B 覆土	底径7.8	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがり、底部端に、斜めに2孔(おそらく対面に)焼成前穿孔。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明赤褐	
392	弥生土器 壺(？)	A 覆土	底径11.8	底面は平底を呈し薄い。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ、内面タテ板ケズリ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	にぶい赤褐	
393	弥生土器 甕A_1ニ	D 覆土	口径18.5	内彎する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、上端を意識したつくりであるが、端面はまるくあいまいに仕上げる。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 体部内外面ともに剝離のため不明。	1㎜大砂粒含 石英	赤	
394	弥生土器 甕A_1イ	D-3 D-8 D-19 覆土	口径17.2	内彎する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 口縁端部は、わずかに上方に拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面タテハケの痕跡がみとめられる。 内面はナデ。	0.5～2.5㎜大砂粒含 石英	にぶい黄橙	
395	弥生土器 甕A_1ロ	A・C間 覆土	口径21.4	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁部ごくわずかに上方に拡張し、端面はまるくおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
396	弥生土器 甕A_1ハ	A、B D-15、16 覆土	口径29.2 体部最大径 33.7	内彎してたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は肥厚し、わずかに上方に拡張する。	口縁部内外面ヨコナデ。 屈曲部外面にとくに強いナデを施す。 体部内外面ともにナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄褐	
397	弥生土器 甕A_1ロ	C-214 覆土	口径25.0	内彎する体部から、屈曲して、小さく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、上方にやや拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内面は、左上りナナメハケの痕跡がみとめられるが、外面は剝離のため不明。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
398	弥生土器 甕A_1ロ	B・D間 D-20 D-13	口径18.2	内傾する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 口縁端部は上方にやや拡張し、端面は凹面に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 結晶片岩	浅黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
399	弥生土器 甕A_1ロ	D	口径17.8	内傾する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁端部は、ごくわずかに上方に拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
400	弥生土器 甕A_1ロ	B・D間 覆土	口径17.5	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁端部は上方にやや拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面タテハケの痕跡が認められる。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	浅黄橙	搬入土器 (?)
401	弥生土器 甕A_1ロ	C 覆土	口径16.7	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 口縁端部は上方にやや拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面タテハケの痕跡が認められる。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	浅黄橙	搬入土器 (?)
402	弥生土器 甕A_1ロ	B D-13 覆土	口径20.6	内彎してたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は上方にやや拡張し、端面は平坦におさめる。	口縁部内外面はヨコナデ。 体部内外面ともに剝離のため不明。	1～4㎜ 大砂粒含 チャート 石英	明赤褐	
403	弥生土器 甕A_1ロ	畦 A 覆土	口径22.8	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。口縁端部は、上方にやや拡張し、端面はまるくあいまいに仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい黄橙	
404	弥生土器 甕A_2ロ	D D-20 A 覆土	口径23.0	内彎してたちあがる体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 口縁端部はやや拡張して、上方に拡張し、端面は1条の凹線を施す。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 体部は剝離激しく調整不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	黄褐	
405	弥生土器 甕A_2ハ	D17、2 覆土	口径22.6	内彎してたちあがる体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、やや肥厚し、端面に1条の凹線を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面ナデを主とするが、一部タテハケが観察できる。	0.5～3㎜大砂粒含	浅黄橙	
406	弥生土器 甕A_2ロ	C、D A・C間 覆土	口径22.0	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁端部は、上方に拡張し、端面に2条の凹線を施す。	内外面ともにヨコナデ。	0.5～1.5㎜大砂粒含 石英	橙	
407	弥生土器 甕A_2ロ	A、B C 覆土	口径24.5	内彎する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は上方に拡張し、端面に2条の凹線を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内面にはヨコハケの痕跡も観察できるが、外面は剝離のため不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	黄橙	
408	弥生土器 甕A_2ロ	C-201 覆土	口径29.0	外反する口縁部。 口縁端部は、上方に拡張し、端面には2条の凹線を施す。	口縁部内外面ともにヨコナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
409	弥生土器 甕A_2ロa	覆土	口径22.4	「く」の字状に外反する口縁部。 屈曲部外面にヘラ状圧痕文を施した貼付突帯を巡らす。 口縁端部は上方にやや拡張し、端面に2条の凹線を施す。	口縁部内外面ともにナデ。	1㎜以下の砂粒含 石英	橙	
410	弥生土器 甕C_1ニ	C-202 C-209 C-211	口径13.4 底径5.8 体部最大径	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、やや上位に最大径をもつ。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 体部外面、タテハケの痕	1～3㎜ 大砂粒含 石英	(内)にぶい褐 (外)黒褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
		A 畦 D-9-2 覆土	12.8 器高(13.6)	口縁部は屈曲して、外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部はまるく、あいまいにおさめる。	跡を確認できる。 内面はナデ。	結晶片岩		
411	弥生土器 甕	D-4 D-19 覆土	底径6.4 体部最大径 23.0	底面は平底を呈し、体部は内彎気味にたちあがり、最大径を中位よりやや上にもつ倒卵形を呈す。	体部外面、上位はナデ、中・下位は入念なタテヘラミガキ。 内面上半はタテハケが各所にみられ、下半はタテヘラケズリ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
412	弥生土器 甕	A、B A・D間 A・B間 覆土	底径5.8	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は、わずかにくびれ、内彎して、外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 内面ナデ。	0.5～1.5㎜大砂粒含 石英	(内)にぶい赤褐 (外)橙	
413	弥生土器 甕	C 覆土	底径10.1	底面は平底を呈す。 体部は内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面剝離のため不明。 内面はタテハケのちナデ。	1～2㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)明赤褐 (外)にぶい黄橙	
414	弥生土器 甕	覆土	底径11.0	体部は、ややくびれて内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面タテハケのちヘラミガキ、下端は板ナデ。 内面はタテ方向ナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 結晶片岩	橙	
415	弥生土器 甕	A・C間 B 覆土	底径6.0	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 内面ナデ。	0.5～3㎜大砂粒含 石英	橙	
416	弥生土器 甕	A 覆土	底径9.2	底面は平底を呈す。 体部は、ゆるやかにくびれ外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 内面タテ方向ナデ。 内底面ユビオサエ痕多数のこす。	1～3㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
417	弥生土器 甕	D 覆土	底径10.0	底面は平底を呈す。 体部はややくびれて直線的に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 内面ナデ。内底面にはユビオサエ痕をのこす。	1～3㎜大砂粒含 石英	(内)黒褐 (外)橙	
418	弥生土器 甕(?)	C 畦 覆土	底径8.3	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。	0.5～1㎜大砂粒含 石英 角閃石	橙	搬入土器 (?) (讃岐)
419	弥生土器 鉢C	A D D-5 D-18 A・C間 覆土	口径20.9 底径7.6 体部最大径 (28.2) 器高(31.0)	体部は内彎してたちあがり、口縁端部は方形におさめる。 方形状の把手を口縁部下に一対付着する。 底面は平底を呈し、底部端を明瞭にもたない。体部は直線に外方にたちあがる。	体部外面、一部に放射状のハケを施す部分があるが主としてナデ。 内面はナデ。 内外面ともにナデ。	1～5㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	黄橙 明赤褐	
420	弥生土器 鉢B'_2	C 覆土	口径25.0	内彎してたちあがる体部。 口縁端部は内外に拡張し、端面は、ほぼ平坦におさめる。口縁部下に3条の凹線を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～2㎜大砂粒含 石英	にぶい黄橙	
421	弥生土器 高杯C_1	B A・C間 C 覆土	口径35.2 脚台部径13.8 器高(28.0)	内彎してたちあがる半球形の杯部。 口縁端部は凹面におさめる。脚台部は直線的に下外方にのび、	杯部内外面ともにナデ。 杯部下半は外面タテヘラミガキ、内面ていねいなナデ。	1～8㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	赤橙 橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				脚端で、やや内彎する。脚端部はやや肥厚し、一条の沈線を施す。 脚台中央部に5ヶ所の円孔あり。	脚台部外面の上半はタテヘラミガキ、下半はヨコナデ、一部にハケの痕跡もみられる。 内面上半にはシボリ痕がのこり、下半はヨコナデ。 円板充填法による。 充填部は非常に薄い。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英		
422	弥生土器 高杯C_1	A C B D-2 17-2 18 覆土	口径20.4 脚台部径12.8 器高21.8	杯部は内彎してたちあがり、半球状を呈す。口縁端部は、内外にわずかに拡張し、端面は平坦におさめる。 脚台部は、くびれて、直線的に下外方にのびる。 脚端はやや肥厚させ、あいまいにおさめる。	口縁部外面ヨコナデ。 杯部外面剝離のため不明。 内面ヨコヘラミガキ。 脚台部外面タテヘラミガキ、内面上半にはシボリ痕、下半ヨコナデ。 脚端部内外面ヨコナデ。 円板充填法。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩	橙	
423	弥生土器 高杯D_1	A-301 C-213 覆土	口径25.4 底径15.8 器高19.6	杯部は、皿状を呈し、口縁部は内彎する。 口縁端部は内外方に拡張し、端面は凹面に仕上げる。 脚台は外彎して下外方にのび脚端を内外に拡張する。	口縁部内外面ヨコナデ。 杯部外面タテヘラミガキ。 内面ナデ。 脚柱部外面タテヘラミガキ。 内面シボリ痕のこす。 脚端部内外面ヨコナデ。 円板充填法。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
424	弥生土器 高杯B_1	A C D-3 覆土	口径23.5 底径7.0 脚台部径11.3 器高20.0	杯部は内彎してたちあがり、半球形を呈す。 口縁部は屈曲して大きく外反する。屈曲部内面に断面三角形の貼付突帯を施し、口縁部はまるくあいまいにおさめる。脚台部は、外彎して下外方にのび、脚端は、あいまいにおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 杯部内外面は剝離のため不明。 脚台部外面は剝離激しいが、タテヘラミガキが観察できる。 内面上半はシボリ痕、下半はヨコナデ。 円板充填法。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	赤橙	
425	弥生土器 高杯B_1	A D-11 覆土	口径25.1	内彎気味に外方にたちあがる杯部から、屈曲して外反し、水平にのびる口縁部をもつ。 屈曲部内面には断面三角形の貼付突帯を巡らす。	口縁部内外面ヨコナデ。 杯部外面タテハケ、内面ヨコハケを部分的に観察できる。	0.5～5㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
426	弥生土器 高杯D_2	D-3 D-20 D-18 覆土	口径23.2	内彎してたちあがる体部、口縁部。 口縁端部は、内外にやや拡張し、端面に2条の凹線を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
427	弥生土器 大型高杯	A B D 畦 D-14 D-19 覆土	口径49.5	内彎しながら、大きく外方にたちあがる杯部。 口縁部外面には5条の凹線を施し、口縁端部は内方に拡張、端面に4条の凹線を施す。	杯部外面、左上りナナメヘラミガキ。内面はヨコハケ、左上りナナメハケの後放射状のタテヘラミガキ。 円板充填法による。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	黒班あり。

番号	器　種	地点 層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	肥　土	色　調	備　考
428	土製円板	覆土	3.35	3.2	0.6	——	8.01	1～2㎜大砂粒含	(表)褐灰 (裏)橙	土器片利用。 内外面ともにハケの痕跡をのこす。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
429	打製石庖丁	覆土	(10.1)	5.0	0.7	(48.37)	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りをわずかに入れる。 片面は自然面。
430	打製石庖丁	D 覆土	11.1	4.2	0.6	53.56	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端に抉りわずかにあり。
431	打製石庖丁	覆土	11.2	4.5	0.7	(43.41)	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり、片面自然面。
432	石鍬	A 覆土	(13.6)	10.0	2.6	(364)	刃部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	いわゆる有肩石斧。 扁平な自然礫の側縁を敲打により成形。
433	柱状片刃石斧	A 覆土	12.6	2.4	3.5	168	完存	結晶片岩 (石英片岩)	棒状の自然礫の表・裏面を主として研磨し、刃部形成。抉りなし。
434	柱状片刃石斧	C 覆土	13.2	1.4	4.2	176	完存(?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 強い敲打により、粗成形。研磨箇所なし。
435	柱状片刃石斧	B 覆土	14.6	2.8	4.4	340	刃部欠損 (?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 粗成形後表面と右側面を中心に敲打。 表面基部の一部を研磨。
436	柱状片刃石斧	D 覆土	9.1	1.3	2.8	76	刃部欠損 (?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 粗成形後、表・裏を中心に敲打。未研磨。
437	扁平片刃石斧	D 覆土	8.4	3.5	0.9	(46)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	全面研磨。半分欠損しているので表裏面の区別不明。片刃石斧か。 加熱をうけている可能性あり。 石材変質、軟化。
438	石斧	A B 覆土	28.5	8.05	4.3	1800	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	未製品。 両端を強く敲打、側辺も一部敲打。 蛤刃石斧の粗成形の途上と考えられる。
439	砥石	覆土	27.2	22.0	22.5	9600	欠損	砂岩	自然面の中央部にやや凹んだ砥面被熱。6破片接合。

第23表　SP1051　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
440	弥生土器 壺A_1a	2区 覆土	口径12.0	頸部からゆるやかに屈曲して外反する口縁部。端部は平坦におさめ、刻目を施す。	内外面ともヨコナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐	

第24表　SK1039　出土遺物観察表（地点の数字はとりあげ番号を示す）

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
441	弥生土器 壺A_1	覆土	口径11.6	直径から頸部からゆるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦部を意識しながらあいまいに仕上げる	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
442	弥生土器 壺A_1	覆土	口径11.2	やや開き気味にたちあがる頸部から、ゆるやかに屈曲して外反する口縁部。 口縁端部はややあいまいにまるくおさめる。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)暗灰黄 (外)橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
443	弥生土器 壺A_1	覆土	口径8.2	開き気味にたちあがりゆるやかに屈曲して外反する口縁部。 口縁端部はまるくおさめる。	内外面ともにナデ。	1～2.5㎜大砂粒少量含 結晶片岩 石英	橙	444と同個体？
444	弥生土器 壺	覆土	底径4.9 体部最大径12.2	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎してたちあがり最大径を中位にもつ断面楕円形を呈す。	体部外面ナデ、一部にミガキの痕跡も観察できるが、不詳。内面ユビオサエ、ユビナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	443と同個体？
445	弥生土器 壺A_1a	覆土	口径15.0	頸部から、大きく外反する口縁部。 端部はわずかに上方に拡張し、平坦におさめた端面に刻目を施す。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	橙	
446	弥生土器 壺A_1a	覆土	口径21.0	直立する頸部からゆるやかに屈曲し大きく外反する口縁部。 口縁端部は、平坦におさめ、タテとナナメの2種の刻目を施し、2個づつ8ヶ所に円形浮文を貼付ける。	口縁部は内外面ヨコナデ。 頸部内外面タテ方向ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	浅黄橙	
447	弥生土器 壺C_1a	13 覆土	口径20.5	内彎してたちあがる体部から、屈曲して直立する頸部。 口縁部はゆるやかに外反し、端部を平坦におさめ、刻目を施す。	口縁部外面タテハケ、内面ナデ。 頸部外面ナデ、内面は左上りナナメハケ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	黄橙	
448	弥生土器 壺A_1ag	覆土	口径27.0	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。 頸部下端には刺突列点文，口縁端部は平坦におさめ斜格子の刻目を施す。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 頸部外面は，一部にタテハケが観察できる。 内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	明黄褐	
449	弥生土器 壺A_1cf	13 覆土	口径16.8	内彎してたちあがる体部から屈曲して直立する頸部。 口縁部はゆるやかに外反する。 頸部端に刻目を施した断面三角形突帯を巡らす。 口縁端部はやや肥厚させ，ややまるくおさめる。 体部上半に，櫛描直線文1条，櫛描波状文を4条巡らす。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面はタテハケ，内面はナデ。 体部上半外面はタテハケ，内面はユビオサエ痕を多数のこす。	1～4㎜ 大砂粒大 石英	浅黄橙	
450	弥生土器 壺E'_1	C－14 7 覆土	口径12.8 体部最大径28.2	体部は内彎してたちあがり、中位の最大径部分が張る形を呈す。 口頸部は屈曲して、やや開き気味にたちあがる。 端部はやや肥厚しわずかに凹面に仕上げる。	口縁部外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。 体部外面上半にタテハケが一部確認できるが主としてナデ。 内面も、上半にタテないし、ナナメに、ハケが確認できる。 ユビオサエ痕を全面にのこす。 主としてナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)暗赤褐 (外)にぶい赤褐	
451	弥生土器 壺B_1a	覆土	口径18.4	ゆるやかに外反するラッパ状の口頸部。 端部は平坦におさめ刻目を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテ方向板ナデ。 内面ヨコ方向板ナデ。	1～3.5㎜大砂粒含 石英 絹雲母	赤橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
452	弥生土器 壺D_1a	覆土	口径24.1 底径14.5 体部最大径 47.2 器高63.5	底面平底の部厚い底部から体部は内彎してたちあがり、最大径を中位にもつ楕円状をなす。 頸部は屈曲してやや開き気味にたちあがり、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、刻目を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部外面タテハケ、内面ナデ。 体部外面主としてタテハケ、下半一部タテヘラミガキ。 内面は上半と、底面にユビオサエ痕をのこし、他はナデ、粘土紐の接合痕を明瞭にのこす。底部はナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
453	弥生土器 壺F_1	覆土	口径15.0	漏斗状に開く口頸部。 頸部に断面三角形で刻目を施す突帯を2条巡らす。 口縁端部は肥厚させ、内方にやや拡張しながら端面は、平坦におさめる。	口縁部内外面タテハケ、内面はヨコ方向ナデ。	0.5～3.5㎜大砂粒含 長石 角閃石	赤褐	搬入土器 (讃岐)
454	弥生土器 壺	16 覆土	底径5.8 体部最大径 18.4	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、中位に最大径をもつ楕円形状を呈す。 頸部はゆるやかに屈曲して、直立気味にたちあがる。	頸部から体部上半外面はナデ。 体部下半外面はタテヘラミガキ。 体部内面、上半はタテ方向のナデを基本としながら、ユビオサエ痕を多くのこし、下半は、タテ方向のナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)黄灰 (外)橙	
455	弥生土器 壺	覆土	底径5.3 体部最大径 14.3	底面は平底を呈す。 体部は内彎にしてたちあがり、最大径を中位にもつ楕円形状を呈す。	体部外面、上半はタテハケ、中下半はタテヘラミガキ、内面は、繊維束状の工具によるナデ。	0.5～2㎜大砂粒少量含 石英	(内)オリーブ黒 (外)黄橙	
456	弥生土器 壺	覆土	底径7.8	底面は平底。底部端はやや外方に拡張する。 底部端に2孔ずつ対に焼成前穿孔。 体部は内彎気味に外方にたちあがる。 なお、図化不能であったが、体部上半に4条単位の櫛描直線文を横位にまた部分的に縦位にも施している。	体部外面タテ方向板ナデ、底部周辺はヨコナデ、内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒少量含 石英	にぶい赤褐	搬入土器 (?)
457	弥生土器 壺	覆土	底径8.8 体部最大径 25.5	底面は平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、球形状をなす。	体部外面タテハケ。 内面、最大径付近はユビオサエ痕を多数のこし、下半はタテ方向のユビナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英	にぶい黄橙	
458	弥生土器 壺	8 覆土	底径10.2	底面はわずかに上げ底を呈す、部厚い底部。 体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	体部外面一部にタテヘラミガキが観察できるが、主としてナデ、内面はナデ、内底面にユビオサエ痕をのこす。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 砂岩	(内)褐灰 (外)淡橙	
459	弥生土器 壺	覆土	底径7.6	底面は平底を呈す。 部厚い底部。 体部は内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガキ。 内面・底面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩	(内)黒褐 (外)明赤褐	
460	弥生土器 壺(?)	覆土	底径5.0	底部はややまるい平底。 体部はわずかにくたびれた後、内彎気味に外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい赤褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
461	弥生土器 壺	覆土	底径7.9	底面は平底、体部は直線的に大きく外方にたちあがる。	体部外面は一部にタテヘラミガキが観察できるが、主としてヨコナデ内面はナデ。 底面は板ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 砂岩	灰褐	
462	弥生土器 壺	覆土	底径7.4	底部はうすく、やや丸底気味。 体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 チャート	(内)暗灰黄 (外)浅黄橙	
463	弥生土器 甕A_1ハa	11 覆土	口径22.6	内傾する体部から、「く」の字状に屈曲し、外反する口縁部をもつ。 屈曲部外面に圧痕文を施した貼付突帯を巡らす。 口縁端部はやや肥厚し、平坦におさめた端面にヘラ状工具による刻目を施す。	口縁部内面ヨコナデ。 体部外面は不明瞭だが細かいタテハケを観察でき、内面も一部にヨコハケがみられる。	0.5～4.5㎜大砂粒含 石英	明赤褐	
464	弥生土器 甕A_1イ	覆土	口径23.6	内彎する体部から、「く」の字状に屈曲し外反する口縁部をもつ。 口縁端部は上方にやや肥厚し、端面は凹面に仕上げる。	口縁部内外面ともにヨコナデ。 体部外面細かいタテハケ、内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	浅黄橙	
465	弥生土器 甕A_1ハ	7 覆土	口径28.8	内傾する体部から「く」の字状に外反する口縁部をもつ。口縁端部は肥厚させ、わずかに上方に拡張しながら、丸味をおびた平坦面に仕上げる。	口縁部内外面とも、ヨコナデ。体部外面タテハケ、内面一部にヨコハケが観察できる。	0.5～2.5㎜大砂粒含 長石 角閃石	にぶい褐	搬入土器 (讃岐)
466	弥生土器 甕A_1ロ	覆土	口径18.1	内彎してたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、上方にわずかに拡張し、ややまるくあげる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面は剝離のため不明。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	浅黄橙	
467	弥生土器 甕A_1ロ	覆土	口径15.4	内彎する体部から「く」の字状に屈曲し、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は上方にやや拡張し、端部はややあいまいにおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒少量含 石英	灰黄褐	
468	弥生土器 甕A_1イ	覆土	口径20.2	内彎してたちあがる体部から、ゆるく屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面ナデ。 内面ユビオサエ、ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
469	弥生土器 甕A_1イ	覆土	口径17.1	内傾する体部から、ゆるく屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、平坦面を意識しながらややあいまいに仕上げる。	口縁部内外面ともにナデ。 体部外面タテハケの痕跡がみうけられる。 内面はナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい褐	
470	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径12.8	内傾する体部から、ゆるく屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦面を意識しながら、あいまいに仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)黒褐 (外)明褐	
471	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径18.4	「く」の字状に屈曲して外反する口縁部。 口縁端部は、ややまるくおさめる。	内外面ともにヨコナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 絹雲母	橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
472	弥生土器 甕	覆土	——	内彎してたちあがる体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面ナデ。 内面ヨコ方向ナデ。	1～3.5㎜大砂粒含	橙	
473	弥生土器 甕	覆土	底径6.4	底面は平底を呈す。 体部は内彎して外方にたちあがる。	体部外面、タテヘラミガキ。 内面はナデ。	1～2㎜大砂粒含	(内)褐 (外)橙	
474	弥生土器 甕(?)	覆土	底径7.4	底部は高台状の上げ底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面、タテヘラミガキ。 内面および底面はナデ。	1～4㎜大砂粒含 石英 長石	にぶい黄橙	搬入土器 (讃岐)

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
475	スクレイパー	覆土	5.0	7.5	1.6	59.11	完存	サヌカイト	下辺に、両極打法による粗い刃部形成。
476	スクレイパー	覆土	5.6	3.8	1.0	14.89	完存	サヌカイト	下辺使用によると思われる剝離あり。 右辺鋭いエッジをもつ。
477	柱状片刃石斧	覆土	13.8	2.2	4.0	286	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	全面ていねいに研磨、抉りなし。
478	砥石	4、8、9、11 覆土	34.2	21.9	8.0	7900	接合	砂岩	4分割で納められる。 被熱。自然面に砥面

第25表　SK1045　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
479	弥生土器 壺	上面	——	頸部開き気味にやや外彎してたちあがる。 上端と下端に断面三角形。 台形の貼付突帯を巡らす。	頸部外面ヨコナデ。 内面ナデ。	1.5～2.5㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
480	弥生土器 壺	上面	——	直線的に内傾する体部上半。 頸部との境に断面カマボコ形の貼付突帯を巡らす。 突帯から下に櫛描の直線文、波状文、波状文、直線文を施す。	体部外面ナデ。 内面はユビオサエ、ナデ。	0.5～2.5㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
481	弥生土器 壺	覆土	——	断面三角形の突帯を2条巡らす。 頸部下端。 頸部はさらに外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	0.5～2㎜大砂粒少し含 結晶片岩 石英	黄橙	
482	弥生土器 壺G	覆土	——	外彎気味にたちあがる筒状の頸部。 上下については円孤文の向きで判断。 中位に櫛描の円孤文、簾状文が施される。	外面はタテハケ、内面ナデ。	1～5㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	黄橙	
483	弥生土器 甕B_1イa	覆土	口径19.9	わずかに内彎して直立気味にたちあがる体部からゆるく屈曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部は、平坦におさめる。 刻目を施しているような痕跡もみえるが不明。	口縁部・体部とも、外面は剝離のため不明、内面はナデ。	1～3㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
484	弥生土器 甕A_1イ	覆土	口径16.4	内彎気味にたちあがる体部から、ゆるく屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面ともに剝離のため不明。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい黄橙	
485	弥生土器 甕A_1イa	覆土	口径10.6	内彎する体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめ、刻目を施す。	口縁部外面ユビオサエ、内面ナデ。 体部内外面ともナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	浅黄橙	
486	弥生土器 鉢	覆土	底径8.5	底面は平底を呈す。 体部は内彎気味にわずかに外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。体部下端にユビオサエ、底面、内面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英	赤褐	黒班あり。
487	弥生土器 壺(?)	覆土	底径8.5	底面は平底を呈す。 体面は直線的に外方にたちあがる	体部外面タテヘラミガキ。 底面および内面はていねいなナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 泥岩	橙	

第26表　SK1049　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
488	弥生土器 壺Aef	A、B 覆土	底径10.0 体部最大径 32.2	底面は上げ底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、ややいびつなイチジク形を呈す。 頸部はゆるやかに屈曲して直立し、口縁部は、さらにゆるやかに屈曲して外反する。 頸部から体部上端にかけて、櫛描の直線文、波状文、直線文、円孤文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。 頸部は内外面タテ方向ナデ。 内面は、ユビオサエ、ナデ。 下半、外面は、ユビナデ、内面ナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	A、B坑の接合品(?)
489	弥生土器 壺H	A、B 覆土	口径17.1 底径8.0 体部最大径 30.0 器高(39.0)	底面は上げ底を呈す。 体部は内彎気味にたちあがり、上位最大径付近から大きく内彎する倒卵形を呈す。 口縁部はゆるやかに屈曲して、ほぼ直立する。 口縁端部はまるくあいまいにおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 底部内外面にユビオサエ痕あり。底面ナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	下位にコゲツキ痕あり

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
490	砥石	A 上面	29.1	21.5	9.2	7500	完存	砂岩	自然面の3面に砥面。 特に表裏面については、凹面を呈し石皿状をなす。

第27表　SK1168　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
491	弥生土器 甕(?)	覆土	底径6.8 孔径(1.8)	底部中央に焼成前穿孔あり。底面は平底を呈し、体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	内外面ともナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)暗赤灰 (外)赤	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
492	弥生土器 壺(？)	覆土	底径8.5	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	内外面ともナデ。 底面はケズリ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰赤 (外)橙	

第28表　SK1178　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
493	弥生土器 壺A_1a	覆土	口径14.7	大きく外反する口縁部。 口縁端部はやや下方に拡張し平坦におさめる。 端部には刻目を施す。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
494	弥生土器 壺A_1a	覆土	口径13.6	外反する口縁部 口縁端部はやや肥厚させ、平坦におさめるが、下端にD字形の刻目を施す。	内外面ともにナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩	赤黒	
495	弥生土器 壺F_1	覆土	口径12.9	外彎気味に直立する頸部から直線的に外反する口縁部をもつ。 口縁端部をやや肥厚させてまるくおさめ、瘤状の尖起を2つづつ9ヶ所に施す。 口縁下に断面三角形の貼付突帯をめぐらし、上の突帯には、棒状工具による軽い刻目を施す。	剝離のため、内外面とも不明。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	灰	2次焼成か。土器変質
496	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径29.3	内彎してたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、まるくおさめる。	口縁部内外面ともヨコナデ。 体部外面上部はヨコヘラミガキ。 内面ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐	
497	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径43.4	内彎気味にたちあがる体部から、屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部はまるくおさめる。	口縁部は内外面ともにナデ。 体部外面は、ヨコ方向ナデ。 ていねいに仕上げている。 体部内面はヨコヘラミガキ。	1～8㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
498	弥生土器 甕A_1イ	覆土	口径33.0	内彎気味にたちあがる体部から「く」の字状に屈曲して、外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面ヨコ方向ミガキ。 内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
499	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径30.8	内彎気味にたちあがる体部から「く」の字状に外反する口縁部をもつ。 口縁端部は丸くおさめている。	口縁部・体部の内外面とも、ナデ。 ていねいに仕上げている。	1～5.5㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)橙 (外)黒褐	
500	弥生土器 甕A_1ハ	覆土	口径39.8	内彎してたちあがる体部から、屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部はやや肥厚させて、平坦におさめる。 頸部外面に板状工具で刻目をつけた突帯を貼付している。	内外面とも剝離激しく、不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
501	弥生土器 鉢A_1	覆土	口径34.6	内彎してたちあがる体部から屈曲して小さく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面とも剝離のため不明	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
502	弥生土器 鉢A_1	覆土	口径19.5	体部は内彎してたちあがり、やや肩をはる。 口縁部はゆるく屈曲して、外反する。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面ともナデによる。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)明赤褐 (外)橙	
503	弥生土器 鉢	覆土	底径8.9	底面は平底を呈す。 体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	内面は、ていねいなヘラミガキ。 体部外面および底面は、ナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 チャート	にぶい橙	
504	弥生土器 鉢	覆土	底径7.0	高台状の上げ底を呈す。 底面は体部に比してうすい。 体部は内彎気味に大きく外方にたちあがる。	体部外面および底面はナデ。 体部内面は下半部にユビナデ、上半はていねいなナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 結晶片岩	橙	
505	弥生土器 甕	覆土	底径10.0	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面上から、ヨコヘラミガキ。 右上り、ヘラミガキ、ヨコナデ。 外傾接合痕で、破損している。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明赤褐	

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
506	スクレイパー	覆土	3.1	5.3	0.8	8.21	完存(?)	サヌカイト	下辺、縁辺を使用。 使用による刃こぼれとおもわれる痕跡あり。
507	スクレイパー	覆土	5.0	5.1	1.5	15.23	完存(?)	サヌカイト	左辺は自然面、右辺は裁断面。 下辺に主要剝離面側からの片面調整による刃部形成。
508	打製石庖丁	覆土	11.8	4.7	0.8	50.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	欠損品の接合。 両端わずかに抉りあり。
509	小型方柱状 片刃石斧	覆土	5.0	1.4	1.0	6.98	左側欠損 (?)	泥岩	裏面は巻貝の化石痕あり。 刃部の片側を中心に研磨。 多くは自然面ないし、剝離面。

第29表　SD1001　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
510	弥生土器 壺Aef	覆土	—	内彎する体部からゆるやかに屈曲し、直立する頸部につながる。 頸部に、ヘラ状工具圧痕による列点文、体部上半に櫛描波状文が確認できる。	全面に剝離激しいが、頸部、体部外面は、一部でタテハケが確認できる。 内面はナデ。	1～5㎜ 大砂粒多く含 結晶片岩 石英	(内)灰白 (外)橙	
511	弥生土器 壺	覆土	底径8.2	底面は上げ底を呈す。 体部は内彎して大きく外方にたちあがる。	体部外面ナデ。 底面および内面はユビオサエ、ナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)灰黄褐 (外)橙	
512	弥生土器 壺	覆土	底径9.0	底面は丸底を呈す。 体部は外彎気味にくびれて大きく外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい黄橙	
513	弥生土器 甕A_1ニ	覆土	口径27.3	内傾する体部から「く」の字状に外反する口縁部をもつ。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含	(内)にぶい黄褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				口縁端部はやや丸味をおびながら、平坦におさめる。		結晶片岩 石英	(外)橙	
514	弥生土器 甕A_1イ	覆土	口径22.9	内彎する体部から、「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部内外面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	明黄褐	
515	弥生土器 甕	覆土	底径6.1	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面は、タテヘラミガキ。 底部外面ヨコナデ。 底面はていねいなナデ。 内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)暗灰黄 (外)明赤褐	

第30表　土壙・土坑(弥生時代)出土遺物観察表（土器、土製品と石器は別に記載）

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
518	弥生土器 甕(？)	SK1029 覆土	底径8.2	底面は平底を呈す。 体部は外彎気味にくびれて、外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。 内面底部にユビオサエ痕のこす。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)にぶい黄橙 (外)橙	
519	弥生土器 甕	SK1029 覆土	底径5.1	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はわずかに内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガキ。 底部外面はヨコナデ。 底面はナデ。 内面はヨコ方向を中心とする板ナデを基本とするが、ユビオサエ痕も多くのこす。	0.5～2㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)褐灰 (外)灰褐	
524	弥生土器 壺(？)	SK1051 覆土	底径10.0	底面は平底を呈す。 体部は部厚い底部から、直線的に外方にたちあがる。	体部外面は、剝離のため判然としないが、タテヘラミガキであったようにみられる。 内面および底面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	黒班あり
527	弥生土器 壺	SK1057 覆土	底径10.8	底面は平底を呈す。 体部はややくびれたのち、内彎気味に大きく外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガキ、底部外面および、底面はナデ。 内面はナデが主であるが、底面にくもの巣状にハケを施す。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)褐灰 (外)にぶい橙	
528	弥生土器 壺	SK1062 覆土	底径2.5	底面は平底を呈す。 体部はわずかに内彎気味にたちあがる。	体部外面は単位の短いタテヘラミガキ。底面はナデ。 内面は板ナデと考えられる。	1～2㎜ 大砂粒含	(内)浅黄橙 (外)橙	ミニチュア
529	弥生土器 甕(？)	SK1062 覆土	底径4.3	底面はほぼ平底を呈す。 部厚い底部から体部は、直立気味にたちあがる。	内外面ともナデ。 底部外面一部にユビオサエ痕をのこす。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
530	弥生土器 甕	SK1062 覆土	底径5.7	底面は平底を呈す。 体部はほぼ直線的に外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガキ。 底面および内面はナデ。	1～2㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩 泥岩	(内)にぶい黄橙 (外)橙	
531	弥生土器 壺	SK1063 覆土	——	内彎してたちあがる体部上半。 上から櫛描の直線文、波状文、	外面ナデ。 内面ユビオサエ痕多数の	0.5～2㎜大砂粒	(外)にぶい赤褐	搬入土器 (讃岐)

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				直線文を施す。	こる。	多く含 長石 角閃石	(内)オリーブ褐	
533	弥生土器 壺A_1e	SK1069 覆土	口径18.6	やや外方に開く頸部から。 ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 頸部に櫛描波状文、簾状文を施す。	内外面とも剝離のため不明。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
534	弥生土器 甕	SK1069 覆土	底径6.1	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	外面は幅広のタテヘラミガキ。 内面はナデ。 底面はナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 チャート	橙	
536	弥生土器 壺A_1	SK1075 覆土	口径9.7	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部はわずかに肥厚させながら、平坦におさめる。	内外面ともにナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
537	弥生土器 甕A_1ニ	SK1075 覆土	口径15.8	体部から短く外反する口縁部。 口縁端部はやや丸味をおびた平坦面。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	橙	
550	弥生土器 甕A_1ロ	SK1132 覆土	口径17.8 底径5.5 体部最大径 (25.3) 器高(32.9)	底面は平底を呈す。体部は内彎気味に外方にたちあがり、倒卵形を呈す。 屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、わずかにつまみあげ、外面は平坦におさめる。	口縁部内外面はヨコナデ。 体部外面上半はタテハケのちヨコないし、左下りハケ。 下半はタテハケを重ねる。 底面もハケとナデによる。 体部内面下半はタテヘラケズリ、上半はヨコまたは左上りのヘラケズリ。 いずれもていねいに削り単位がみえにくい。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい橙	
551	弥生土器 壺A_1	SK1157 覆土	口径14.2	直立する頸部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面ともにナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)赤黒 (外)にぶい黄橙	
552	弥生土器 甕	SK1157 覆土	底径6.5	底面はわずかな上げ底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	内外面ともナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤	
553	弥生土器 壺(?)	SK1159 覆土	底径7.8	底面は平底を呈す。 体部はわずかに内彎気味に外方にたちあがる。	内外面とも剝離のため不明。	1～7㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)明褐 (外)橙	
554	弥生土器 甕	SK1164 覆土	底径7.1	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面一部にタテヘラミガキ痕をのこすが、ナデが主体。 底面はケズリ。内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)にぶい黄橙 (外)橙	
556	弥生土器 壺A_1e	SK1171 覆土	口径14.3	頸部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。 口縁端部はやや丸味をおびているが平坦におさめる。 頸部に簾状文を施す。	頸部外面はタテハケのち簾状文。 口縁端部はハケ状工具によるナデ。 口縁内面はヨコハケ。 頸部内面はナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	浅黄橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
557	弥生土器 壺A′$_1$	SK1171 覆土	口径16.0	体部からゆるやかに頸部に移行し、口縁部はゆるやかに外反する。 口縁端部は平坦におさめる。	内外面とも剝離により不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	
558	弥生土器 壺A$_1$	SK1171 覆土	口径17.2	直立する頸部から、ゆるやかに屈曲して、外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部損傷激しいが、まるくおさめているものと考えられる。	内外面とも剝離激しく不明。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 チャート 結晶片岩	にぶい黄橙	
559	弥生土器 壺Ae	SK1171 覆土	頸部径7.8	体部は内彎してたちあがり、頸部はほぼ直立する。 頸部に櫛描直線文を2重にめぐらせている。	外面は、櫛描部分以外は剝離のため不明。 内面・体部上半に指オサエ痕多数残る。	1～2㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	(内)灰褐 (外)橙	
560	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径9.8	底面は平底を呈す。 体部はわずかに内彎気味に大きく外方にたちあがる。	体部外面はタテハケのちナデ。 底面はナデ。 内面は剝離はげしいがナデと思われる。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい黄橙	
561	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径8.5	底面はほぼ平底を呈す。 体部は内彎して外方にたちあがる。	体部外面は強いナデにより各所に稜をのこす。 内面は、ユビオサエ痕が多く、外傾接合痕が観察できる。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 チャート 絹雲母	にぶい黄橙	
562	弥生土器 壺	SK1171 覆土	底径8.3	底面はやや上げ底を呈す。 体部はわずかに内彎しながら外方にたちあがる。	内外面とも板状工具と指によるナデ。	2～3㎜ 大砂粒含 石英 チャート	(内)褐灰 (外)にぶい橙	
563	弥生土器 甕	SK1171 覆土	底径6.5	底面は平底を呈す。 体部はやや内彎気味に外方にたちあがる。	内外面ともナデ。	1～4㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	赤	
564	弥生土器 甕(?)	SK1171 覆土	底径5.9	平底を呈し、体部は外方にたちあがる。	底面円盤状に整え、その上に体部つみあげ。	2～3㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	赤	
565	弥生土器 壺(?)	SK1171 覆土	底径8.3	底面は平底を呈す。 体部はわずかに外彎気味に外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。 底部内面の粘土塊充塡痕を観察できる。	1～2㎜ 大砂粒含	(内)褐灰 (外)にぶい橙	
567	弥生土器 壺(?)	SK1174 覆土	底径10.9	底面はわずかに上げ底を呈す。 体部はわずかなくびれをもちながら、内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガキとナデによる。下端のわずかにくびれた部分の短い単位のミガキが特徴的。内面および底面はナデ。	1～8㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰黄褐 (外)橙	黒斑あり
568	弥生土器 壺B$_1$c	SK1175 覆土	口径21.0	体部から、ゆるやかに屈曲して、ラッパ状に開く長い口頸部をもつ。 口縁部はわずかに肥厚し、端面は凹面に仕上げる。 頸部・体部の境に、断面三角形の刻目突帯を2条貼りつける。	全面剝離激しいが口縁部内外面はヨコナデ。 頸部は内面の一部にタテハケを施すが、主として内外面ともにナデ。 体部もナデを主とし、内面にユビオサエがみられる。	1～6㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
569	弥生土器 甕A_1イ	SK1175 覆土	口径35.1	内彎気味に直立する体部から屈曲して外反する短い口縁部をもつ。	内外面とも剝離のため不明。	1～6㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	明黄褐	
570	弥生土器 壺(？)	SK1175 覆土	底径7.6	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	内外面ともに剝離のため不明。 底部輪台技法が観察できる。	1～6㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	(内)浅黄橙 (外)赤	
571	弥生土器 鉢A	SK1176 覆土	底径4.0	直立する底部から、体部は内彎気味に外方にたちあがり、ゆるやかに屈曲して口縁部につづく。	底部外面ナデ。体部外面は短い単位のタテヘラミガキを中心に右下りミガキも観察できる。 口縁屈曲部外面は、ナデとヨコヘラミガキの併用。 内面は板ナデとみられる。	1～2㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)明赤褐 (外)橙	
573	弥生土器 甕B_1ニ	SK1188 覆土	口径20.8	ゆるやかに彎曲して外反する口縁部。 端部はまるくおさめる。	内外面とも剝離激しく不明。	1～8㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	体部の破片多数あるが非接合

番号	器　種	地点 層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	胎　土	色　調	備　考
541	土製紡錘車	SK1127 覆土	3.2	2.8	0.6	0.6	6.44	1～2㎜大砂粒含 石英 チャート	にぶい褐色	未製品 土器片利用。 外面より孔を穿つ途中のもの。
572	土製円板	SK1176 覆土	6.1	4.8	0.8		18.46	1～3㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	無孔であるが、土器片の縁辺をうち欠いて、円板状に仕上げたものと思われる。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
516	柱状片刃石斧	SK1017 覆土	(2.9)	(3.1)	3.3	286	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	全面ていねいに研磨。表面はまるく稜がはっきりしない。表面中央部に弱い敲打痕多数のこる。
517	砥石	SK1028 覆土	15.6	11.3	7.8	(1910)	周縁欠損	砂岩	被熱 自然面の一面に弱い砥面と粒状の敲打痕。
520	石鏃	SK1029 覆土	2.2	1.3	0.4	1.05	完存	サヌカイト	凹基無茎。
521	スクレイパー	SK1029 覆土	5.8	5.7	1.3	39.09	完存(？)	サヌカイト	下辺粗い両面調整による刃部形成。
522	叩石	SK1029 覆土	(12.1)	3.4	2.6	(184)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	棒状の自然面の中央部に粒状の敲打痕。下端部も敲打に利用か。
523	砥石	SK1034 覆土	(20.9)	12.6	5.5	(2000)	一部欠損	砂岩	被熱 自然面の3面に砥面。表裏面は、入念に砥ぎ凹面をなす。 側面の砥面は凸面。
525	打製石庖丁	SK1051 覆土	(5.6)	(3.9)	(0.7)	(18.0)	欠損品	結晶片岩 (石英片岩)	

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
526	磨製石斧？	SK1051 覆土	(6.9)	(8.4)	(4.3)	(402)	破片	ハンレイ岩	未製品か。 形のよい自然石の側辺を敲打。 敲打箇所を一部研磨。
532	小型扁平石斧 (？)	SK1068 覆土	(5.2)	3.3	0.85	(2.32)	欠損(？)	結晶片岩 (黒色片岩)	小型の磨製石斧の未製品か。 縁辺からの敲打により成形された段階。
535	打製石庖丁	SK1069 覆土	(5.0)	(4.4)	(1.1)	(41)	欠損品	結晶片岩 (緑色片岩)	端部の抉り認められず。
538	石鏃	SK1082 覆土	1.7	1.1	0.2	0.54	完存	サヌカイト	平基無茎。
539	叩石	SK1109 覆土	(6.5)	(4.4)	(1.8)	(102)	欠損	結晶片岩	扁平棒状の自然石の先端部に弱い敲打痕と擦痕あり。
540	砥石	SK1111 覆土	(9.2)	(5.8)	(1.4)	(112)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	１面を砥面とする。左辺の敲打の状況から、石庖丁または磨製石斧に転用途中のものか。またはその逆。
542	石鏃	SK1127 覆土	1.8	1.4	0.25	0.81	完存	サヌカイト	凹基無茎。
543	石鏃	SK1127 覆土	(1.5)	(1.5)	0.5	(1.07)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
544	石鏃	SK1127 覆土	(2.1)	1.8	0.3	(1.37)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
545	楔形石器(？)	SK1127 覆土	2.3	1.5	0.45	1.74	——	サヌカイト	左右辺は裁断面。 (両面調整による剝離とも見え、石鏃片の可能性もある。)
546	楔形石器	SK1127 覆土	1.8	2.0	0.6	2.83	——	サヌカイト	下辺は両極打法による。 他辺は裁断面。
547	楔形石器	SK1127 覆土	3.2	2.7	0.5	5.44	——	サヌカイト	上辺および左右辺は裁断面。 下辺は両極打法によるもの。
548	打製石庖丁	SK1127 覆土	(2.3)	(3.7)	(0.5)	(6.0)	欠損品	結晶片岩 (石英片岩)	抉りあり。
549	叩石	SK1129 覆土	7.1	6.7	4.8	328	完存	ハンレイ岩	表面と側縁辺を中心に粒状、筋状の敲打痕が観察できる。円礫利用。
555	太型蛤刃石斧	11区 SK1164	14.5	6.3	(3.5)	(520)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	全面敲打による、整形後、刃部と基部端を中心に研磨。 基部付近には、敲打痕のこる。
566	磨製石斧	SK1171	(22.9)	(7.9)	(5.7)	(1850)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 太型蛤刃石斧の未製品とみられる。 全面敲打。被熱。

第31表　柱穴・小穴(弥生時代)出土遺物観察表（土器と石器は別に記載）

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
574	弥生土器 壺	SP1343 覆土	底径9.0	底面は平底を呈す。 体部はやや内彎気味に、外方にたちあがる。 なお、図化不能であるが体部上半～頸部に、２列の竹管文が観察できる。	体部外面、内面は、タテハケの痕跡をのこす。 底面については、ナデ。 成形時の粘土紐痕が観察できる。 円盤上に輪積み、外傾接合。	１～６㎜ 大砂粒含 石英 チャート 泥岩	淡黄	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
575	弥生土器 甕B_1ニ	SP1343 覆土	口径21.6	内彎してたちあがる体部から、ゆるやかに屈曲して外反する短い口縁部をもつ。 口縁端部は損傷しているが、その形状から丸くおさめているものと考えられる。	内外面とも剝離のため不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
576	弥生土器 甕	SP1343 覆土	底径6.4	底面は平底を呈す。 体部は、わずかに外彎気味にたちあがる。	体部外面はタテヘラミガキのちナデ。 底面はナデ。内面はタテヘラミガキ。	1㎜～1cm大砂粒含 石英 チャート	(外)橙 (内)赤灰	
577	弥生土器 壺G(？)	SP1371 覆土	口径10.8	一方の端面破損のため、上下不明。 筒状で、両端面、ゆるやかにラッパ状に外反する。	外面はナデ。 内面にユビオサエ痕と、ヨコハケの痕跡をのこす。	1～2㎜ 大砂粒含	淡黄	
578	弥生土器 壺	SP1609 覆土	底径8.2	底面は平底を呈す。 体部はわずかに外彎気味にくびれをもったのち、内彎気味に外方にたちあがる。	内外面ともナデ。 底部中央に内面より粘土充填し、成形の痕跡あり。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黄橙 (外)にぶい黄橙	
581	弥生土器 甕A_1イ	SP1880 覆土	口径15.0	内彎気味にたちあがる体部から直角に近い角度で屈曲して外反する口縁部をもつ 口縁端部は平坦におさめる。	体部外面に、ハケ状の痕跡をわずかに残すが主にナデ。 口縁および体部内面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩 チャート	浅黄橙	
585	弥生土器 壺A_1	SP1552 覆土	口径12.4	やや外方に開き気味の頸部から、ゆるやかに屈曲して外反する口縁部をもつ。 口縁端部は平坦におさめる。	頸部外面にタテハケの痕跡をのこす。口縁部外面はナデ。 内面はナデのようであるが、やや粗い仕上げの感がある。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
586	弥生土器 鉢(？)	SP1548 覆土	底径12.0	底面は上げ底を呈す。 底面端は外方に張り出し、内傾して、体部は外方にたちあがるものと考えられる。	内外面とも剝離はげしく不明。	1～4㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	赤橙	

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
579	柱状片刃石斧	SP1748 覆土	14.2	1.7	3.8	158	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 自然石を利用し、敲打による成形後、表面、刃部の一部を研磨。
580	太型蛤刃石斧	SP1762 覆土	17.9	(5.2)	(3.8)	(575)	半分欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	ほぼ全面研磨。破損後叩石として利用か。 粒状の敲打痕集中。
582	石鏃	SP1273 覆土	2.5	1.0	0.3	(0.53)	一部欠損	サヌカイト	凸基無茎。木葉形。
583	石鏃	SP1389 覆土	(3.3)	1.1	0.3	(1.58)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
584	楔形石器	SP1361 覆土	2.7	1.4	0.6	2.39	——	サヌカイト	左辺は裁断面、右辺は半分裁断面、半分は両極打法で、鋭角な縁辺形成。 下辺は右辺と同様。上辺は、両極打法による鋭角な縁辺。

第32表　SR2001　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
587	弥生土器 壺A_1	4区 覆土	口径18.0	外彎してたちあがりラッパ状にひらく口頸部。 口縁端部はわずかに下方に肥厚し、平坦におさめる。	内外面とも剝離のため不明。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	
588	弥生土器 壺A_1	4区 覆土	口径16.1	外彎してたちあがり、ラッパ状にひらく口縁部。 口縁端部はややふくらみをもって平坦におさめる。	口頸部外面は剝離のため不明。 内面はナデ。	1～6㎜ 大砂粒多く含 石英 結晶片岩	橙	
589	弥生土器 壺A_1	4区 覆土	口径22.2	外彎してたちあがり、ラッパ状にひらく口縁部。 口縁端部はわずかに肥厚し、平坦におさめる。	内外面ともに剝離のため不明。	1～9㎜ 大砂粒多く含 結晶片岩 石英	橙	
590	弥生土器 壺A_1	4区 M-11 覆土	口径17.8	内傾する体部から、外彎してたちあがり、ラッパ状にひらく口頸部。	内外面とも剝離のため、不明。	1～8㎜ 大砂粒含	にぶい黄橙	
591	弥生土器 壺A_1	4区 K-12 L-12 覆土	底径9.1 体部最大径 23.1	わずかに上げ底の部厚い底部。 体部は内彎して、外方にたちあがり、卵形で最大径位置の低い形状をなす。 さらにゆるやかに外彎して頸部につながるが、端部はおさまるものか、さらにのびるものか損傷はげしく不明。	頸部および体部上半は剝離のため不明。 体部外面下半にはタテヘラミガキと、タテハケの双方が確認できる。 底部外面、底面、内面はナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 チャート	(内)褐灰 (外)灰白	
592	弥生土器 壺Ae	4区 L-12 覆土	——	外彎気味にたちあがる頸部。 頸部下端に櫛描波状文をめぐらす。	頸部内外面ともナデ。	1～4㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	灰白	
593	弥生土器 壺	4区 M-12 覆土	底径8.2	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はややくびれたのち内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面、剝離のため不明。 内面はナデ 底部外面ユビオサエ、底面もユビオサエ、ナデ。	1～8㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい褐	
594	弥生土器 壺	4区 覆土	底径5.6	底面は上げ底を呈す。 体部は内彎気味に外方にたちあがる。	体部は内外面ともナデ。 外底面ナデ、内底面にユビオサエ痕あり。	1～5㎜ 砂粒含 結晶片岩 泥岩	(内)にぶい黄褐 (外)橙	
595	弥生土器 壺	4区 覆土	底径8.4	底面は平底を呈す。体部は部厚い底部からややくびれて内彎気味に大きく外方にたちあがる。	体部外面剝離激しいが、ヘラミガキに特有な剝がれ方をしている。底面ナデ、内面はユビオサエ痕多数のこる。	1～5㎜ 砂粒含 結晶片岩 石英	(内)褐灰 (外)橙	
596	弥生土器 壺	4区 L-12 覆土	底径7.6	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	外面は剝離のため不明。 内面はナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)黄褐 (外)橙	
597	弥生土器 壺	4区 L-12 覆土	底径10.1	底面は平底を呈す。 体部は内彎して、大きく外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 底部外面ヨコナデ。 底面・内面ナデ。	1～7㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	にぶい橙	
598	弥生土器 甕B_1ニ	4区 M-12 覆土	口径17.9	直立気味にたちあがる体部から、ゆるく屈曲して外反する、いわゆる如意形口縁を呈す。	口縁部・体部とも内外面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英	明赤褐	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				口縁端部は、まるくあいまいにおさめる。		結晶片岩		
599	弥生土器 甕C_1ニ	4区 L-11・12 覆土	口径12.3 底径4.8 体部最大径 11.3 器高(14.1)	底面はほぼ平底を呈す。 体部は内彎してたちあがり、屈曲して外反する短い口縁部をもつ。口縁端部はまるくあいまいにおさめる。	口縁部内外面ナデ。体部上半は、外面は剝離のため不明。内面はナデ。下半の外面はタテヘラミガキ。内面はナデ。 底部外面、底面はナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(外)にぶい褐 (内)灰	
600	弥生土器 甕	4区 覆土	底径5.2	底面は上げ底を呈し、体部はややくびれて、直線的に外方にたちあがる。	体部外面タテヘラミガキ。 底部外面ヨコナデ、底面ナデ、内面ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
601	弥生土器 甕	4区 覆土	底径6.0	底面は平底を呈す。 体部は内彎気味に外方にたちあがる。	体部外面ナデ。 底面、内面剝離激しいが、内底面にユビオサエ痕のこる。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	黒斑あり。
602	弥生土器 甕	4区 覆土	底径7.4	底面は平底を呈し、底部端をやや外方に拡張する。体部は、直線的に外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～4㎜ 大砂粒多く含 結晶片岩 石英	淡黄	
603	弥生土器 甕(?)	4区 M-12 覆土	底径5.5 孔径1.8	底面は上げ底、中央に径1.8cmの穿孔を施す。 体部はややくびれて、外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～7㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
604	弥生土器 鉢	4区 覆土	底径6.7	底面は高台状の上げ底を呈す。 体部はややくびれて外方にたちあがる。	内外面ともにナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	
605	弥生土器 鉢D	4区 L-11・12 覆土	底径12.3	底面は上げ底を呈す。 体部は直線的にやや内傾してたちあがる。 底部端に、斜めに2孔あり。対になるものと推定される。	体部外面タテヘラミガキのちナデ。 底面および内面はナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 チャート	橙	
606	弥生土器 高杯	4区 L-11・12 覆土		外彎気味に直立する脚柱部、杯部との境に、2条の貼付刻目突帯を巡らす。	脚柱部外面ナデ。 杯部内面および脚柱部内面はナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	浅黄橙	

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
607	石鏃	4区 覆土	2.8	(2.0)	5.0	(2.11)	脚端 一部欠損	サヌカイト	凹基無茎。
608	石鏃	4区 覆土	2.3	1.4	0.4	(1.46)	脚端 一部欠損	サヌカイト	凹基無茎。
609	石鏃	4区 K-12 覆土	1.9	1.4	0.3	0.55	完存	サヌカイト	凹基無茎。
610	石鏃	4区 覆土	2.2	1.9	0.3	(1.08)	一部欠損	サヌカイト	凹基無茎。
611	石鏃	4区 L-12 覆土	(2.3)	1.9	0.4	(1.82)	先端欠損	サヌカイト	凹基無茎。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
612	石鏃	4区 覆土	(1.7)	1.6	0.3	(0.56)	先端欠損	サヌカイト	凹基無茎。
613	石鏃	4区 K-12 覆土	3.1	1.2	0.4	1.54	完存	サヌカイト	凸基有茎。
614	石錐	4区 K-13 覆土	(3.6)	1.1	0.4	(1.70)	先端欠損	サヌカイト	棒状
615	石槍	4区 K-11 覆土	(4.8)	(2.6)	(1.4)	(24.04)	先端欠損	サヌカイト	両極打法による粗成形ののち、両側辺は両面の調整による。
616	楔形石器	4区 L-12 覆土	4.8	4.0	1.5	43.45	——	サヌカイト	上辺・左辺は裁断面、下辺は両極打法による。
617	スクレイパー	4区 J-12 覆土	8.1	2.2	5.1	10.97	完存(?)	サヌカイト	下辺に主として両極打法を主とし、部分的に両面調整を加えた刃部形成
618	スクレイパー	4区 覆土	5.3	6.0	1.1	40.45	完存(?)	サヌカイト	下辺および、左辺両極打法による刃部形成。 左辺については、縁辺やや磨滅。 石庖丁の破損品の可能性もあり。
619	スクレイパー	4区 L-13 覆土	5.9	3.1	1.0	15.4	完存	サヌカイト	表面は自然面。下辺は主要剝離面側からを主とする片面の調整による刃部形成。上辺一部は表面側からの片面調整による刃部形成。
620	打製石庖丁	4区 覆土	(6.6)	(3.3)	0.8	(25.02)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両極打法による刃部形成。抉りなし。
621	石鎌	4区 覆土	(8.1)	3.1	0.6	(20.63)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	
622	石鎌	4区 M-12	(6.3)	(3.6)	0.8	(23.95)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
623	打製石庖丁	覆土	(8.0)	(4.2)	1.2	(62.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
624	柱状片刃石斧	4区 L-11 覆土	(11.0)	(2.5)	(4.6)	(227)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	方柱状の自然石を利用。 表面、裏面を中心に研磨。
625	柱状片刃石斧	10区 覆土	(10.7)	3.5	2.2	(240)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部欠損。 柱状の自然礫を強い敲打により成形。 基部、側面を中心に研磨。 抉りは敲打による。
626	叩石	4区 覆土	10.0	7.6	3.7	(446)	一部欠損	ハンレイ岩	円礫両面中央と右側面に粒状の敲打痕。 下辺と左側面は、強い敲打による剝離。
627	叩石	4区 J-12 覆土	13.1	8.2	5.2	950	完存	結晶片岩 (砂質片岩)	円礫利用。 一部に粒状の敲打痕あり。
628	叩石	4区 覆土	11.3	8.9	5.5	850	完存	結晶片岩 (砂質片岩)	原礫は円礫。風化激しく敲打痕は明瞭にのこっていないが、敲打目的で使用されたものと考えられる。
629	叩石	4区 覆土	7.9	5.4	3.8	220	完存	砂岩	自然の円礫を利用。一ヶ所に集中的に粒状の敲打痕あり。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
630	叩石	4区 覆土	11.4	3.8	2.3	172	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	棒状の自然礫の両端を利用。
631	叩石	4区 覆土	(17.0)	4.6	3.0	(407)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	上端部・下端側線に粒状の敲打痕あり。 石棒の可能性もある。

第33表　SX1005　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
632	石鏃	覆土	(1.8)	0.9	0.3	(0.60)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
633	スクレイパー	覆土	3.4	2.5	0.6	4.79	完存(?)	サヌカイト	下辺・右上辺、両面調整による刃部形成。 左辺は片面調整による刃部形成。

第34表　遺物包含層等出土遺物（弥生時代）観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
634	弥生土器 壺A_1	5区 包含層	口径12.9	やや開き気味にたちあがる頸部から、屈曲して大きく外反する口縁部をもつ。 口縁端部は、わずかに下方に拡張し、端部は平坦におさめる。	口縁部は内外面ともにヨコナデ。 頸部外面はタテヘラミガキ、内面はナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	明赤褐	
635	弥生土器 壺A_1	7区 包含層	口径14.5	直立する頸部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。	内外面ともナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)にぶい黄褐 (外)黄橙	
636	弥生土器 壺A_1	7区 包含層	口径14.1	直立する頸部から、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。	内外面とも剝離激しいが、ナデによるものと考えられる。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	
637	弥生土器 壺E_1	2区 W-17 包含層	口径11.2	やや開き気味にたちあがる口頸部。口縁部わずかに外反。端部は、ややふくらみをもって仕上げる。	内外面ともにナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英	にぶい黄橙	
638	弥生土器 壺F_1	11区 包含層	口径9.7	内彎してたちあがる体部から、ゆるやかに彎曲して外反する口頸部をもつ。 口縁端部は肥厚し、上端に平坦面、上端外方に凹面をもつ。頸部に断面三角形の突帯を一条もつ。	内外面ともナデによる仕上げ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 長石 角閃石	にぶい橙	搬入土器 (讃岐)
639	弥生土器 壺A_2	7区 包含層	口径19.2	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部を外方下に拡張し、端面に3条の凹線を施す。	内外面ともナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英等	橙	
640	弥生土器 壺	11区東 包含層	底径13.45	底面は、わずかに上げ底で、分厚い底面をもつ。体部はやや外彎気味に外方へたちあがる。	体部外面はタテハケの痕跡を残すがナデが優勢。 内面は細かいヨコハケ。 一部にナデの痕跡あり。 底部に内外面より粘土充塡痕あり。	1～6㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒 (外)にぶい黄橙	
641	弥生土器 甕A_1ニ	2区 W-17	口径20.4	内傾する体部から「く」の字状に屈曲して外反する口縁部をも	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面は不明。	1～3㎜ 大砂粒含	(内)灰黄褐 (外)橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
				つ。 口縁端部はまるみをもって仕上げる。	内面ナデ。	結晶片岩 石英		
642	弥生土器 甕A_1ロ	3区Q-19 遺構面上	口径17.6	内彎してたちあがる球形にちかい体部から「く」の字状に大きく外反する口縁部をもつ。口縁端部は、わずかに上方におりまげ、端部をまるくおさめる。	口縁部内外面、ヨコナデ。 体部外面上半タテハケ、下半タテヘラミガキ。 内面上半は左上りナナメハケ。 下半はタテ方向板ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい赤褐	
643	弥生土器 鉢B_1	7区 包含層	口径20.7	内彎して外方にたちあがる体部から、口縁部は内外に拡張して端面を平坦におさめる。 端面に櫛描の斜格子を施す。	口縁部内外面はヨコナデ。 体部内面は一部にタテハケがみえるが主としてナデ。	1～6㎜ 大砂粒含 角閃石 石英	明赤褐	搬入土器 (讃岐)

番号	器　種	地点 層位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	胎　土	色　調	備　考
644	土製紡錘車	7区 包含層	3.5	3.5	0.5	0.6	4.04	1～2㎜大 砂粒含 結晶片岩	(内)灰黄褐 (外)橙	土器片利用。
645	土製紡錘車	9区 包含層	4.8	3.6	0.7	0.6	12.89	1～5㎜大 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)暗赤灰 (外)赤	土器片利用。 裏(内)面ヘラミガキ痕のこす。
646	土製円板	7区 包含層	2.9	2.8	0.6	——	5.10	1～4㎜大 砂粒含 石英 結晶片岩	橙	土器片利用の紡錘車ではないかと考えられるが未穿孔。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
647	石鏃	9区 包含層	1.9	(1.7)	0.4	(0.87)	脚端一部 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
648	石鏃	9区 包含層	1.9	(1.7)	0.4	(1.07)	脚端一部 欠損	サヌカイト	凹基無茎
649	石鏃	3区 R-20 包含層	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.38)	先端脚端 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
650	石鏃	9区 包含層	(1.7)	(0.9)	(2.5)	(0.30)	先端脚端 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
651	石鏃	10区 包含層	(2.1)	(1.5)	0.3	(1.02)	先端脚端 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
652	石鏃	7区 包含層	(1.5)	(1.4)	(0.3)	(0.86)	先端脚端 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
653	石鏃	11区 包含層	2.4	1.3	0.3	(0.92)	基部欠損	サヌカイト	平基無茎。
654	石鏃	2区 包含層	(2.9)	1.6	0.6	(2.24)	先端一部 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
655	石鏃	2区 包含層	2.2	1.2	0.3	(0.85)	一部欠損	サヌカイト	凹基無茎。
656	石鏃	1区 W-13 包含層	(2.1)	1.3	0.4	(1.18)	先端欠損	サヌカイト	凹基無茎。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
657	石鏃	9区 包含層	(2.4)	1.7	0.4	(1.62)	先端欠損	サヌカイト	凹基無茎。
658	石鏃	2区 包含層	(1.6)	(1.2)	(0.3)	(0.41)	側縁欠損	サヌカイト	凹基無茎。
659	石鏃	10区 包含層	3.0	(1.9)	0.3	(1.38)	基部欠損	サヌカイト	凹基無茎。
660	石鏃	9区 包含層	(2.9)	2.0	0.5	(2.71)	先端地 一部欠損	サヌカイト	凹基無茎。
661	石鏃	9区 包含層	2.2	1.6	0.3	(1.02)	基部一部 欠損	サヌカイト	凹基無茎。
662	石鏃	11区 包含層	(2.9)	1.8	0.4	(2.0)	先端欠損	サヌカイト	凹基無茎。
663	石鏃	9区 包含層	3.9	1.8	0.5	3.22	完存(?)	サヌカイト	未製品。
664	石鏃	3区 P-17 包含層	1.9	(1.5)	0.5	(1.25)	基部一部 欠損	サヌカイト	平基無茎。
665	石鏃	7区 包含層	(1.9)	1.9	0.3	(1.15)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
666	石鏃	2区 包含層	2.7	(0.8)	(0.4)	(0.76)	基部欠損	サヌカイト	平基無茎
667	石鏃	2区 包含層	(1.6)	1.3	0.3	(0.85)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
668	石鏃	SD1007 覆土混入	(2.0)	1.6	0.3	(1.16)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
669	石鏃	11区東 包含層	2.1	1.4	0.4	1.28	完存(?)	サヌカイト	平基無茎。
670	石鏃	8区 包含層	(3.8)	2.2	0.5	(6.28)	先端欠損	サヌカイト	平基無茎。
671	石鏃	11区 包含層	(2.0)	1.2	0.25	(0.57)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
672	石鏃	9区 包含層	1.8	1.3	0.4	0.91	完存	サヌカイト	円基無茎。
673	石鏃	2区 AG-17 旧耕作土	2.1	1.2	0.4	(0.83)	基部一部 欠損	サヌカイト	円基無茎。
674	石鏃	7区 包含層	(2.4)	1.1	0.4	(1.30)	基部欠損	サヌカイト	円基無茎(?)。
675	石鏃	8区 包含層	2.7	1.1	0.4	1.00	完存	サヌカイト	円基無茎。
676	石鏃	2区 U-18 包含層	2.5	1.1	0.3	0.86	完存	サヌカイト	円基無茎。
677	石鏃	8区 包含層	2.7	1.1	0.3	0.79	完存	サヌカイト	円基無茎。
678	石鏃	1区 V-11 包含層	(1.8)	1.1	0.4	(0.85)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
679	石鏃	9区 包含層	2.4	1.2	0.5	0.73	完存	サヌカイト	円基無茎。
680	石鏃	7区 排土	2.4	1.2	0.4	0.93	完存	サヌカイト	未製品(?) 円基無茎。
681	石鏃	9区 包含層	(2.1)	1.2	0.3	(0.86)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
682	石鏃	9区 包含層	(2.6)	(1.2)	0.3	(0.89)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
683	石鏃	8区 包含層	(3.6)	2.0	0.5	(4.05)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
684	石鏃	7区 包含層	(2.4)	(1.5)	(0.4)	(1.56)	先端欠損	サヌカイト	円基無茎。
685	石鏃	2区 AA-17 包含層	(2.4)	1.2	0.4	(1.09)	基部欠損	サヌカイト	
686	石鏃	1・2区 排土	(3.0)	(1.6)	0.4	(2.15)	基部欠損	サヌカイト	
687	石鏃	9区 包含層	(2.1)	1.3	0.4	(1.28)	先端基部 欠損	サヌカイト	
688	石鏃	SD1007 覆土混入	(3.6)	1.9	0.6	(5.11)	先端基部 欠損	サヌカイト	凸基有茎。
689	石鏃	7区 U-18 包含層	(3.0)	1.3	0.5	1.56	先端欠損	サヌカイト	平基有茎。 基部の調整細かい。錐の可能性もある。
690	石錐	11区 包含層	2.7 〈1.4〉	1.6 〈0.5〉	0.4 〈0.2〉	1.02	完存	サヌカイト	
691	石槍	1区 V-13 包含層	(6.7)	(2.4)	1.3	(21.85)	基部欠損	サヌカイト	特に基部に近い部分は、両極打法を多用しながら、先端部は両面調整を加えて成形。
692	石槍	11区 サブトレ 最上層	(7.3)	(2.0)	(1.0)	(18.0)	基部欠損	サヌカイト	
693	石槍	8区 包含層	(3.1)	(1.7)	(0.6)	(3.5)	基部欠損	サヌカイト	
694	楔形石器	7区 包含層	4.0	2.2	1.1	12.82	——	サヌカイト	左右辺は裁断面 上下辺は両極打法による。
695	楔形石器	9区 包含層	2.9	1.5	0.5	2.45	——	サヌカイト	左右辺は裁断面。上下辺は両極打法による。
696	楔形石器	9区 包含層	3.0	1.3	0.7	4.51	——	サヌカイト	両極打法による。 両辺は裁断面。
697	楔形石器	7区 盛土	2.9	3.3	0.7	7.36	——	サヌカイト	左辺は古い剝離で自然面に近い。 右辺は裁断面。 上下辺は両極打法による。
698	楔形石器	3区 包含層	1.9	2.2	1.4	9.06	——	サヌカイト	上・左右辺は裁断面。 下辺は両極打法による。
699	楔形石器	2区 包含層	2.5	1.8	1.0	5.01	——	サヌカイト	上下辺・右辺は両極打法による。 左辺裁断面。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
700	スクレイパー	1区 V-13 包含層	4.5	6.9	1.1	42.28	完存(?)	サヌカイト	下辺は両極打法による粗い刃部形成。 上辺は、主に片面からの調整。
701	スクレイパー	9区 包含層	(4.0)	(2.9)	0.6	(10.41)	欠損	サヌカイト	上・下辺、主として片面からの調整による刃部形成。右辺は裁断面。
702	スクレイパー	1区 W-13 包含層	2.9	2.5	0.6	4.90	完存	サヌカイト	左右辺は、両面の調整・下面は片面調整による刃部形成。
703	スクレイパー	7区 排土	2.1	4.0	0.6	4.92	完存	サヌカイト	上・下辺は両面調整による刃部形成。 右辺は片面調整による刃部形成。
704	打製石庖丁	8区 包含層	8.4	4.2	0.8	25.0	完存	サヌカイト	両端抉りあり。
705	打製石庖丁	7区 AB-30 包含層	9.9	4.9	1.0	74.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	片端抉りあり。
706	打製石庖丁	2区 包含層	8.9	3.3	1.4	50.9	完存	結晶片岩 (石英片岩)	片面自然面。端部抉りなし。 剝片の縁辺を刃部として利用。
707	打製石庖丁	9区 包含層	10.6	4.6	1.1	(67.0)	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りあり。
708	打製石庖丁	7区 V・W- 20・21 包含層	12.0	45.0	0.65	61.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。
709	打製石庖丁	7区 AA-23 包含層	12.7	4.4	0.6	54.0	完存	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。
710	打製石庖丁	2区 W-17 包含層	(7.9)	(3.9)	0.6	(32.7)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両面自然面のこす。 刃部、下辺のみ。両端抉りなし。
711	打製石庖丁	2区 包含層	8.8	(3.0)	0.9	(33.4)	一部欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。
712	打製石庖丁	7区 SK1106 覆土混入	8.1	3.0	1.0	32.0	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	両端抉りなし。かなり分厚く、石庖丁以外の用途に使用する可能性も考えられる。
713	打製石庖丁	4区 包含層	7.0	3.4	1.1	36.1	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。両端非加工。
714	打製石庖丁	3区 S-19 包含層	7.3	3.7	0.9	35.5	完存(?)	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りなし。両面に自然面をのこす。
715	打製石庖丁	9区 包含層	(3.6)	(6.5)	(1.2)	(26.0)	半分欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。
716	打製石庖丁	7区 U-20 包含層	(4.7)	(4.3)	(0.95)	(23.5)	半分欠損	サヌカイト	端部わずかな抉りあり。
717	打製石庖丁	2区 包含層	(5.2)	(5.3)	(0.9)	(35.5)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	
718	打製石庖丁	8区 包含層	(3.3)	(2.4)	(0.5)	(6.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
719	打製石庖丁	4区 包含層	(3.4)	(2.7)	(0.6)	(8.1)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	端部抉りあり。
720	打製石庖丁	4区 包含層	(4.4)	(2.8)	(0.5)	(13.1)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
721	打製石庖丁	7区 盛土	(8.7)	(5.0)	(1.0)	(68.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
722	打製石庖丁	10区 包含層	(7.0)	(3.9)	(0.9)	(34.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
723	打製石庖丁	2区 包含層	(6.6)	(3.9)	0.6	(27.3)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	両面自然面。 抉りなし。
724	打製石庖丁	8区 包含層	(5.1)	(3.4)	(0.8)	(23.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
725	打製石庖丁	8区 包含層	(4.7)	(3.6)	(0.5)	(15.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
726	打製石庖丁	11区 包含層	(5.8)	(3.3)	(0.8)	(18.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	抉りなし。
727	石鎌(?)	SD1007 覆土混入	10.3	3.0	0.5	20.5	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	抉りは擦り込んだもの。
728	石鋸	7区 包含層	(7.85)	(4.6)	(1.0)	(44.0)	欠損	結晶片岩 (石英片岩)	石庖丁状に成形した刃部を、鋸様に使用したものか。点線矢印にて図示した部分は、磨滅して滑らかとなる。
729	石鋸	11区 包含層	(5.8)	(4.2)	(1.0)	(44.0)	欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	折損した剝片の縁辺部を、鋸の様に使用したものか。点線矢印の間の縁辺、磨滅して滑らかとなる。
730	柱状片刃石斧	1区 排土	11.6	3.0	2.8	175	完存	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部を中心にほぼ全面研磨、基部付近は剝離面をそのままのこす部分あり。
731	柱状片刃石斧	9区 排土	(3.9)	2.8	3.4	(350)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	自然の棒状礫を利用。全面敲打による成形。刃部を中心とした全面研磨。敲打痕を多くのこす。 抉り部分は明確ではないが、筋状の敲打痕を多くのこし、意識されている。
732	柱状片刃石斧	4区 L-12 包含層	(12.0)	2.7	4.0	(268)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	成形後、粗いが、ほぼ全面研磨。
733	柱状片刃石斧	11区 包含層	(8.35)	2.0	(3.2)	(106)	刃部・基部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	柱状の自然石を利用、表裏面には研磨痕のこるが、側面は、自然面。
734	柱状片刃石斧	7区 包含層	(6.6)	(2.4)	(1.6)	(43.0)	基部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	表面のみ研磨により刃部形成。 他の面はまったく研磨なし、未製品か？
735	柱状片刃石斧	8区 SD1005 覆土混入	(9.7)	(2.3)	(4.2)	(270)	刃部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品。 方柱状の自然石の側面、正面、基部の各一部を研磨。
736	扁平片刃石斧	7区 U-20 包含層	(5.35)	3.85	1.0	(31.66)	基部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部と左側面、裏面の一部のみ研磨。 右側面自然面、左側面敲打による成形。
737	小型円柱状石斧	9区 包含層	7.8	2.4	0.8	27.43	完存(?)	結晶片岩 (緑色片岩)	未製品 両側面敲打による成形。 表面は自然面。裏面の刃部の一部を研磨。

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
738	小型扁平石斧	7区 盛土	4.3	1.8	0.8	(7.87)	一部欠損	結晶片岩 (緑色片岩)	刃部、側面を中心に研磨。表面は、自然面を研磨、裏面は剝離面の一部を研磨。
739	小型扁平石斧	9区 包含層	(2.95)	(2.3)	(0.55)	(4.21)	欠損	泥岩	刃部を中心に研磨。凹凸は残る。
740	太型蛤刃石斧	9区 盛土	(15.0)	7.3	4.5	(925)	刃部欠損	変ハンレイ岩	棒状の自然礫を敲打により整形ののち刃部を中心に研磨。身部は敲打痕を多数のこす。
741	叩石	2区 X-16 包含層	7.3	6.0	5.8	416	完存	ハンレイ岩	円礫利用。 ほぼ全面に粒状の敲打痕。

第35表　SA1002　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
742	土師質土器 片口鉢	P-10 覆土	口径31.0	体部は直線的にたちあがる。口縁部は肥厚し、端面は凹面に仕上げる。 片口が付く。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面ヨコ方向ナデとユビオサエ。 体部内面ヨコ方向ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	(内)浅黄橙 (外)にぶい黄橙	
743	土師質土器 脚部	P-10 覆土	脚部径3.2	断面円形。 基部わずかに屈曲、身部直線的。	ユビオサエ。 稜をなすタテ方向ナデ。	0.5～2㎜大砂粒含	淡黄	

第36表　SA1003　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
744	土師質土器 椀	P-5 覆土	口径12.9	体部は直線的にたちあがる。 口縁部はやや内彎。 端部まるくおさめる。	内外面ともヨコナデ。	0.5～1㎜大砂粒含 結晶片岩	灰白	
745	陶器 こね鉢	P-5 覆土	口径35.1	体部は直線的に外方にたちあがる。 口縁端部は上下に拡張し、端面はまるく仕上げる。 口縁端部外面に釉がかかる。	内外面ともヨコナデ。	1～2㎜ 大砂粒含	黄灰 (口縁部外面) 暗オリーブ灰	東播系

番号	器　種	地点 層位	法　量・備　考
746	陶硯	P-4 覆土	長さ　9.2cm　幅　6.6cm　厚さ　1.9cm　重量　180g　　瓦質。　　使用痕跡、明瞭にのこる。

第37表　SA1010　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
747	瓦質土器 椀	P-7 覆土	口径12.9 底径5.4 器高4.2	体部・口縁部やや内彎気味にたちあがる。 口縁端部はまるくおさめる。 断面方形状の低い高台。	底部回転糸切り。 貼付け高台ヨコナデ。 体部・口縁部ロクロナデ。 内面ハケともユビナデともみえる線条痕がタテ方向に観察できる。	砂粒をほとんど含まず。	灰白	香川・西村窯系？ 瓦質？土師質？

第38表　溝(中世)出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
748	土師質土器 皿	SD1006 覆土	底径8.2	内彎気味にたちあがる。	底面ヘラ切(?)のちナデ。 ヨコナデ。	1㎜以下の砂粒含	浅橙	
749	瓦質土器 鉢	SD1006 覆土	口径47.8	口縁端部は肥厚し、平坦におさめる。 端部わずかに垂下する。 小片復元のため口径は不明確。	内外面ともヨコナデ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	灰白	
750	土師質土器 杯	SD1010 覆土	口径12.2	外方に直線的にたちあがる体部。	ロクロナデ	1㎜大砂粒含 石英	にぶい橙	焼成良好、硬質。

第39表　土壙・土坑(中世)出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
751	土師質土器 小皿	SK1003 覆土	口径7.6 底径5.6	底面は平底。 口縁部内彎気味でやや不整。 端部はまるい。	底部糸切り。 他はロクロナデ。	0.5～1㎜大砂粒含 絹雲母	浅黄橙	
752	土師質土器 皿	SK1031 覆土	底径5.5	底面は平底。 口縁部は大きく外方にたちあがる。	底部は静止糸切り。 他はロクロナデ。	微砂粒含 絹雲母	浅黄橙	
753	瓦器 椀	SK1048 覆土	底径4.9	高台逆台形状。 体部は大きく外方にたちあがる。	体部・貼付高台部外面ヨコナデ。 底面ユビオサエ。 内面ナデ。 放射状のミガキを施す。	0.5～1㎜大砂粒含 石英	灰白	
754	土師質土器 小皿	SK1053 覆土	底径4.2	底面は平底を呈し、体部は大きく外方にたちあがる。	静止糸切り。 ロクロナデ。	0.5～1㎜大砂粒含 砂岩	にぶい橙	
755	土師質土器 擂鉢	SK1053 覆土	口径29.4	体部口縁部わずかに内彎。 口縁端部は凹面に仕上げる。 内面に5条(?)の櫛描条線。	内外面ともヨコナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	(外)浅黄橙 (内)橙	
756	土師質土器 鍋	SK1056 B 覆土	口径20.0	体部・口縁部は内彎。 口縁端部は凹面に仕上げる。	口縁端部、および内面はヨコナデ。 体部外面は多数のユビオサエ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	外面に煤付着
757	土師質土器 皿	SK1093 覆土	底径5.8	平底から、外方にたちあがる体部。	回転糸切り。 ナデ。	1～2㎜ 大砂粒含	浅橙	
758	瓦器 椀	SK1106 覆土	底径6.0	高台断面方形状で低い。	内外面ともヨコナデ。	1㎜大砂粒含 石英	灰白	
759	土師質土器 脚部	SK1106 覆土		断面ほぼ円形。 基部大きく屈曲。 身部直線的。	全体にタテ方向に板ナデ。 稜をもつ。	1～2㎜ 大砂粒含 石英 結晶片岩	浅赤橙	
760	青磁 椀	SK1156 覆土	底径6.9	高台を有す。 内面の底面平面的で、体部は内彎気味にたちあがる。	釉厚0.4㎜程度。 底面高台内は釉薬なし。	密。	オリーブ灰	

第40表　柱穴・小穴(中世)出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
761	瓦器 椀	SP1181 覆土	口径14.2	内彎して外方にたちあがる体部。 口縁端部はまるくおさめる。	内外面ヨコナデ。 外面にはナデによる稜のこる。	0.5～1㎜大砂粒少含 石英	(内)灰白 (外)灰	
762	瓦器 椀	SP1181 覆土	口径15.0	内彎して外方にたちあがる体部、口縁端部はまるくおさめる。	内外面ヨコナデ。	ほとんど砂粒含まず。	灰黄褐	
763	瓦器 椀	SP1342 覆土	口径17.1	内彎気味にたちあがる。	ナデ。 外面にユビオサエ、のちナデ消す。	ほとんど砂粒含まず。	灰白	
764	土師質土器 羽釜	SP1485 覆土	口径30.2	体部・口縁部は直線的。 口縁端部は尖り気味にまるくおさめる。 断面方形状の鍔は水平。	口縁部内外面、鍔部はヨコナデ。口縁部を付ける。 体部外面はユビオサエ、内面はヨコナデ。	1～3㎜大砂粒含 石英 黒雲母	橙	搬入品(?)
765	瓦器 椀	SP1494 覆土	口径3.4	高台断面方形状で低い。	内外面ヨコナデ。	砂粒ほとんど含まず。	灰	
766	土師質土器 小皿	SP1494 覆土	口径6.6 底径5.8 器高1.2	口縁部わずかに内彎。 口縁端部はまるくおさめる。	底面糸切り。 内外面ロクロナデ。	0.5～1㎜大砂粒含 石英	にぶい橙	
767	土師質土器 椀	SP1055 覆土	口径11.8	体部直線的に外方にたちあがる。口縁部やや内彎。 端部はまるく仕上げる。	外面ヨコナデ。 内面ナデ。	砂粒をわずかに含	灰白	
768	土師質土器 椀	SP1113 覆土	口径12.9	体部・口縁部とも直線的にたちあがる。 端部まるくおさめる。	内外面ともにヨコナデ。	1～2㎜大砂粒含 石英	淡橙	
769	土師質土器 小皿	SP1535 覆土	口径7.0 底径5.5 器高0.9	外彎気味にたちあがる。	底面、ヘラ切り(?)。 内外面、ヨコナデ。	微砂粒含	浅黄橙	

第41表　遺物包含層等出土遺物(中世)観察表

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
770	土師質土器 皿	7区 VW-21・22 包含層	底径7.6 器高1.5	底面から外彎してたちあがる。 口縁端部はやや肥厚し、まるくおさめる。	底面回転ヘラ切りのちナデ。 ロクロナデ。	1㎜大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
771	土師質土器 皿	7区 VW-21・22 包含層	口径10.4 底径6.2 器高1.3	外彎してたちあがる。 口縁端部は、あいまいにおさめる。	底面回転ヘラ切り。回転ヨコナデ。	1～3㎜大砂粒含	橙	
772	土師質土器 皿	7区 AA-24 包含層	口径13.2 底径9.1 器高1.6	平底から、口縁部へ外彎してたちあがる。 口縁端部はまるくおさめる。	回転ヘラ切り。 ロクロナデ痕跡をのこす。	0.5～1㎜大砂粒含	橙	
773	土師質土器 皿	7区 包含層	口径12.9 底径8.9 器高2.2	平底から、ややくびれて直線的に外方にたちあがる。 ナデによる稜明瞭。	回転ヘラ切り。 ロクロナデ。	0.5～2㎜大砂粒含 石英 絹雲母	橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
774	土師質土器 皿	7区 SB1004 覆土混入	底径6.9	底面は平底を呈し、体部はややくびれて大きく外方にたちあがる。	回転ヘラ切り。 内外面ともロクロナデ。	1㎜大砂粒含	(内)浅黄橙 (外)淡橙	
775	土師質土器 小皿	9区 包含層	口径6.6 底径3.9 器高1.4	平底から、内彎して外方にたちあがる体部。 口縁端部はまるくおさめる。	ヘラ切り。 ロクロナデ。	0.5～1㎜大砂粒含 石英	灰白	
776	土師質土器 小皿	2区 Z-18 包含層	口径9.4 底径7.9	底面は平底。口縁部はやや内彎。 端部はまるい。 皿面は、やや凹凸あり。	底部、静止糸切り。 底部以外はロクロナデ。	0.5～1.5㎜大砂粒少量含	浅黄橙	
777	瓦器 皿	2区 SB1001 覆土混入	口径9.0 底径6.5 器高1.6	底面は平底。体部は内彎してたちあがる。 口縁端部まるくおさめる。	体部口縁部内外面ヨコナデ。 底面ユビオサエ。 内外面、ヨコナデ後ミガキを施す。	1㎜大砂粒少量含 石英	灰	和泉型 瓦器皿
778	土師質土器 椀	2区 包含層	口径13.4	体部直線的に外方にたちあがる。口縁部わずかに内彎。端部はまるく仕上げる。	内外面ともヨコナデ。	微砂粒含 石英	淡橙	内面炭素付着
779	瓦器 椀	2区 Z-18 包含層	口径15.8	内彎気味にたちあがる体部。 口縁部わずかに屈曲して、直線的。端部はまるくおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面ユビオサエ。 内面ナデのちミガキを施す。	1～2㎜大砂粒少量含 石英 チャート	青灰	
780	磁器 椀	4区 L-11 包含層	口径16.8	内彎気味にたちあがる体部。 口縁端部。 外面鎬蓮弁文を刻す。	全体にていねいなロクロナデ。 オリーブ灰色の釉を0.4㎜厚で内外面に施す。	密	オリーブ灰	龍泉窯系 青磁
781	磁器 椀	7区 包含層	口径14.4	内彎して外方にたちあがる口縁部。 外面蓮弁の文様が認められる。	釉薬厚0.3㎜	密	緑灰	龍泉窯系 青磁
782	磁器 椀	7区 TU19・20 包含層	口径15.0	ほぼ直線的に外方にたちあがる。 内面2本の沈線で飛雲文(?)状の片彫り陰刻した文様が観察できる。	釉薬厚0.4㎜	密	明緑灰	龍泉窯系 青磁
783	施釉陶器 皿	3区 T-22 包含層	底径4.9	断面方形の高台は底面の内側に付く。 体部はやや内彎気味に大きく外方にたちあがる。 内外面施釉、白で絵柄を描くがモチーフは不明。	高台削り出し。	砂粒少量含	釉色 灰オリーブ	唐津焼
784	土師質土器 鍋	7区 U-20 包含層	口径19.7	体部・口縁部はやや内彎。 口縁端部やや拡張し、端面は凹面に仕上げる。	口縁端部、内面はヨコナデ。 体部外面は粗いタテハケと多数のユビオサエ。	0.5～3㎜大砂粒含	橙	外面煤付着
785	土師質土器 鍋	7区 包含層	口径18.5	体部・口縁部やや内彎。 口縁端部外方にやや拡張し、端面は凹面に仕上げる。	口縁部端面、体部内面ヨコナデ。 体部外面ユビオサエ・ナデ。	1～4㎜大砂粒含 石英	(内)浅黄橙 (外)にぶい黄褐	外面、口縁端部に煤付着。
786	土師質土器 脚部	7区 U-20 包含層		断面楕円形。内側面は広い平坦面をもつ。 身部は直線的で先端部は平坦におさめる。	ユビオサエ、板ナデ、稜をもつ。	0.5～1㎜大砂粒含 石英 結晶片岩	橙	

番号	器　種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技　法	胎土	色調	備考
787	土師質土器 脚部	7区 U-20 包含層		断面円形。 身部直線的で、先端部はまるくおさめる。	ユビオサエ・ナデ。	1～3㎜ 大砂粒含 結晶片岩 石英	橙	
788	陶器 擂鉢	7区 包含層	口径29.5	体部わずかに外彎気味。 口縁部は上下に大きく拡張し、わずかに内傾気味。体部内面に8条単位の櫛描条線。	内外面ロクロナデ。	1～3㎜ 大砂粒含	黒褐	備前焼
789	陶器 擂鉢	7区 包含層	口径33.4	体部わずかに外彎気味。口縁部は、上下に大きく拡張し直立する。 体部内面の櫛描条線は、4条まで確認できる。	内外面ロクロナデ。	1～4㎜ 大砂粒含	褐灰	備前焼
790	陶器 擂鉢	7区 包含層	口径33.4	体部外彎気味。 口縁部は上下に大きく拡張し、直立する。 体部内面の櫛描条線は4条まで確認できる。	内外面ロクロナデ。	1～5㎜ 大砂粒含 石英 泥岩	褐灰	備前焼
791	陶器 擂鉢	7区 撹乱	口径26.5	体部直線的。口縁部上下に拡張し屈曲して直立。 体部内面に4条単位の櫛描条線。	内外面ロクロナデ。	1～2㎜ 大砂粒含	赤	備前焼
792	須恵質土器 甕	2区 X-18 包含層	底径16.6	底面は平底を呈す。 体部は直線的に外方にたちあがる。	体部外面タテハケ。底面ナデ。 体部内面ナデを主とするが、底面近くにヨコナデ、やや上ったところに列状のユビオサエ。	0.5～1㎜大砂粒含 石英	灰色	

番号	器　種	地点 層位	法　量・備　考
793	鉄製品 紡錘車	2区 試掘⑮ 包含層	紡錘径　4.3cm　紡錘厚　0.4cm　軸径　0.5cm　軸長　(5.4) cm　重量　(32.4g) 鉄製　不良 うすい円盤の中心に断面円形の軸を付ける。
794	鉄製品 槍(?)	2区 試掘⑮ 包含層	長さ　(14.5) cm　幅　2.9cm　厚　0.4cm　重量　53.8g 鉄　不良 断面形が両刃形に観察される。
795	銅銭	2区 Z-18 包含層	径2.4cm 銅　良 「皇宋通宝」　初鋳年　宋 (1039)　真書体。

第42表　桜ノ岡遺跡(III)　出土遺物観察表

番号	器　種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	遺存 状態	石　材	特徴・備考
1	細石刃	1・2層	1.8	0.91	0.22	0.33	完存	チャート (緑灰)	
2	楔形石器	〃	2.3	0.95	0.7	1.8	——	波璃質安山岩	
3	剝片	〃	1.6	2.4	0.4	1.91	——	サヌカイト	
4	剝片	〃	2.1	3.8	0.5	4.15	——	サヌカイト	
5	小型円柱状石斧	2層	11.0	2.8	0.7	33.2	完存	粘板岩	縁辺敲打による成形。刃部中心に研磨。

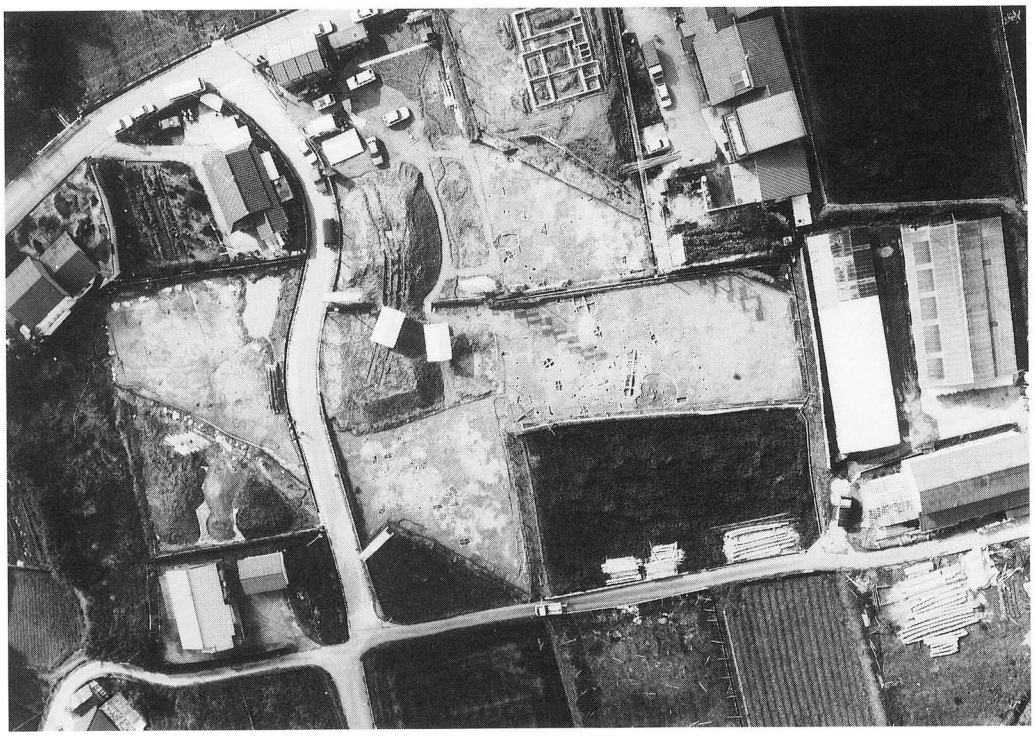
桜ノ岡遺跡（Ⅰ）（Ⅲ）遠景（南より）

阿讃山脈中腹より遺跡所在地方面を望む

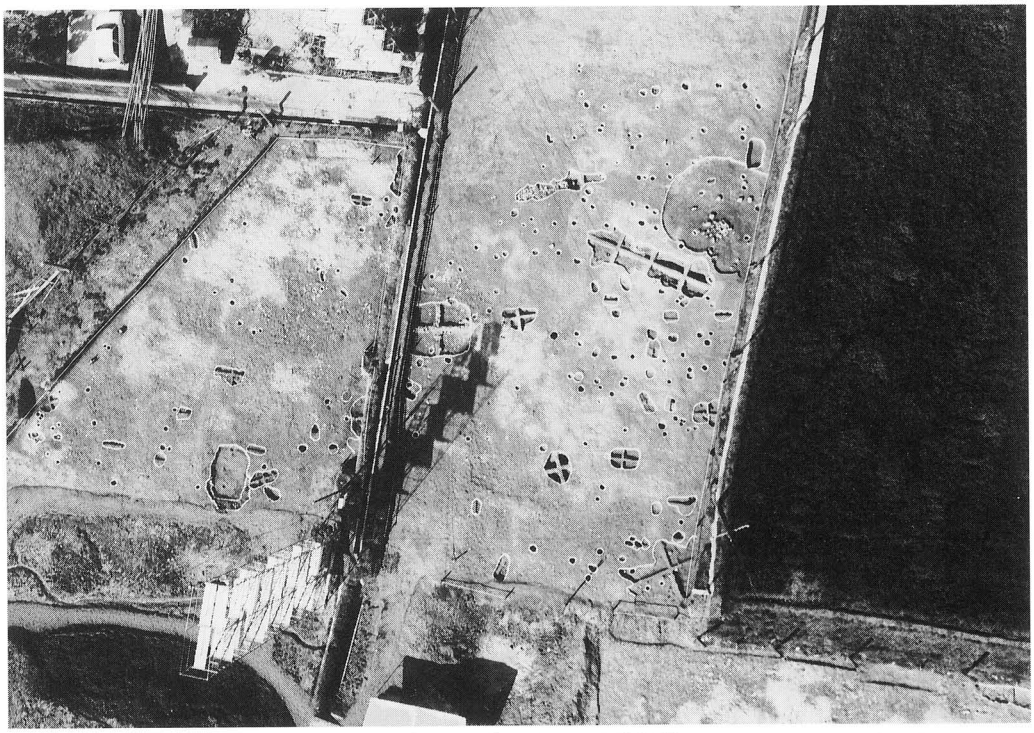
図版 2

桜ノ岡遺跡（Ⅰ）調査前状況（西より）

桜ノ岡遺跡（Ⅰ）調査前状況（南より）

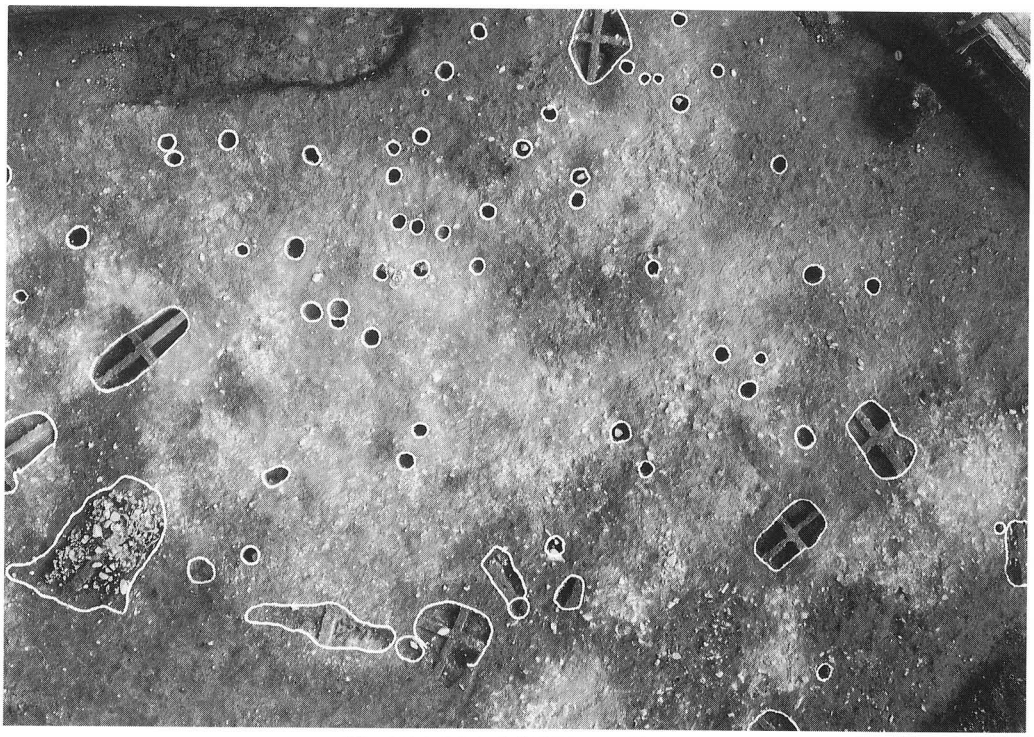


桜ノ岡遺跡（Ⅰ）１次調査全景



第１・２調査区掘り下げ状況

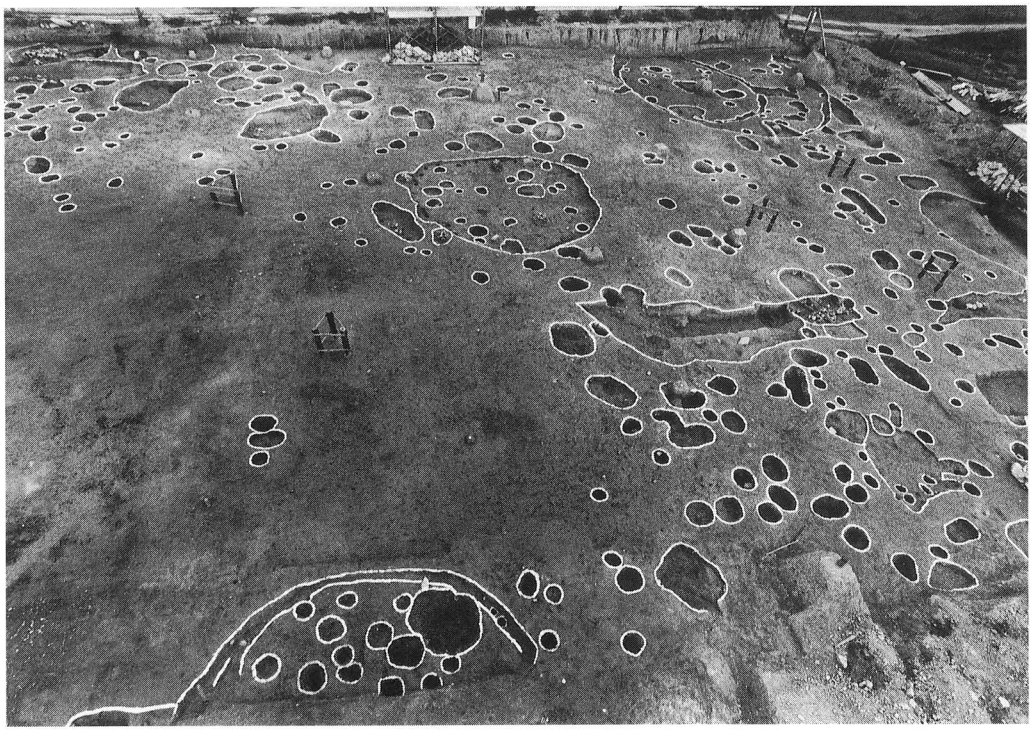
図版 4



第 3 調査区中央部掘り下げ状況

第 5 調査区完掘全景（東より）

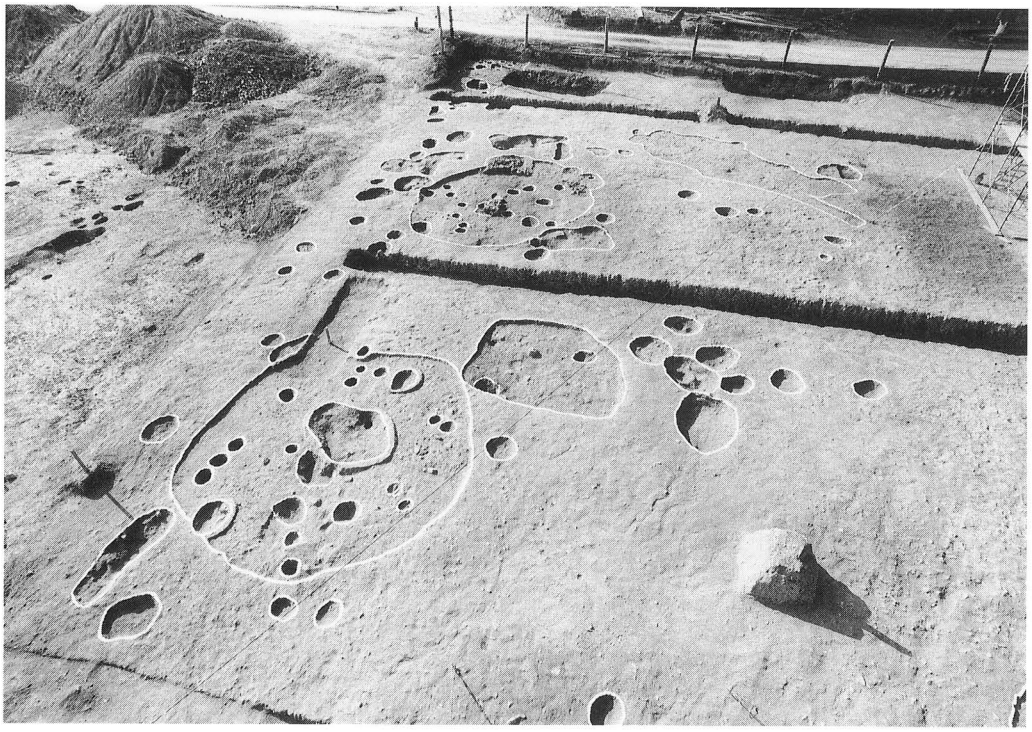
第 6 調査区完掘全景（北より）



第 7 調査区完掘全景（西より）

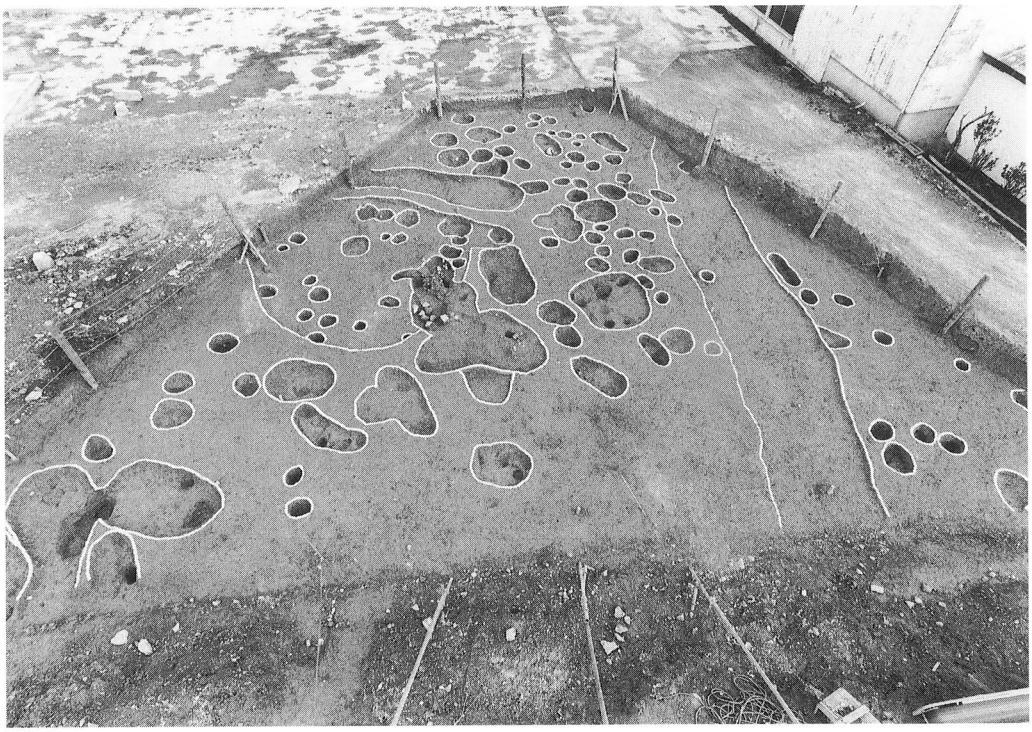
図版 6

第 8 調査区完掘全景（東より）



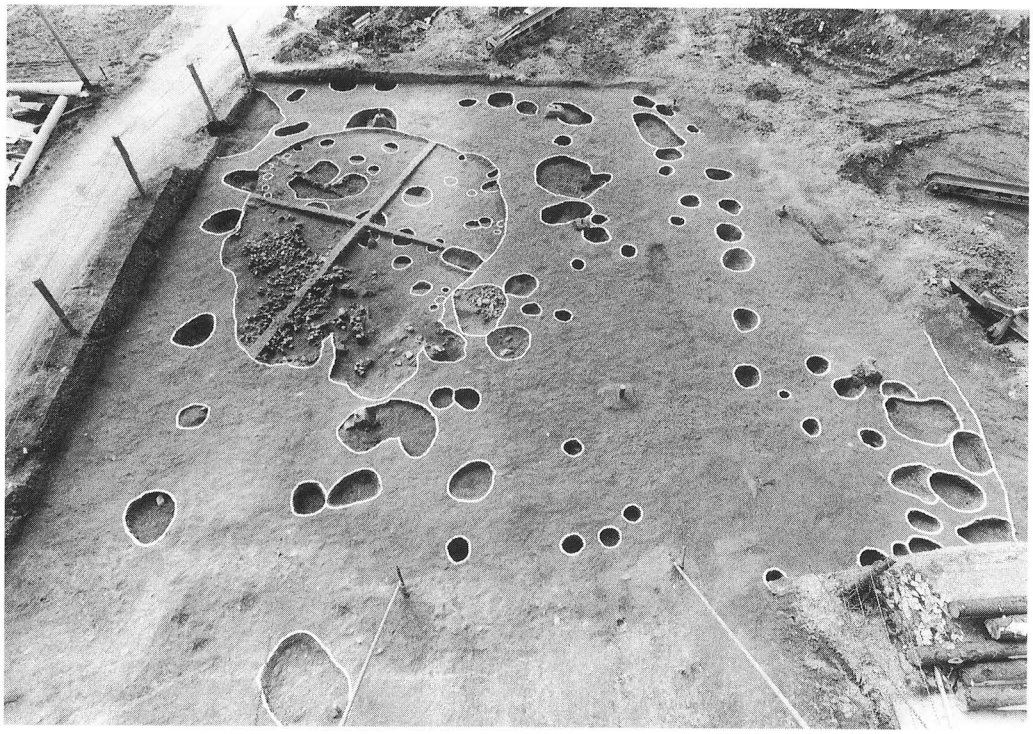
第 9 調査区完掘全景（東より）

第10調査区南半完掘全景（北より）



第11調査区西半完掘全景（南より）

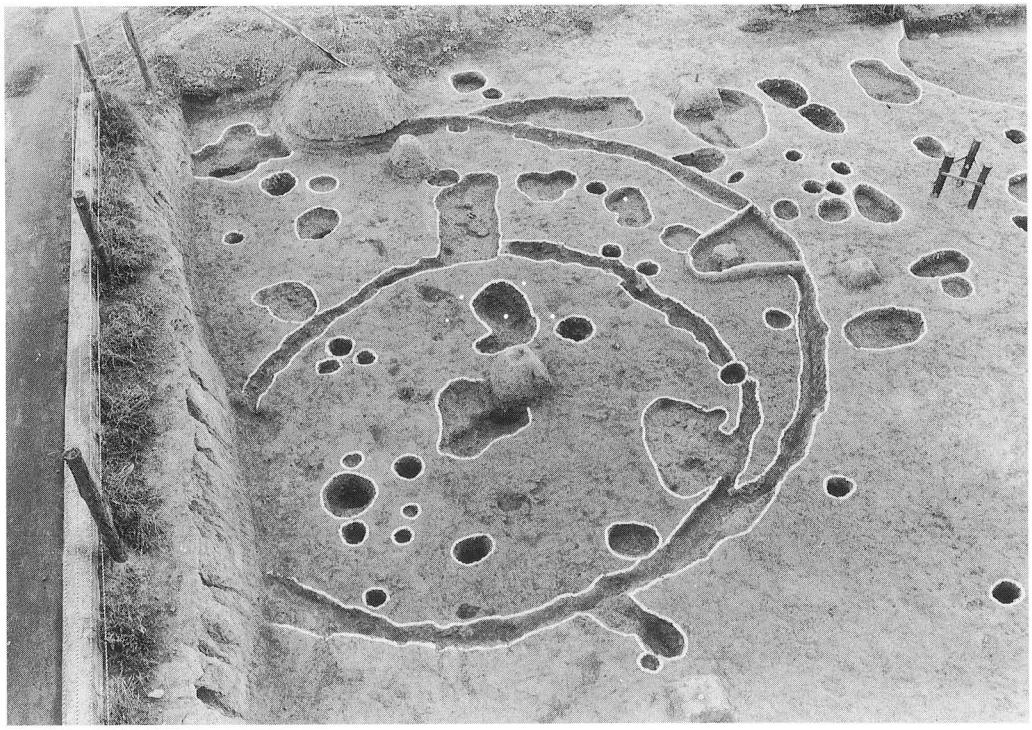
図版 8



第11調査区東半完掘全景（北より）

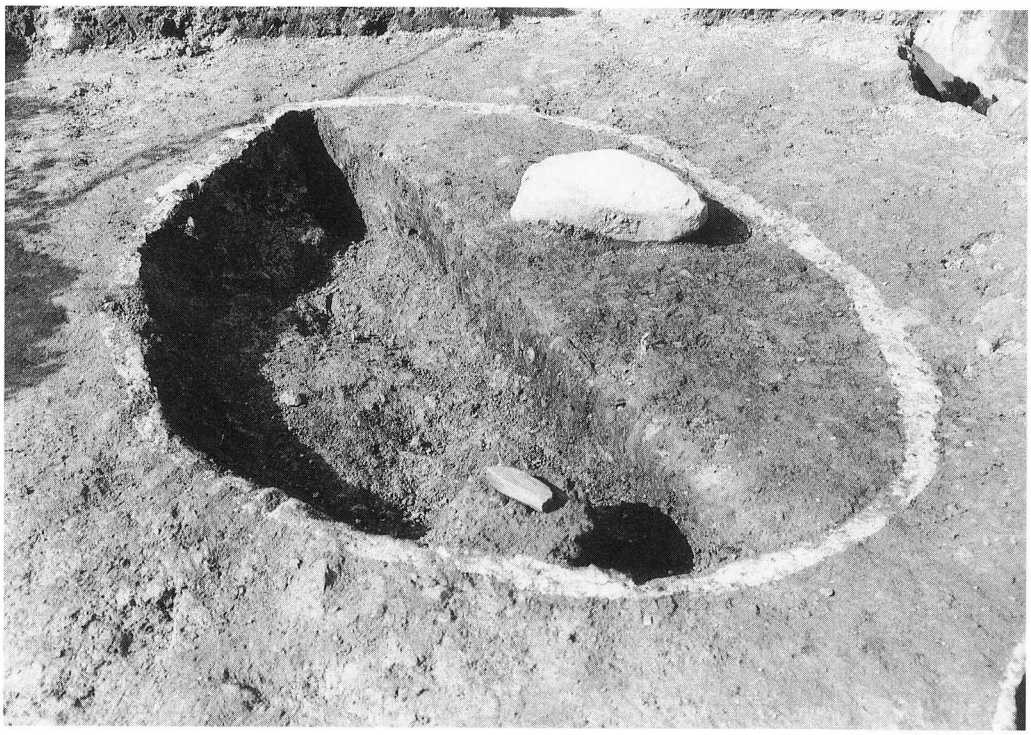
SB1001完掘状況（１次調査・北より）

SB1001内集石状況（北より）

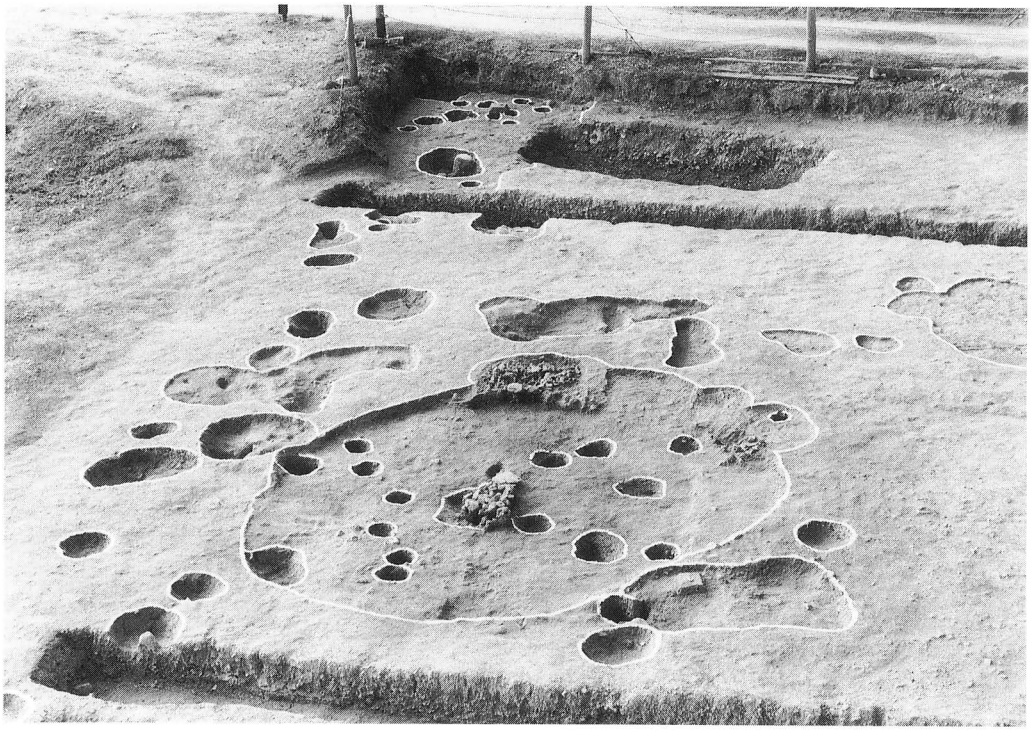


SB1004完掘状況（北より）

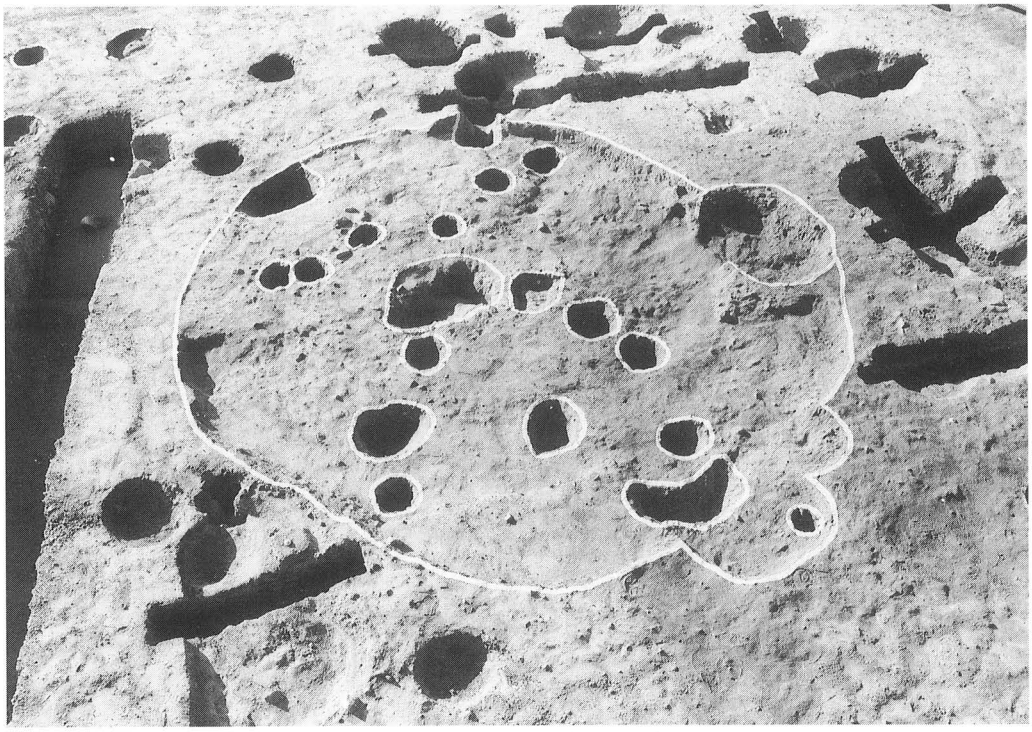
図版10



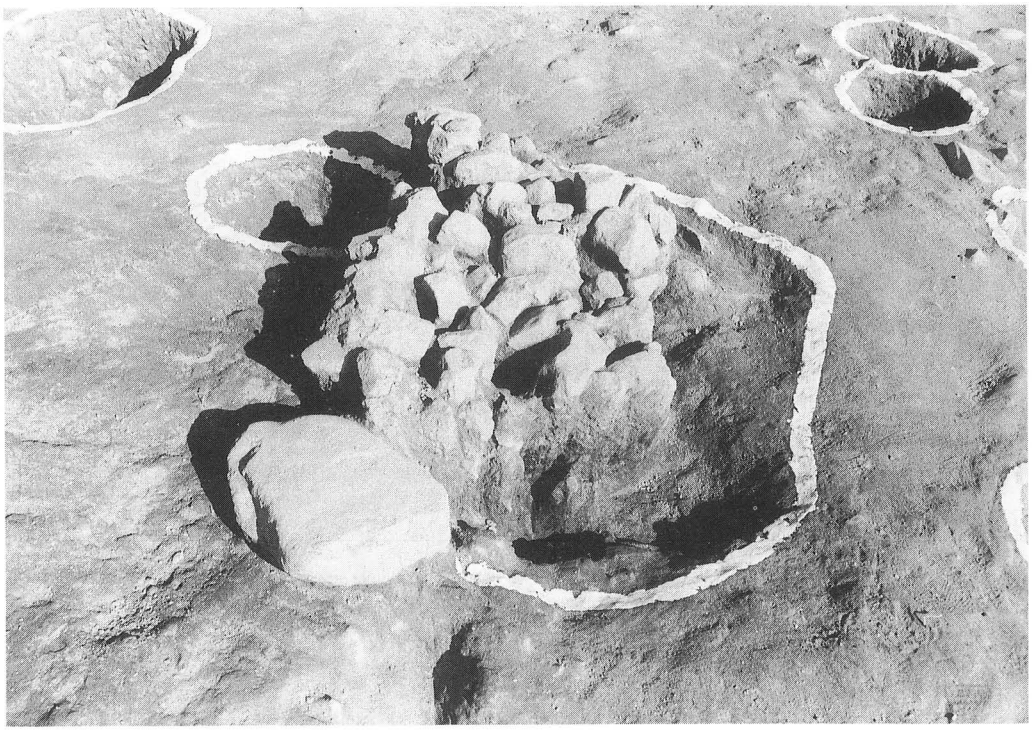
SB1005炉半掘状況（南東より）



SB1005・1006掘り下げ状況（東より）



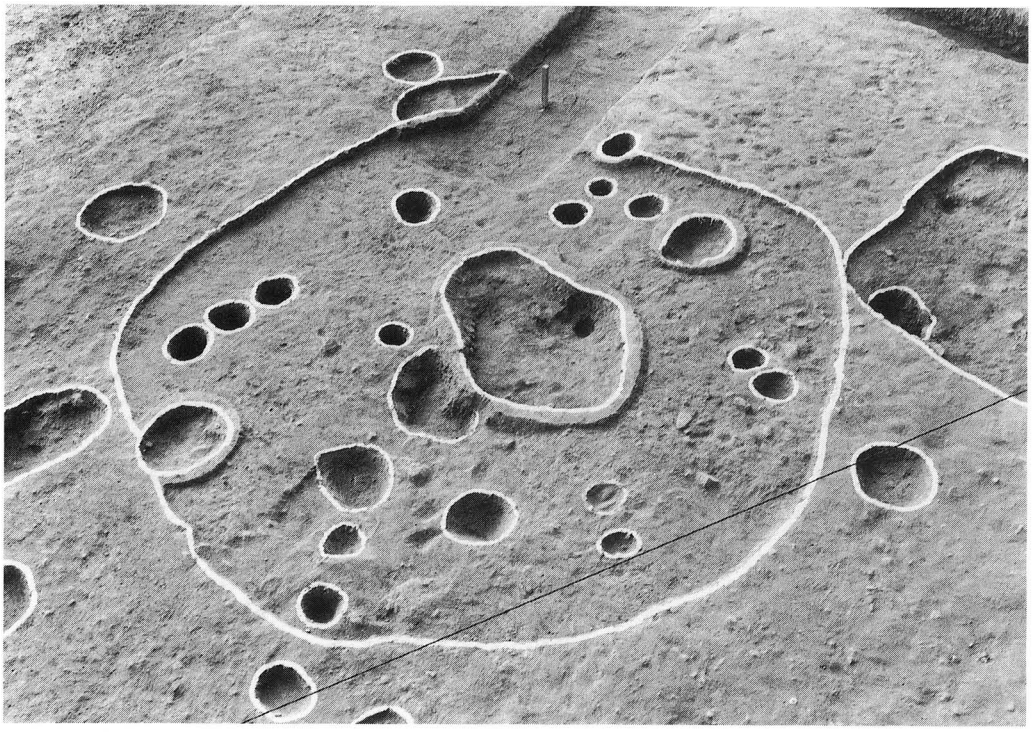
SB1006完堀状況（北より）



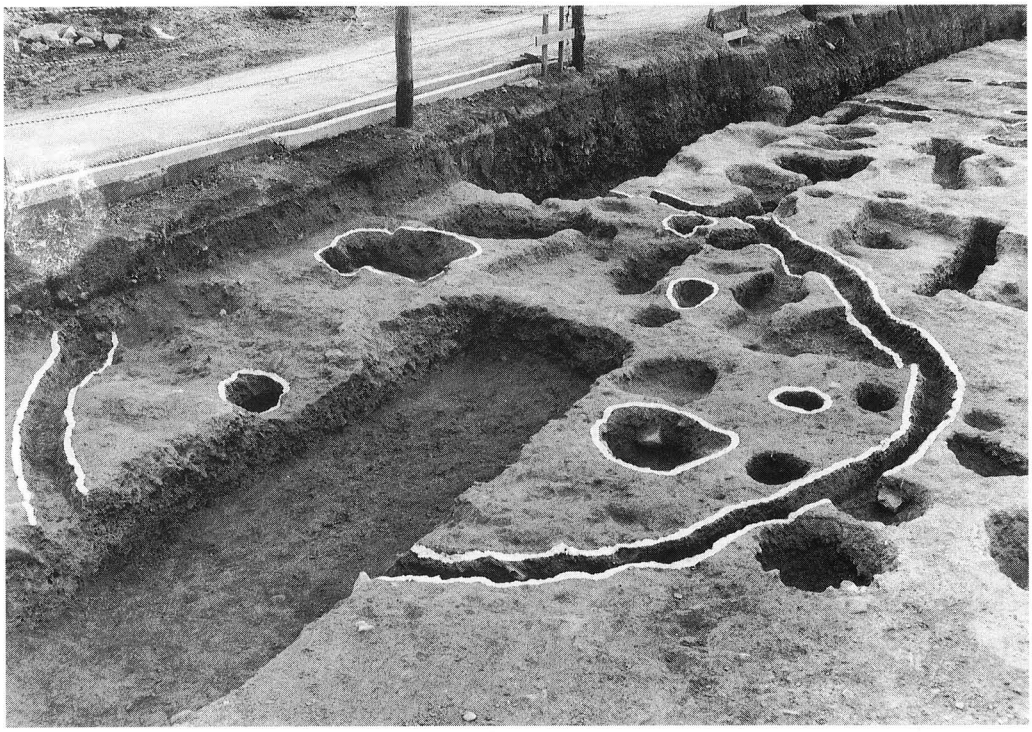
SB1006炉上集石状況（西より）

図版12

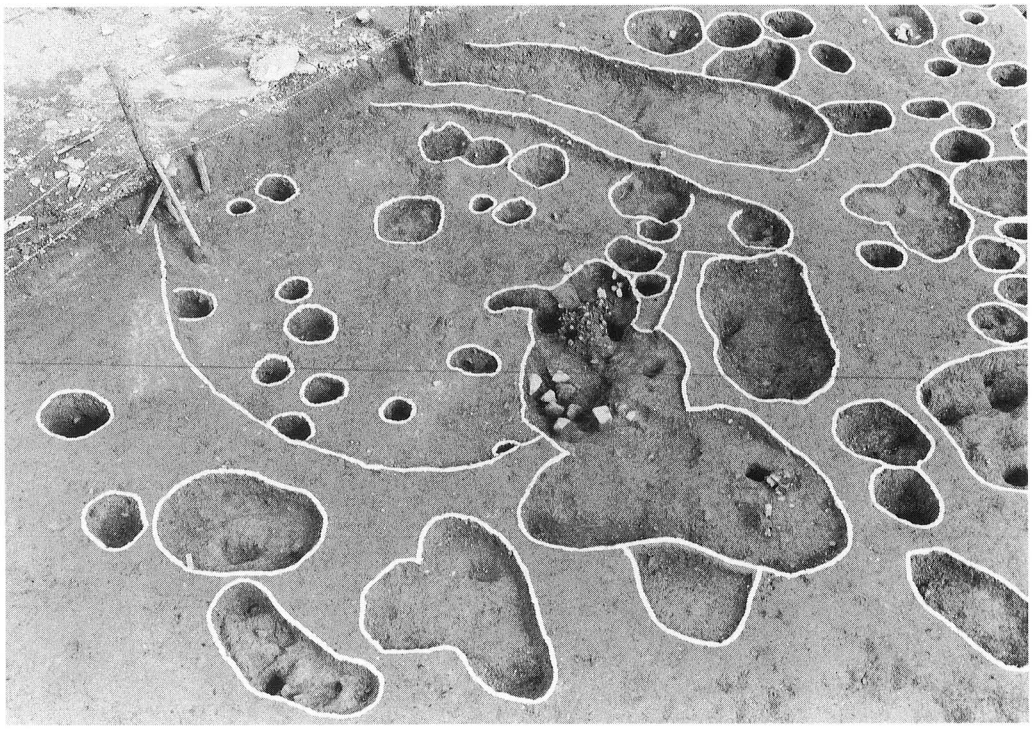
SB1006内小穴（Ｐ－８）土器出土状況



SB1007完掘状況（北より）

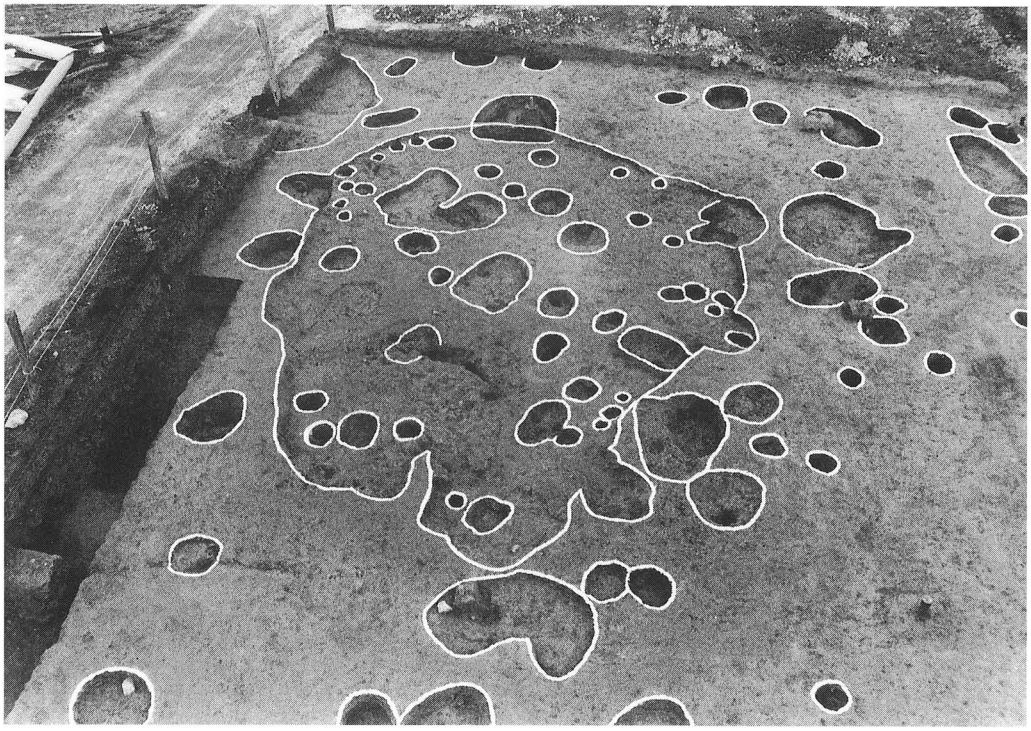


SB1008完掘状況（北西より）

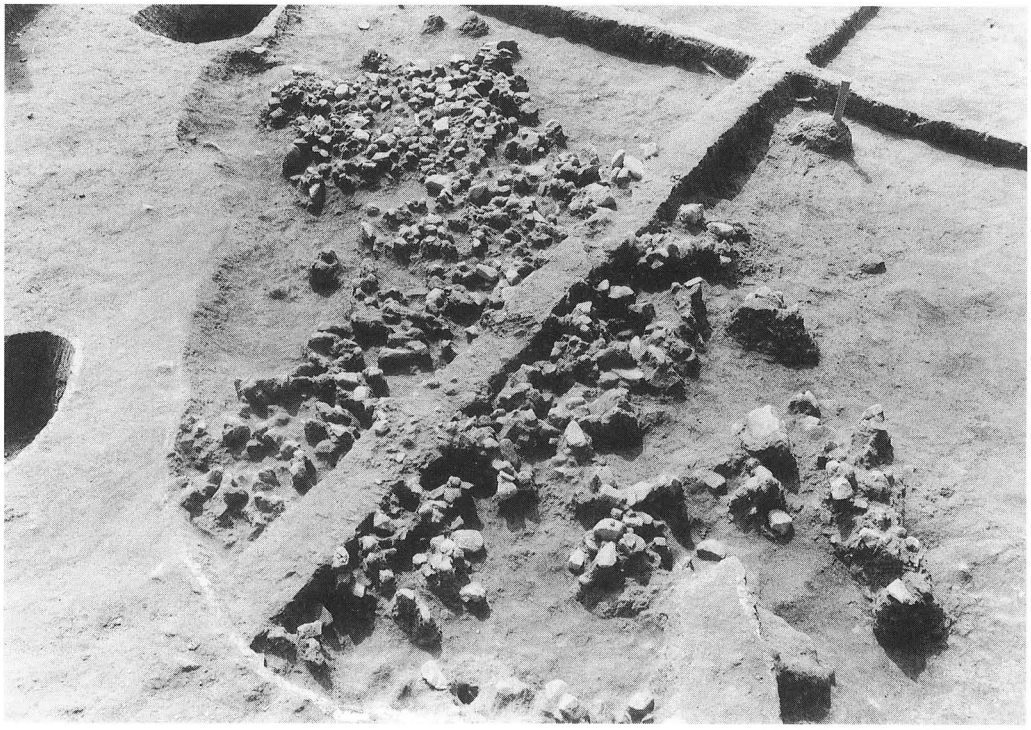


SB1009完掘状況（南東より）

図版14

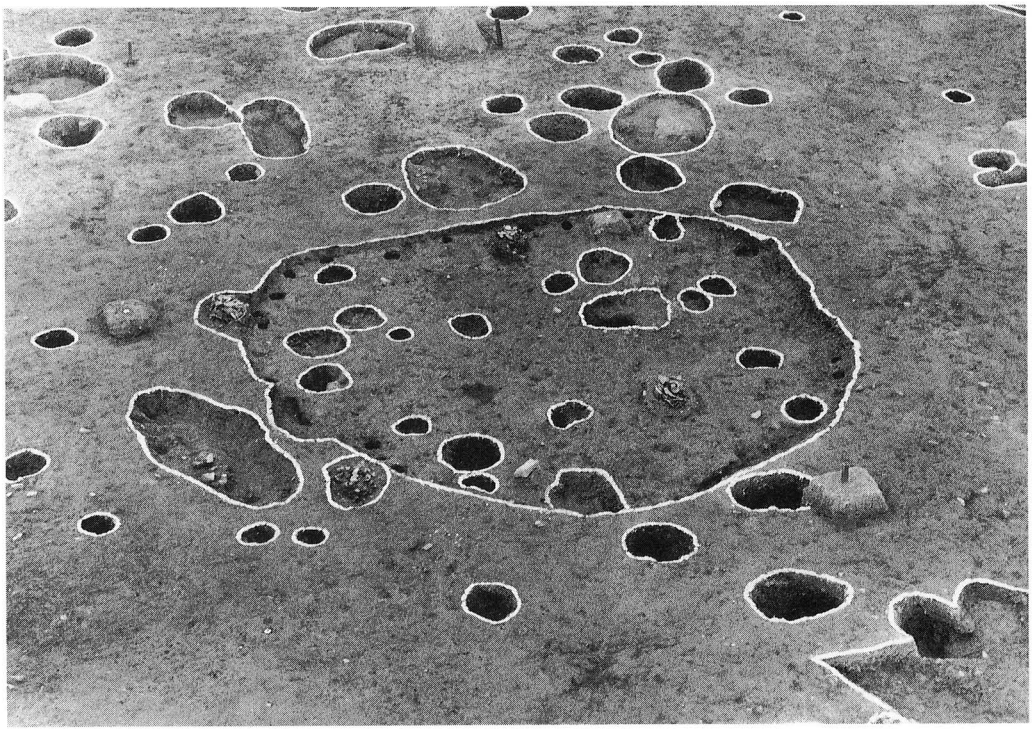


SB1010完掘状況（北より）



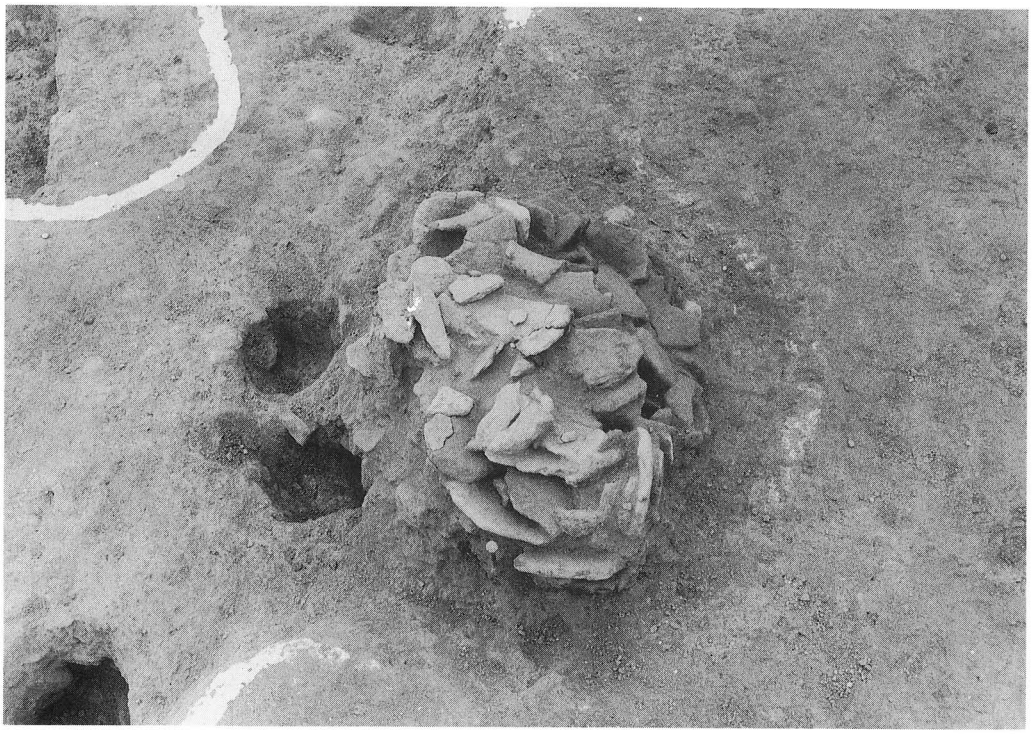
SB1010内集石状況（北より）

SB1011掘り下げ状況（西より）



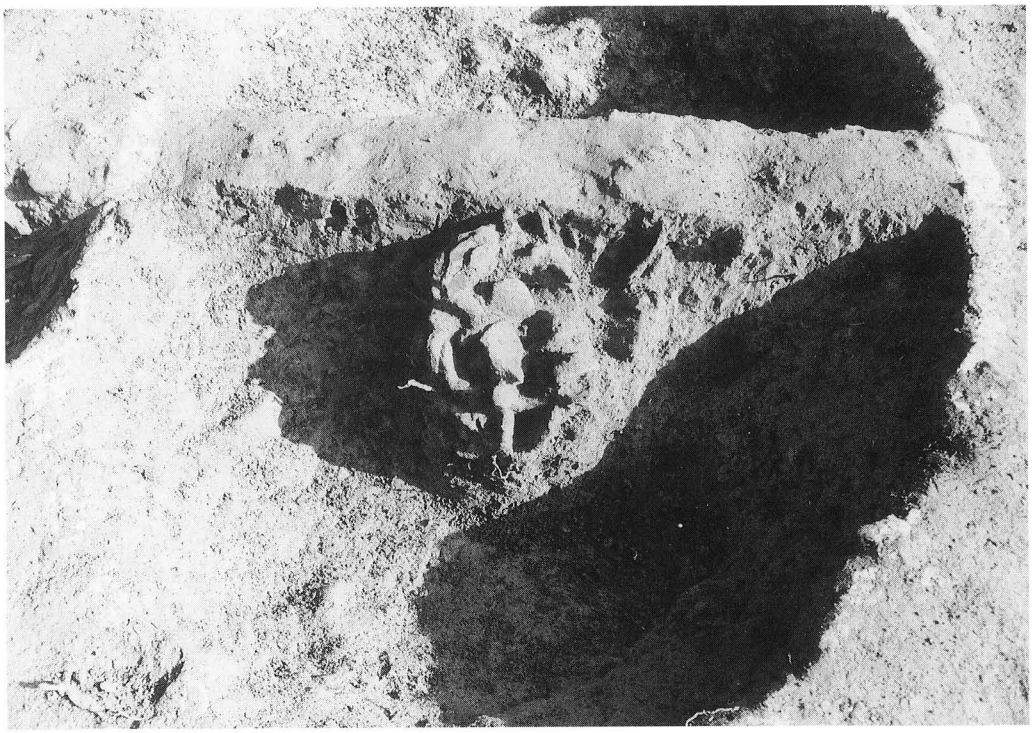
SB1003・SA2001掘り下げ状況（西より）

図版16

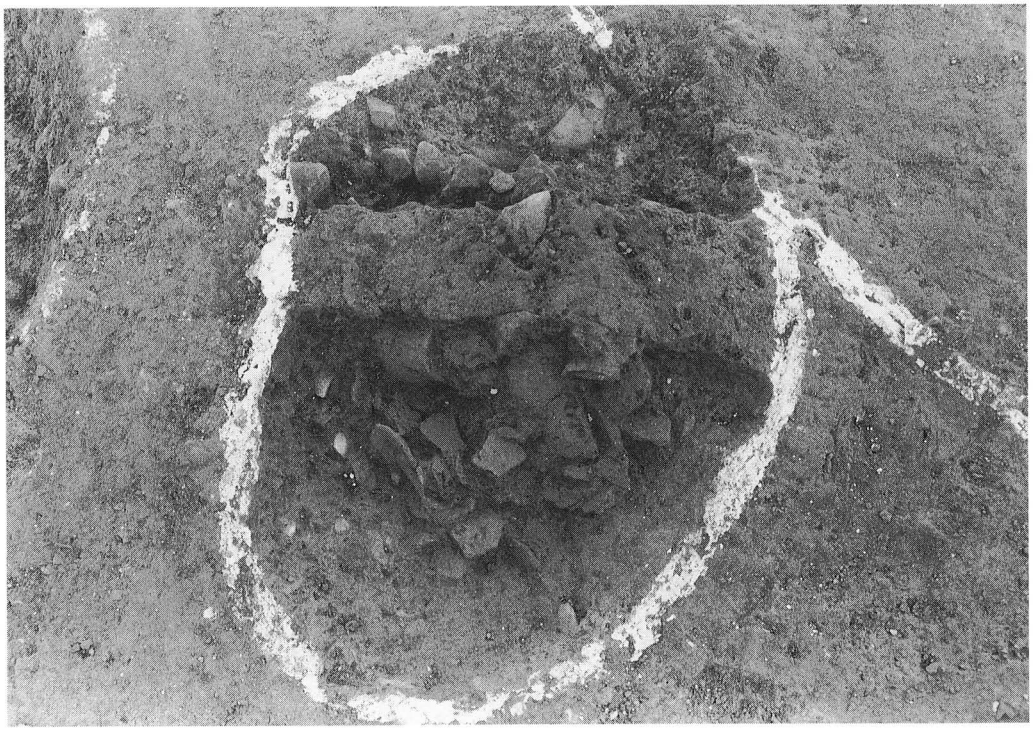


SA2001柱穴（Ｐ－１）上層土器出土状況（東より）

SA2001柱穴（Ｐ－１）下層土器出土状況（西より）



SA2001柱穴（Ｐ－２）土器出土状況（南より）

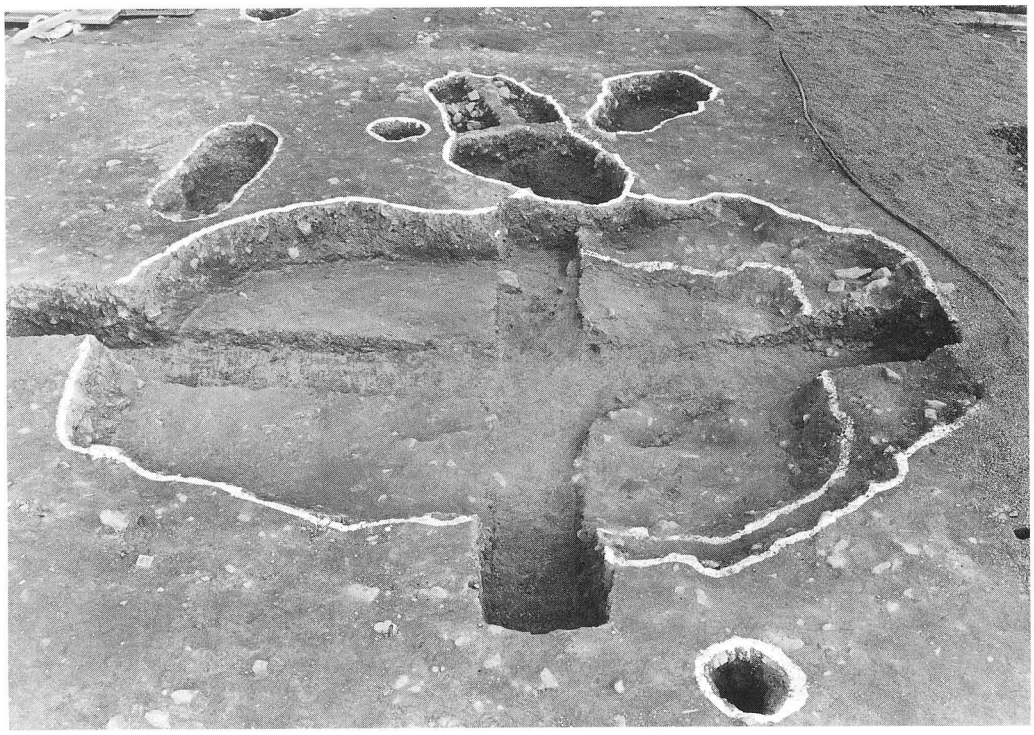


SA2001柱穴（Ｐ－４）土器出土状況（西より）

図版18

SK1008掘り下げ状況（北より）

SK1008北端炭化材出土状況（東より）

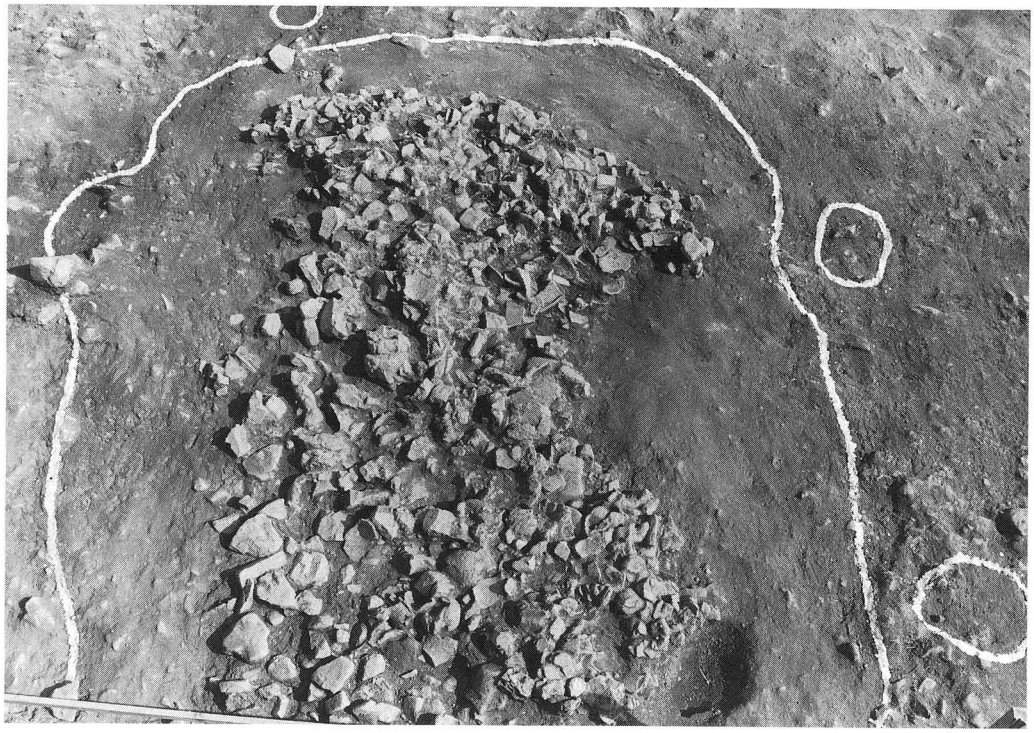


SK1008完掘状況（西より）

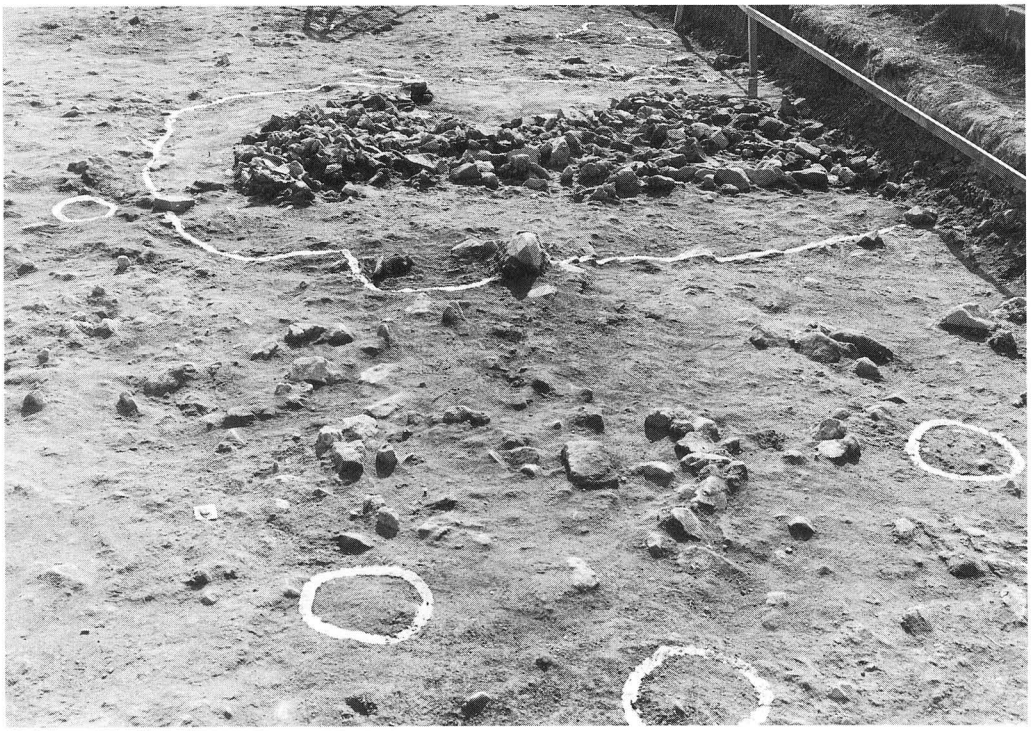
SK1014検出状況（西より）

図版20

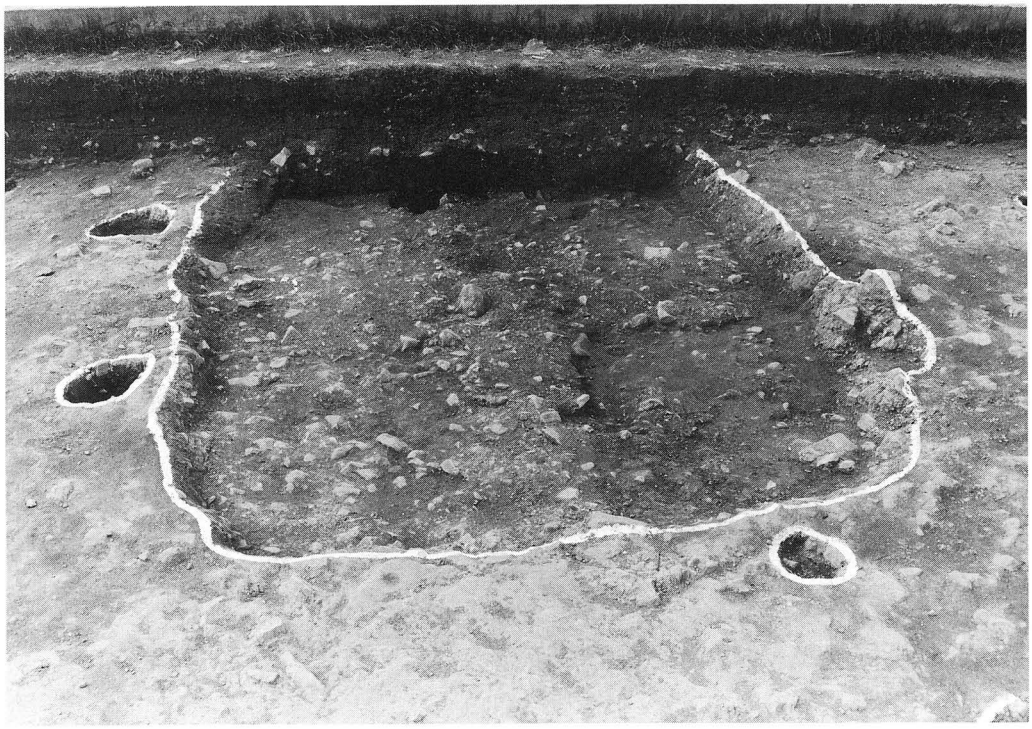
SK1014完掘状況（西より）



SK1016検出状況（西より）

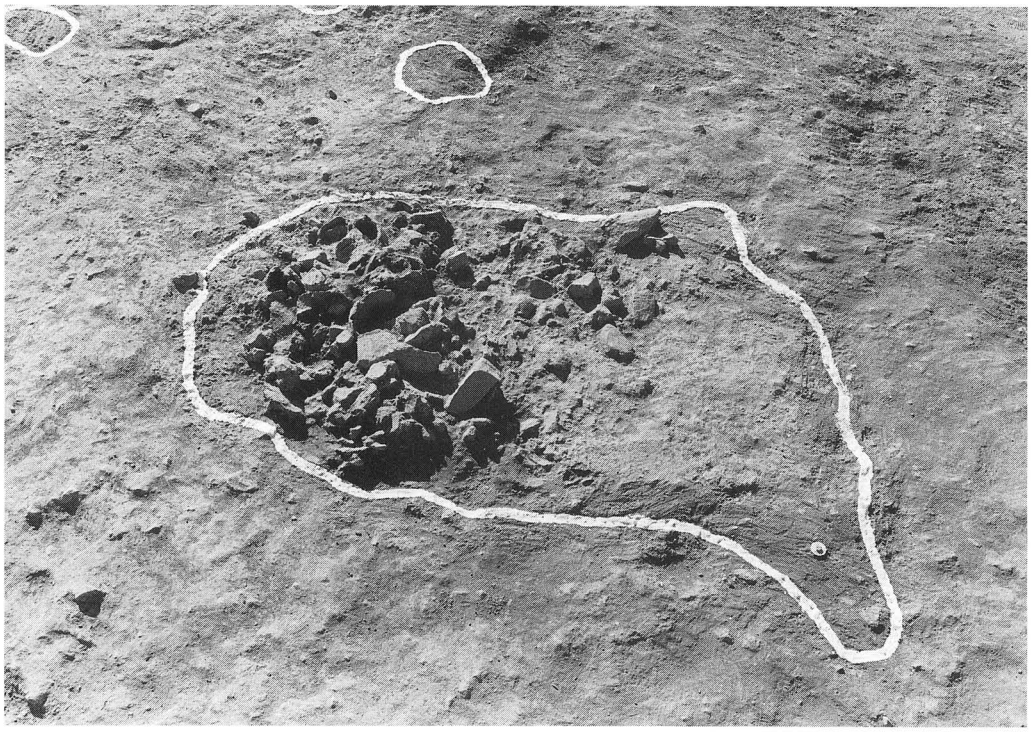


SK1016検出状況（北より）

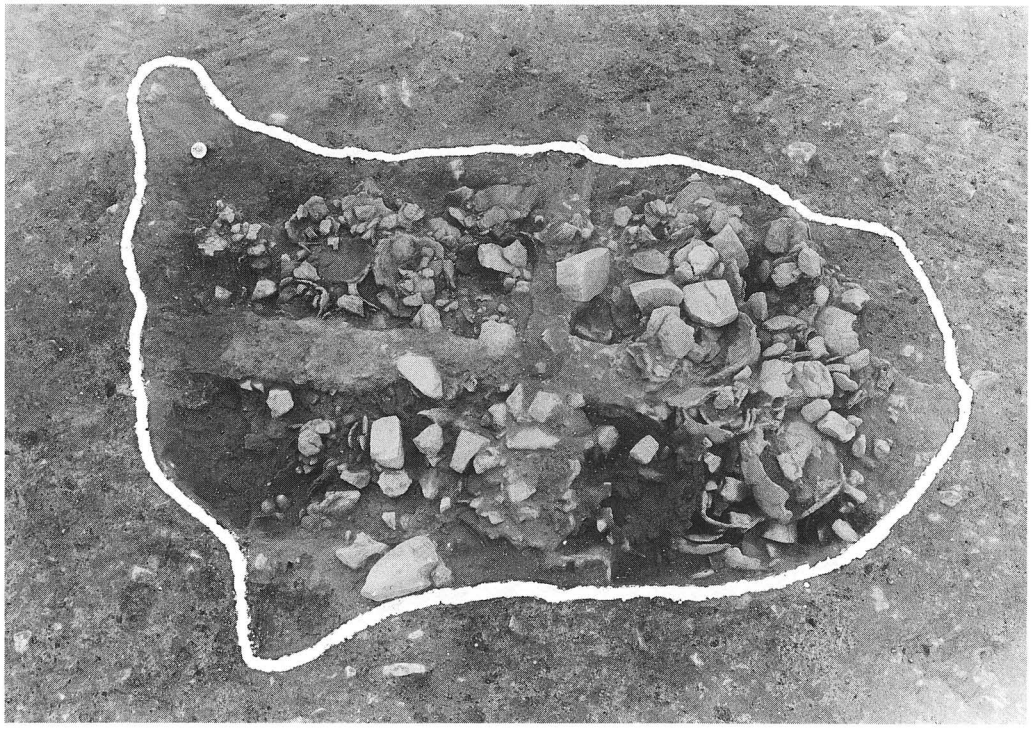


SK1016完掘状況（東より）

図版22



SK1039検出状況（東より）

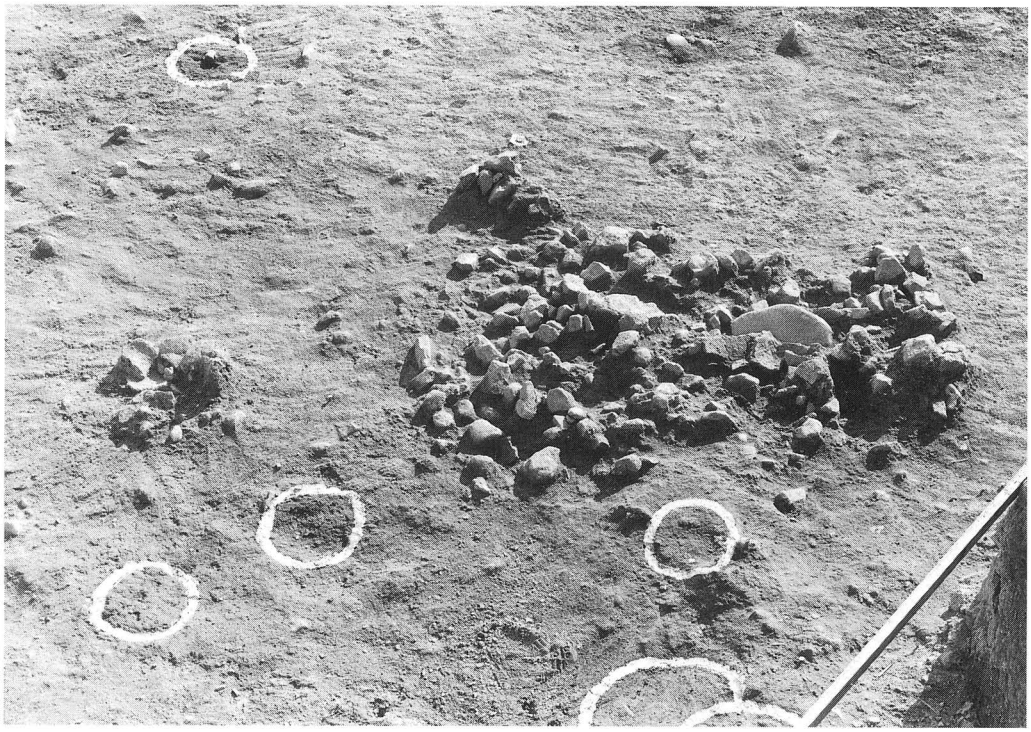


SK1039掘り下げ状況（西より）

SK1039土器・石器出土状況（南より）

SK1039完掘状況（北より）

図版24



SK1049検出状況（北より）

SK1049A坑掘り下げ状況（北西より）